

R
332.2
J55

Ⓢ



0021951000

0021951-000

R332.2-J55ウ

東亞經濟現勢

実業往来社・編

実業往来社

昭和16年度版

昭和16

ADC

722
~~722~~

R
332.2
J55

紀元二千六百一年

昭和十六年度版



東亞經濟現勢



實業往來社發行

一
秋
日
法
題

秀
邦

東亞圖書公司

序

「東亞經濟現勢」は東亞共榮圏と同義語である。東亞共榮圏は繪に描いた牡丹餅ではない。これを現實化する裏打として一役を買った一面の理論と使命との一環に上梓されたのが本書である。

時間的にも、スペース的にも表題が大きい。鶏を割くに牛刀でなくして、鯨を割くに牛刀の感がないでもない。端的に核心を衝き、點睛を試みるだけでも莫大なる時間とスペースが要望される。この角度から本書を一讀されたい。

最初のプランでは、朝鮮、滿洲、臺灣、支那、さらに、蘭印、佛印の成員圏にまで筆を擴げ、東亞廣域經濟の全貌に及ぶはずであったが、與えられた時間と、スペースに限りがある。そればかりでなく、時局的にもいろ／＼な夾雜物が中間に現はれ、そのためにも展開を妨げられたのも否めない。こうした事情に鑑み、支那、南洋は一先づ十七年度版におあづけすることにした。

ところで、同人の編輯にあたって惱まれたのは、書いてゐるそばから客觀の主流が激變されたことである。せつかく書き上げて見ても活字になる頃には要をなさなくなつて終ふ。特に人事の移動、會社内容の轉換はあまりにもテンボの亂打であつた。

前者の方は不可抗力の範疇で容赦を蒙るとしても、後者の方はそれでは濟されない。かなり中庸指

摘に迷つた結果十五年度成績を標準位にすることが客観的妥當視されたので、同年上期の業績を適應に配列したことを一言附記してをきたい。

批評システムの方面から見れば、深刻なる叱りの言葉もあるものと思ふが、舞臺面の視野の廣いのと、テーマの變貌性に富んでゐることは、なんといつても手伽の代物である。むしろ數字的調査の基礎づけに周到なる検討を試みたが、現實把握に高い評價と配慮とが専ら拂はれてゐる東亞經濟なるものに對しては、構想の上にも指導性を先驅せしむる幾多の諸楔機を潜在せしめてゐる。これにたとひ一本たりとも軌跡することに成功したとすればこれ以上の欣びはない。

そも／＼同人の編輯創意と情熱とが資本觀念を超越し時局經濟文献の至上命令が最後の二頁にまで傾注され、さらに、脂粉を追放して素面で東亞經濟の胸倉に抱きついたことである。これは出版高次の意氣に比喩するものともいへやう。量よりも質に、徒らなる文字の羅列、過剰の形式表現を避けて内容の充實に懸命の努力をかたむけた點を聊なりとも買つてもらひたい。

だが、これを以て同人は成功凱歌を謳ふものではない。たとへ打つてもその一球はファールであつてヒットではない。第二の投球を規ふ強打、本壘への殺倒——それは昭和十七年度版の飛躍にありと應えてをきたい。

昭和十六年五月初夏

編者識す

東亞經濟現勢 主要目次

朝鮮之部

政經篇

農業資本發展時代	二	行政の構圖版	元
工業資本轉換時代	三	官廳の布石陣	三
歴代統監及政務總監年表	三	朝鮮總督府機構概表	三
財政と教育	二	道、府、邑面の概貌	三
京畿道	元	慶尙南道	四
忠清南道	三	忠清北道	四
全羅北道	四	江原道	五
咸鏡北道	五	黄海道	五
平安北道	五	平安南道	五

産業篇

農業	六	林業	六
米穀	六	水産業	七
米と棉	六	鑛業	七
蠶	六	工業	九

商 業……………六

朝鮮の輸出入概況……………七

入港貿易船舶……………七

出港貿易船舶……………七

商工會議所の人的構成……………七

金融組合聯合會の機構……………八

經濟新體制と外地金融性……………八

朝鮮特銀の性格と普銀の分布成績……………八

朝鮮貯蓄銀行業績概況……………八

金融組合と聯合會……………八

會 社 篇

朝鮮銀行……………一三

朝鮮商業銀行……………一五

朝鮮火災海上保險株式會社……………一八

慶北無盡株式會社……………二〇

朝鮮中央無盡株式會社……………二三

朝鮮興業株式會社……………二七

金剛山電氣鐵道株式會社……………三〇

朝鮮汽船株式會社……………三三

朝鮮合同電氣株式會社……………三三

朝鮮電力株式會社……………三六

朝鮮無煙炭株式會社……………三九

中川鑛業株式會社……………四一

日本高周波重工業株式會社……………四七

弘中商工株式會社……………五〇

朝鮮殖産銀行……………一三

漢城銀行……………一六

朝鮮信託株式會社……………一八

釜山無盡株式會社……………二一

東洋拓殖株式會社……………二五

朝鮮鐵道株式會社……………二六

多獅島鐵道株式會社……………二九

朝鮮郵船株式會社……………三三

西鮮合同電氣株式會社……………三六

漢江水力電氣株式會社……………三九

朝鮮無煙炭鑛株式會社……………四一

朝鮮マグネサイト株式會社……………四四

朝鮮理研金屬株式會社……………四六

朝鮮機械製作所……………五〇

朝鮮貯蓄銀行……………一四

大邱商工銀行……………一七

咸北無盡株式會社……………一九

平南無盡株式會社……………二三

朝鮮開拓株式會社……………二六

京春鐵道株式會社……………二九

西鮮中央鐵道株式會社……………三三

朝鮮米穀倉庫株式會社……………三六

北鮮合同電氣株式會社……………三九

京城電氣株式會社……………四一

小林鑛業株式會社……………四四

朝鮮製鍊株式會社……………四六

朝鮮製鋼所……………四九

朝鮮重工業株式會社……………五一

國產自動車株式會社……………一五三

窒素肥料販賣株式會社……………一五五

朝鮮石油株式會社……………一五八

朝鮮紡績株式會社……………一六〇

南北綿業株式會社……………一六三

朝鮮製粉株式會社……………一六五

釜山水産株式會社……………一六八

朝鮮林業開發株式會社……………一七〇

日本硬質陶器株式會社……………一七三

龍山工作株式會社……………一五三

アサヒゴム株式會社……………一五五

立石商店……………一五八

朝鮮淺野セメント株式會社……………一六一

東亞蠶絲株式會社……………一六四

朝鮮麥酒株式會社……………一六六

朝鮮油脂株式會社……………一六九

親和木材株式會社……………一七一

親和貿易株式會社……………一七四

朝鮮窒素肥料株式會社……………一五三

朝鮮皮革株式會社……………一五五

北鮮製紙化學工業株式會社……………一五九

京城紡績株式會社……………一六二

日本穀産工業株式會社……………一六五

昭和麒麟麥酒株式會社……………一六八

協同油脂株式會社……………一七〇

新義州製材株式會社……………一七三

朝鮮都市經營株式會社……………一七五

滿 洲 之 部

政 經 篇

東亞共榮圈の意義と滿州國……………一〇

宮内府……………一〇

中央行政機構外貌……………一一

興安局……………一二

恩賞局……………一四

大同學院……………一五

民政部……………一六

經濟部……………一六

尙書府……………一〇

總務廳……………一二

審計局……………一三

大陸科學院……………一四

國立圖書館籌備處……………一六

司法部……………一七

交通部……………一八

創生の意欲と行政機構……………一八

參議府……………二一

外務局……………二三

營繕需品局……………二三

建國大學……………二五

治安部……………二七

興農部……………二九

協和會……………三〇

奉天省	吉林省	龍江省
熱河省	遼寧省	錦州省
安東省	黑龍江省	三江省
通化省	牡丹江省	東安省
北安省	興安省	興安省
興安省	興安省	興安省
關東省	大連市	興安省
吉林市	奉天市	興安省
本溪市	鞍山市	興安省
營口市	鐵嶺市	興安省
哈爾濱市	齊齊哈爾市	興安省
安東市	牡丹江市	興安省
早新市		興安省

産業篇

經濟新體制と滿洲産業の現状勢

金融部門

滿洲中央銀行の時局的役割

滿洲興業銀行の特性

滿洲國策會社の生誕意義

第二次増産と基礎産業の開發

滿鐵ヘゲモニーの陣容

滿洲重工業の發展機構

滿洲開拓國策と食糧問題

天恵の地表を誇る滿洲生産

勞動の育成と土健の成文化

會社篇

滿洲拓殖公社	大連株式商品取引所	滿洲證券取引所
東滿洲産業株式會社	滿洲航空株式會社	國際運輸株式會社
新京交通株式會社	奉天交通株式會社	大連都市交通株式會社
滿洲電信電話株式會社	滿洲電業株式會社	滿洲鴨綠江水力發電株式會社
滿洲炭礦株式會社	滿洲礦山株式會社	南滿礦業株式會社
本溪湖煤鐵公司	滿洲久保田鑄鐵管株式會社	日滿鋼材工業株式會社
滿洲工廠	滿洲鑄物株式會社	中山鋼業所
同和自動車工業株式會社	滿洲輕金屬工業株式會社	滿洲計器株式會社
滿洲電線株式會社	滿洲通信機株式會社	滿洲ベアリング製造株式會社
滿洲東京芝浦電氣株式會社	大連機械製作所	大連鐵工所
大連船渠鐵工株式會社	滿洲工作機械株式會社	滿洲進和商會
滿洲石油株式會社	日清製油株式會社	三泰油房株式會社
滿洲特産工業株式會社	滿洲日本ベイント株式會社	日滿パルプ製造株式會社
鴨綠江製紙株式會社	六合成造紙廠	安東造紙株式會社
滿洲特殊製紙株式會社	本溪湖洋灰株式會社	撫順セメント株式會社
滿洲セメント株式會社	滿洲淺野スレート株式會社	撫順窯業株式會社
滿洲紡績株式會社	東棉紡績株式會社	滿蒙毛織株式會社
滿洲日東製粉株式會社	康德製粉株式會社	日滿製粉株式會社
大同酒精株式會社	滿洲麥酒株式會社	亞細亞麥酒株式會社
哈爾濱麥酒株式會社	滿洲煙草株式會社	滿洲東亞煙草株式會社

滿洲林業株式會社	一五	鳴絳江製材合同株式會社	一五	無限製材株式會社	一六
滿洲生活必需品株式會社	一七	滿洲特產專管公社	一七	滿洲糧穀株式會社	一八
滿洲穀粉管理株式會社	一八	滿洲共同セメント株式會社	一九	滿洲大倉商事株式會社	一九
大信洋行	一九	福昌公司	一九	滿洲福昌公司	一九
進和商會	一九	日本洋紙株式會社	二〇	東亞三中井	二〇
滿洲房產株式會社	二〇	東亞土木企業株式會社	二〇	滿洲土地建物株式會社	二〇
大興公司	二〇	東裕公司	二〇	日滿漁業株式會社	二〇
大連製氷株式會社	二〇				

保險界の展望

明治生命保險株式會社	二〇	帝國生命保險株式會社	二〇	第一生命保險相互會社	二〇
日本生命保險株式會社	二〇	千代田生命保險相互會社	二〇	住友生命保險株式會社	二〇
三井生命保險株式會社	二〇	片倉生命保險株式會社	二〇	野村生命保險株式會社	二〇
富國徵兵保險相互會社	二〇	東京火災保險株式會社	二〇	東京海上火災保險株式會社	二〇
日產生命保險株式會社	二〇	神戶海上火災保險株式會社	二〇	日產火災保險株式會社	二〇

臺灣之部

政經篇

基地臺灣の性格	一	長谷川總督と齋藤總務長官	三
臺灣分布の今昔	三	行政機構の鳥瞰	一〇

總督官房	一〇	內務局	三	文教局	三
財務局	一五	殖産局	七	米穀局	九
警務局	二	交通局	三	專賣局	三
營林所	六				
州、廳、市の三面貌	元				
臺北州	元	新竹州	三	臺中州	三
臺南州	五	高雄州	三	臺東廳	三
花蓮港廳	四〇	澎湖廳	四	臺北廳	三
基隆市	四	新竹市	四	臺中市	四
彰化市	五	臺南市	五	嘉義市	五
高雄市	五	屏東市	五		

産業篇

官府の哺育と糖業の明日	五	米・糖併立主義の登場	六
-------------	---	------------	---

會社篇

大日本製糖株式會社	三	臺灣製糖株式會社	七	明治製糖株式會社	六
鹽水港製糖株式會社	九	新興製糖株式會社	八	臺東製糖株式會社	六
源成農場製糖部	三	臺灣拓殖株式會社	八	臺灣電力株式會社	六
臺灣瓦斯株式會社	六	瑞芳營林株式會社	九	東海自動車株式會社	六
臺中輕鐵株式會社	九	臺灣土地建物株式會社	九	打狗土地株式會社	六
臺灣倉庫株式會社	三	臺灣爆竹煙火株式會社	九	臺灣炭業株式會社	六

人物篇

朝鮮之部

- 香椎源太郎氏...一
- 伊藤壽一氏...二
- 伊藤明治氏...一
- 多田榮吉氏...三
- 今井賴次郎氏...一
- 藤原喜藏氏...三
- 御手洗辰雄氏...二
- 弘中良一氏...三

- 臺灣鐵工所...九
- 臺灣纖維工業株式會社...九
- 臺灣青果同業組合聯合會...一〇二
- 高雄州青果同業組合...一〇五
- 臺灣貯蓄銀行...一〇
- 華南銀行...二四
- 臺灣勸業無盡株式會社...二九
- 臺北信用組合...三三
- 稻江信用組合...三六
- 基隆庶民信用組合...三三
- 新竹共榮信用組合...二七
- 臺中協贊信用組合...二四
- 臺南信用組合...二五
- 臺南簡易興產信用組合...一九
- 興業信用組合...一五
- 臺灣製麻株式會社...九
- 臺灣合同鳳梨株式會社...一〇
- 臺中州青果同業組合...一〇三
- 大新商事株式會社...一〇六
- 臺灣商工銀行...二二
- 三和銀行三支店...二六
- 臺灣南部無盡株式會社...二〇
- 龍解信用組合...三三
- 基隆信用組合...三六
- 新竹信用組合...三三
- 臺中信用組合...二七
- 彰化同志信用組合...二四
- 臺南友信會...二五
- 嘉義商工信用組合...二五
- 屏東信用組合...一五
- 臺南製麻株式會社...九
- 臺灣青果株式會社...一〇
- 臺南州青果同業組合...一〇四
- 臺灣銀行...一〇七
- 彰化銀行...一〇三
- 大成火災保險株式會社...一七
- 大東信託株式會社...二二
- 臺北庶民信用組合...二六
- 基隆商工信用組合...三三
- 桃園信用組合...三五
- 臺中州興業信用組合...二四
- 臺南興信社...二四
- 臺南庶民信用組合...二六
- 高雄信用組合...三三

滿洲之部

- 上內彥策氏...四
- 林繁藏氏...六
- 追間房太郎氏...七
- 松本誠氏...九
- 佐々木駒之助氏...一〇
- 小林儀三郎氏...一一
- 齋藤久太郎氏...一二
- 立石良雄氏...一四
- 牟田吉之助氏...一六
- 谷多喜廣氏...一七
- 有賀光豐氏...一九
- 眞上復壽氏...二二
- 木村丑之助氏...二三
- 朴興植氏...二四
- 小倉武之助氏...四
- 堀正一氏...六
- 武者練三氏...八
- 芥川浩氏...九
- 池邊龍一氏...一〇
- 新田留次郎氏...一一
- 河合治三郎氏...一二
- 大島良士氏...一五
- 木村寬藏氏...一六
- 中村直三郎氏...一八
- 高橋省三氏...一九
- 西田常次郎氏...二二
- 賀田直治氏...二三
- 中野作樂氏...二四
- 韓相龍氏...五
- 井上清氏...七
- 吉田英三郎氏...八
- 田川常次郎氏...九
- 中澤正治氏...一一
- 野田薰吉氏...一二
- 萩原三郎氏...一四
- 大島義雄氏...一五
- 松本伊藏氏...一七
- 石原新三郎氏...一八
- 中村五郎氏...二〇
- 松野二平氏...二二
- 金丸直利氏...二三
- 玄俊鎬氏...二五
- 石川登盛氏...五
- 野口蓮氏...七
- 異儀田景樹氏...八
- 吉田秀次郎氏...九
- 林茂樹氏...一一
- 鹽川濟吉氏...一二
- 佐藤良三氏...一四
- 渡邊豐日子氏...一五
- 兒島高信氏...一七
- 古庄逸夫氏...一八
- 堤永市氏...二〇
- 矢鍋永三郎氏...二二
- 中山彌一郎氏...二三
- 萩原彦二氏...二五
- 佐々木謙一郎氏...七
- 伊澤道雄氏...八
- 太田雅夫氏...九
- 相田秀方氏...一〇
- 村上庄二郎氏...一一
- 川邊謙司氏...一二
- 大村卓一氏...四
- 高田友吉氏...六
- 平山復二郎氏...八
- 佐藤恕一氏...九
- 伴藤東氏...一〇
- 谷川善次郎氏...一二
- 武部六藏氏...七
- 久保孚氏...八
- 大垣研氏...九
- 猪子一到氏...一〇
- 西畑政倫氏...一二
- 相生常三郎氏...一四
- 佐々木謙一郎氏...七
- 伊澤道雄氏...八
- 太田雅夫氏...九
- 相田秀方氏...一〇
- 村上庄二郎氏...一一
- 川邊謙司氏...一二



臺灣之部

藤山愛一郎氏…六	赤司初太郎氏…六	益田太郎氏…六	後宮信太郎氏…六	相馬半治氏…六	加藤泰平氏…七	岡田幸三郎氏…六	林安繁氏…七										
小松稔介氏…七	高木陸郎氏…六	籠田定憲氏…六	明石一夫氏…四	剛崎虎雄氏…四	根本富士雄氏…四	秋山三夫氏…四	原清重氏…四	石田榮造氏…四	齋藤茂一郎氏…四	山脇金五郎氏…四	福井猪和太氏…四	西川久穂氏…四	歌川四郎氏…四	小黒隆太郎氏…四	向坊盛一郎氏…四	奥平廣敏氏…四	津村清太郎氏…四
西山泰清氏…七	小平權一氏…六	牛島蒸氏…四	山岡信夫氏…四	清水賢雄氏…四	津川哲三氏…四	稻田幾次郎氏…四	川路喜平氏…四	森川莊吉氏…四	木村通氏…四	河合元三氏…四	高瀬潔氏…四	明石貫八氏…四	小川逸郎氏…四	野中忠太氏…四	椎名義雄氏…四	武藤富男氏…四	小川亮一氏…四
永吉由藏氏…七	榎谷仙次郎氏…六	新納謙吾氏…四	九里正藏氏…四	小出順造氏…四	山本頼男氏…四	島田茂氏…四	岡田實氏…四	首藤定氏…四	石橋米一氏…四	辻光氏…四	三井權次郎氏…四	藤川松次氏…四	齋藤寅吉氏…四	高崎達之助氏…四	山崎元幹氏…四	古川達四郎氏…四	
平田千三氏…七	松並文次郎氏…六	高岡又一郎氏…四	賀來之憲氏…四	高橋康順氏…四	田中漸氏…四	岩田公太郎氏…四	岡常次郎氏…四	上崎龍次郎氏…四	宮川清氏…四	大屋幾太郎氏…四	田村藏六氏…四	佐々木久松氏…四	久原研吉氏…四	奥村慎次氏…四	岡田信氏…四	諸富鹿四郎氏…四	

政 經 篇

農業資本發展時代

朝鮮の面積は一萬四千三百三十二方里の内、林野は約六割八分を占め、水田七分、畑一割二分、其他一割三分となつてゐる。昭和十年末總人口一億に付耕地面積は内地の九畝歩、臺灣の一段六畝歩に對し、朝鮮は二段歩である。この農家一戸當りの耕地面積は内地の一町八畝歩、臺灣の一町九段九歩に對し朝鮮は一町四段七步割合に當る。最近の未墾地の面積は七分、三十八百四十九町に達してゐる。

これを見ても朝鮮の農業規模は高度性をもつてゐると同時に、農業國として性格が、深刻的に表現されてゐる。各道の産業の全貌を検討して見ても、道の占むる支配的否壓倒的勢力を指標するものは、農業生産である。農業生産の經營が全鮮を包括し、林野、鑛業、工業、商業、金融の分野が、農業生産の巨大哺育に待たねばならないといふ現實性が内包的にも外延的にもはつきり露呈されてゐる。

けれども半世紀に互る總督政治の行政指導は高價にして、客觀的意義の大なるものがある。僅か半世紀の短日月を以て近代農業國に完成し、農業經營の規模を文明農業國の水準に引上げしめ、遂に原始性を脱皮せしめたことは、いまだ曾つて世界に類例を示してゐない行政成果といはねばなるまい。

農業中心に依存する國民が非文明であり、植民國家の典型的意義をもつてゐることは當らない。たとへ高度工業國家といへども、農産物に稀薄なる半面に支配されるものは完全國家の構成要素を有するものとはいはないのである。高度國防國家の建設は、工業經濟計畫の完備のみでは用を足さない。否むしろ農業經濟の肥滿を以て工業經濟の推進に潤滑せしむる最要を切感されてゐる。食糧と軍需の生産擴充は二大戰闘生産手段であることを見失つてはならない。その典型的なるものは日本にあらう。日本の強兵無比の背後的動力を形成するものは、農業國としての高度性を把握す、換言すれば豊葦原の瑞穂國が百%にものをいつてゐることが知られやう。農業依存主義の昂揚——食糧の惱み少ないはゆる天寵的食糧に恵れてゐるといふことが、事變四ヶ年を繼續するとも平氣安易の中に大消耗戰が遂行される所以である。

世界的に農業比重に壓倒的勢力を占むる日本にも一度戰時經濟が實施され、資材、肥料、勞力が不足なる一面には生産力を遞減せしめてくる。戰時經濟に食糧の不足を齎し、食糧難に苦しむことは世界全體軌を一にするものであるが、食糧の大部分を海外及び植民地に依存する英國の例に見ても、自國に潤澤なる食糧依存の稀薄なる國家が、一度長期戰になると、全く食糧難に陥つて手足も出ない。——それが戰略的よりもむしろ宿命的に大なる敗因となり、別言すれば近代戰は食糧にありといふ烙印を附せられ、現實に立つ英國は最もその典型的國家をさらしてゐるものともいへやう。

高度國防國家の完成が、食糧の豊かなる供給によつて決定符を打たれるといふ理念からも、朝鮮の農業依存過多性は、地獄に佛ともいふべき戰時經濟の恩寵を前進化してゐる。左に内地及び朝鮮の最近に於ける米の生産高と消費高を指摘して見やう。

年	内地		朝鮮	
	生産	消費	生産	消費
昭和十年	五一、八四〇	七六、七二五	一七、八八四	八、八三三
同十一年	五七、三五六	七〇、五六三	一九、四一〇	八、三〇七
同十二年	六七、三三九	七五、〇四〇	二六、七九六	一二、五七九
同十三年	六九、五一九	七八、一三一	二四、一三八	一五、七八二
同十四年	六五、八六九	八〇、〇二一	一四、三五〇	一七、三四七
同十五年	六〇、八七四	—	二一、一九五	—

朝鮮の十五年度米の生産額は二千二百萬石に上り、さらに耕地の擴張面積に於て百萬町歩を有し、滿洲に二千萬町歩を飛躍せしめることは、とりも直さず食糧に過多の豫備軍の動員性を擁してゐるわけである。米の増産計畫があらゆる角度から再検討され、農業再編成が最も華々しい脚光を浴びて時局に登場されてきたことは、食糧増産の一徹増産によらざれば戰時經濟の段階は危機にさらされるといふ裏返しである。この秋に於て朝鮮が

「米」の國として農業發展性に多分の原感が拂拭されてゐる。官廳的農業政策が監督主義指導から育成指導主義に移され、官民一致の總和の一盤に發足を闡明したのである。

農主工從政策はかくして積極的の面を前面に押し出し、土地制度の創立改革は、國有未墾地の開拓、養蠶事業の施設、畜産の奨励、米に對しては米穀検査の全面化、肥料配給の適正化、勸農機關としては京畿道水原には農事、蠶絲業及び畜産改良に關する調査、試験、種繭、種畜講習所等が設置されてゐる。

農業團體方面では果物同業組合、朝鮮蠶絲會、蠶絲中央組合、朝鮮製絲協會、朝鮮桑苗組合聯合會、水利組合機關の特設、國有林、民有林の經營には林業試験所の設置があり、農山漁村の振興更生策が農業の全面にむらなく立ち立てられてゐる。

だが、朝鮮經濟の支配的生産の運営を形成してゐるものは米穀増産の集中にあつたことを見通されない。國家資本の米穀増産への投資の深化、之に伴ふ萬般のぬかりのない保護奨励の施設は總督行政の産業政策の脚光を輝かせしめてゐるものであつた。

累代總督が米穀増産政策に向つて全力且つ總性的政治活力を傾倒して、自給自足から國外輸出に強行政策がうちたてられてきた歴史的發展こそ實に朝鮮經濟の資本主義發展の一大動脈であつたものが知られるのである。

別言すれば朝鮮の資本主義經濟の發展性の中核性は農業政策を温床として精銳なる發展を構成したことを指摘することが出来るわけである。

と、いつたからとて時代の齒車はいつまで農業資本集中に足踏みを許容するものはむろんない。齒車にかけられてゐるベルドの廻轉は農業資本主義發展を工業資本主義發展に轉換せしめたのである。

工業資本轉換時代

農業資本から工業資本にベルトを強化せしめた源泉は、滿洲事變の突發にあつたことがいひ得られる。所謂それは滿洲事變を楔機とする重工業の部門を主體とする急激なる飛躍發展であつた。これこそ朝鮮經濟の劃期的大轉換を指標せしめる動向となつたことを見通してはなるまい。

さらにこれをといつて表現をはつきりするなれば、朝鮮の農主工從主義は滿洲事變をきっかけとして工主農從へと移行する急テンポを上昇せしめたといつてよい。これは外沿統治の特殊の歴史性を必然するものとはいへ、滿洲事變といふ變革の嵐は半生紀に至る半島の資本主義を根帯からゆすぶつて逞しい工業の新生への擡頭を露呈せしめたのであつた。

朝鮮工業がいきなり、地平線上より成層間に飛躍したのは、全産業の機構が工業轉化に全待機の姿勢をとつてゐたことよりも、地理的必至の環境條件に立たせられてゐた方に歴史的の比重を強めてゐたといへやう。朝鮮は内地と大陸とを政治的にも、經濟的にも交流せしめる好個の紐帯をもつ重要な基地である。

さらに接攘國防の色彩を濃化せしめ、現地的面目を發揚せしめてゐる。換言すれば高度國防の建設的比重の相對性を地理的に優位せしめてゐることだ。

内地と大陸とを連繫せしめる紐帯の役割といふよりも、朝鮮のキイ・ポインの地位を一段と強化することに於て、朝鮮の政治に經濟を戰時色に再編成せしめることが強く要請されたのである。生擴計畫のプランからも朝鮮は重要な枠内からチイツクすることが出来ないばかりか、この基地を地固めし、この地固めの構造を完成することがわが戰時

經濟の主題を内包せしめる指標を高度に開展せしめた。

支那事變の勃發と同時に朝鮮は、大陸前進基地の命題のうらづけによつて重工業化に勇しいスタート・プレーをきり放つたのである。即ちこの逞しい前進性こそ、朝鮮工業化の温床をつくらしめたといつてよい。重工業化は化學工業の發展化にいきなり同行通路を命じたのである。野口日空コンツェルンはこの至上命令の下に誕生されたといつてよい。これと併進して、工作機械、精密工業も華々しい脚光の裡に登場し、内地資本の導入、遊體設備の動員、労働豫備軍の集化が急テンポを以て勃興したのである。

朝鮮工業の發展概計を表記したいが、それは産業篇内に於て特輯することになつてゐるから茲に省くとして、以上の如く朝鮮の工業化への轉換は、農主工従を工主農従にとうち据へたのである。これは朝鮮産業の近代移行色を浮彫的に表現せしめたものともいへやう。

工業は立地主義に計畫發展され、これと表裏する資本、技術、勞務を積極的に建設的に適用することは工業立地主義の内面を充化せしめる要因であるといはねばなるまい。朝鮮の立地主義の條件性を構造してゐるものを擧げて見ると各流域の河川の利用、北鮮地帯、西鮮地帯、京仁地帯、三隣地帯、南鮮地帯が河川の立場に恵れて、地方的特殊事情によつて特種産業が工業立地化されてゐることである。これは日鮮滿支の國土計畫の有機關聯の紐帯を強化せしめるばかりでなく、これを先驅的に企業化するものに電力工業がクロスアツプされてゐるものを見落してはなるまい。朝鮮水力發電の企業化こそ、實に朝鮮全重工業及び化學工業の生産擴充力の源泉であることを指摘するものがある。企業計畫資本の中に於て、電力計畫の投資は支配量を占めてゐるともいへやう。夙に大規模を以て建設工事中であつた鴨綠江水力電氣も一部の送電が開始せられたのである。

今後の水力發電は今後の生擴計畫とを併進して文字通りの豊富低廉の電力供給化が遂行可能なることはむろんのことである。各川の利用價の増大、水利工業化の無限獲得を前衛として朝鮮工業の殷盛は急進展を齎し、大陸前進基地の強靱なる地固めは工業フルの躍進譜を前奏に立立て、縦横に驀進してゐるのである。

朝鮮の産業と工業の現勢力保有はオール生産力擴充計畫の點睛指標を放ち、分擔すべき計畫の遂行力は物動計畫編成の基本的構築の意義をすゝめてゐるのが知られる。

いふまでもなく、内地と同様に、朝鮮にも國家總動員の準據法は施行され、各種戰時産業法ならびに統制令が公布され、生産、配給、消費に至つて全面的に強權的統制は布かれてゐる。さらに内地よりも、行政的に綜合計畫化されたる統制ぶりの完璧さは、南總督のイデオロギーともいふべき皇道主義の昂揚がうちもられ、所謂巨人的官府指導の哺育が産業全機構に横溢されてゐる。

さればこそ朝鮮經濟の特殊的性格と後進的殘滓は一掃されて、眞に内鮮一如を具説したるのみか、却て内地經濟に先驅する指導のシステムの雛形を展示させたのは、強烈なる政治の氣魄と高度性とを明確に表現するものといつてよからう。

左に企業計畫の現勢を示して卷頭言の責をふさぐことにしたい。

朝鮮計畫産業一覽(朝鮮年鑑その他による)

【一】 事變前後操業または擴張工場

製品及び概要

三 菱 鑛 業 海 津 鑛 業 所

直接製鋼法でルツベ、殆ど操業

朝鮮 鑛 業 興 南 製 鐵 所

マツセー法鉄鋼一貫

大日本セルロイド木浦工場
朝鮮 麥 油 脂
三 菱 鐵 業
中 外 鐵 業
鐵 紡 巴 爾 プ 工 場
北 鮮 酸 素 工 業
朝鮮 タンニン 工 業
大 日 本 ニ コ チ ン 工 業
日 本 木 材 工 業
日 本 炭 素 工 業
京 城 化 學 工 業
【三】 目下建設計畫および豫定

リントー製油
火藥
右同じ
右同じ
蘆バール
醋酸アセトン、苛性曹達
(朝鮮皮革系) タンニン
硫酸ニコチン
木材防腐
(高周波系) カーボン
リトホン群素ベイント、其他塗料
特殊鋼(豫定)
鉄鋼一貫
マグネサイト
アルミニウム
マグネサイト關係品
諸機械
ディゼルエンジン
カーバイド石灰窒素
カーバイド
石灰窒素、人肥
醋酸アセトン、同ファイバー、合成ゴム、樹脂(豫定)

三 隆 開 發 開 慶 工 場
開 慶 カ ー バ イ ド
帝 國 製 麻 仁 川 工 場
朝 鮮 雲 母 開 發

石灰窒素、人肥
カーバイド
フィシヤ法石灰液化
麻糸
雲母開發

歴代統監及政務總監年表

初代統監 伊 藤 博文 (自明治三十八年一月至同四十二年六月一日)
二代統監 會 根 荒 助 (自明治四十二年六月一日至同四十三年五月一日)
初代總督 寺 内 正 毅 (自明治四十三年六月一日至大正五年十月九日)
初代總監 山 縣 伊 三 郎 (自明治四十三年至大正八年八月十二日)
二代總督 長 谷 川 好 道 (自大正五年十月十六日至同八年八月十二日)
二代總監 山 縣 伊 三 郎 (同右)
三代總督 齋 藤 實 (自大正八年八月十二日至昭和二年十二月十日)
三代總監 水 野 鍊 太 郎 (自大正八年八月十二日至同十一年六月十二日)
四代總監 有 吉 忠 一 (自大正十一年六月十五日至同十三年七月四日)
五代總監 下 岡 忠 治 (自大正十三年七月十四日至同十四年十一月廿三日)
六代總監 湯 淺 倉 平 (自大正十四年十二月三日至昭和二年十二月廿三日)

臨時總督	宇垣一成	(自昭和二年四月十五日至同二年十月一日)
四代總督	山梨半造	(自昭和二年十二月十日至同四年八月十七日)
七代總督	池上四郎	(自昭和二年十二月二十日至同四年四月四日)
五代總督	齋藤實	(自昭和四年八月十七日至同六年六月十七日)
八代總督	兒玉秀雄	(自昭和四年八月十七日至同六年六月十七日)
六代總督	宇垣一成	(自昭和六年六月十七日至同十一年八月一日)
九代總督	今井田清徳	(自昭和六年六月十七日至同十一年八月一日)
七代總督	南次郎	(自昭和十一年八月一日現在に至る)
十代總督	大野綠一郎	(右同)

財政と教育

視野を轉じて財政方面を一瞥すると、先づ歳計の概貌なるものをテストせねばなるまいと思ふ。そこで、昭和五年度より同十四年度に及ぶ朝鮮總督特別會計歳入、歳出の數字を羅列して見ることにしよう。

朝鮮總督府特別會計歳入歳出

年 度	經 常 歳 入	臨 時 歳 入	合 計	經 常 歳 出	臨 時 歳 出	合 計
昭和五年度	110,070,750	37,631,433	147,702,183	116,621,827	33,056,956	149,678,783
同 六年度	106,331,537	33,030,800	139,362,337	116,621,827	23,295,130	139,916,957

同 七年度	129,566,628	10,583,629	140,150,257	126,284,826	14,865,821	141,150,647
同 八年度	184,481,526	47,545,317	232,026,843	177,097,326	61,929,517	239,026,843
同 九年度	221,788,026	56,696,120	278,484,146	215,355,322	63,128,824	278,484,146
同 十年度	200,463,070	99,803,927	300,266,997	210,991,070	89,275,324	300,266,997
同 十一年度	269,688,941	59,656,449	329,345,390	234,449,871	94,895,519	329,345,390
同 十二年度	330,446,921	107,307,373	437,754,294	266,443,840	171,310,454	437,754,294
同 十三年度	377,181,355	155,673,825	532,855,180	299,068,841	233,786,339	532,855,180
同 十四年度	424,173,133	229,936,800	654,110,933	336,521,629	317,589,304	654,110,933

以上の如く、歳入、歳出のテンポは上昇の一途を辿つてゐることは、政府財政の發展膨脹の一大指標である。明治四十四年以來道路修築、海關工事並に鐵道及び沿革、その開發に必要な繼續事業は一般歳入を以て支辯する餘裕もなかつたので、此等財源は主として公債或は借入金によつて依存してゐたのである。大正八年三月事業公債特別會計法の公布により朝鮮公債金特別會計法は廢止された。しかし總督府特別會計の負擔に屬する公債の發行及び借入金の限定額は、前記公債法に依つて最初五千六百萬圓に限定されたのであるが、その後事業の進捗、計畫の變更に伴ひ八億四千五十萬圓に増大した。

國債の償還は大正十一年度以降行はれなかつたのであるが、昭和五年度以降政府の豫算編成方針に基き、總督府特別會計に於ても國債償還資金を國債整理基金特別會計にくり入れ、所屬國債の償還に充つるやうになつてゐる。さらに租税方面については體系的にこれを羅列し、税法制度の内容を發表したいと思ふが、あまり細分化の記述を要するので、こゝでは遺憾ながら省略することにしたい。

之れとすしかへて教育方面の推移を窺ふに、朝鮮は從來内地人と朝鮮人とのついでその系統を異にしたが、時勢の

進歩に鑑みこれが差別を撤廃し大正十一年普通教育についてのみ國語を常用するもの（主として内地人）と國語を常用せざるもの（主として朝鮮人）との二種に分ち、その他の實業教育、専門教育、師範教育に在りては總て内鮮人の共榮を原則とし、新に教育系統を立て之れを統一するに至つた。

而して、普通教育にあつても特別の事情ある場合は内鮮人相互に入學し得るの道を拓き、昭和十三年普通教育に付ても、内鮮人に依る教育機關の區別を撤廢せらるゝに至り、朝鮮に於ける教育は殆んど全く制度上内地に於ける教育に比較し何等の差等なきに至つたのである。

文化の先驅機關たる教育に對し總督府が差別機構を撤廢して、一元化の下に統合せしめたことは朝鮮教育の劃期的の大轉換であると同時に、思想衝化の方面にも奇與の多大なるものを窺ふものがある。從來國語を常用するもの（主として内地人）の教育は明治十年釜山に於て小學校を設立せるのがはじめであつた。爾來各地にその設立を見るに至り、明治四十三年總督府設置當時に於てはその數百二十に達し、その前年統監府は小學校規則を發布し、同四十三年三月中學校官制及び中學校規則を發布し、併合の後、總督府はさらに、同四十五年三月公立小學校、高等女學校、實業學校及び簡易實業學校官制並に諸學校規則を發布し、大正十一年二月新に朝鮮教育令の公布を見、國語を常用するもの、普通教育は小學校令、中學校令、高等女學校令に依るを原則とし、内地に於ける教育となんら差別なきに至つたのである。

又特別の事情ある場合には國語を常用せざる（主として朝鮮人）の入學を認むることとした。京城に成均館及び四營があつて一國の最高學府とした。翌二十八年新に教育制度を定めて小學校及び中學校に關する規定を設け、さらに師範學校及び外國語學校を設置したが、これらは日本の制度を模倣したのである。同三十七年日韓協約の結果、學部

に内地人參與官を置き教育の刷新を圖り、統監府の開かるゝや、その指導の下に法令の改廢を行ひ、普通學校、高等學校、高等女學校を増設して内地人教員を配置し、さらに教科書を編纂して教育上に新生面を拓いたのである。斯くして教育制度は改革向上されて歴史的發展を持続してきた。昭和十三年三月朝鮮教育令を改正し、普通教育に於ける國語を常用するものと然らざるものにつき教育機關を區別したる制度を廢止し、兩者いづれも小學校令、中學校令、高等女學校令に依る教育を施すことに改めた。同時に小學校規程、中學校規程、高等學校規程に全面的の改革を斷行し、國體明徴、内鮮一體、忍苦鍛鍊の朝鮮三大綱領に則り、眞に皇國臣民の本足に徹即せしめる教育を示すことにしたのである。

普通教育機關及び兒童生徒數を左に示すと、

學 校 別	學 校 數	職 員 數	兒 童 又 は 生 徒 數		
			内 地 人	朝 鮮 人	計
官 立 小 學 校	一〇	九一	六一八	三、〇六〇	三、六七八
公 立 小 學 校	三、一一〇	一六、七五二	九〇、〇〇六	一、〇〇四、六四五	一、〇九四、六八四
私 立 小 學 校	一〇〇	六七九	一	四四、九九九	四五、〇〇〇
公立小學校附設簡易學校	一、一四五	一、二三九	二	七六、一九〇	七六、一九二
公 立 中 學 校	三七	七〇七	七、九五四	一〇、三一七	一八、二七一
私 立 中 學 校	一三	二六八	—	七、五五一	七、五五一
公立高等女學校	四三	五八九	一、三六七	四、三〇八	一五、六七五
私立高等女學校	一一	二一〇	六八九	四、三五二	五、〇四一

昭和十四年度三月末、書堂數五千二百九十三、教員數五千八百三十二人、生徒十七萬二千四百五十六人といふ割合

である。

幼稚園は昭和十三年五月末公私立合併して園數三百十七、兒童數二萬一千百四人に達してゐる。さらに實業教育及び専門教育の種別、學校數、職員數、生徒數をあぐれば、いかにこの種の飛躍的教育のテンポを如實に物語つてゐるかを知られやう。

實業及専門教育機關

(昭和十三年五月末現在)

種別	學校數	職員數	生徒數
官立專門學校	五	二五四(三三〇)	一、三八八
公立專門學校	二	三五(七六)	五七七
私立專門學校	八	二四五(三二七)	二、四〇八
官立工業學校	一	二四(四〇)	二六七
公立工業學校	一	一一	一七二
公立農業(農林・農工)學校	三六	四二八(四六三)	八、三四七
私立農業學校	一	四	六〇
公立商業(商工)學校	一八	三〇五(三三五)	七、〇三七
私立商業學校	八	一二七(一三七)	三、八二〇
公立水産學校	三	三四(四二)	二六九
公立職業學校	六	八九(一一)	一、四五三
私立職業學校	三	四五	九〇六
公立實業補習學校	一二四	三七三(四八六)	六、六六七
私立實業補習學校	一一	三四(四六)	七四六

(備考) 實業・専門・教育に於ける職員數中括弧内のは兼務者を含む。

行政の構圖版

産業の核心を衝くことは産業篇にゆづるとして、茲では朝鮮統治の行政セクションの片鱗を指摘したい。朝鮮は明治三十一年に合併され、總督統治をつゞけること約三十一年に及ぶ。今や統治は開花結實の域に達し、政治、産業、文化は絢爛の美を放ち、後進資本的政治經濟の色調全く拂拭されて終つたのである。

地形的にも朝鮮は内地と大陸のルートであるばかりでなく、兵站基地として高度の指標を輝かしてゐる。東亞新秩序建設、東亞協同體の形成にも支配的の役割を示し、濼瀾たる登場性を昂揚せしめてゐる。

亞細亞の東南に突出せる一大半島、これは日本と大陸とを打出す楔子である。地形南北に長く、東西に短い。西南の沿岸に無數の島嶼を擁してゐる。東經百二十四度より百三十度、北緯三十三度より四十三度の間に位してゐる。面積二二〇、七九二方呎、東は日本海に面し、西は黃海に臨み、南は朝鮮海峽を隔て、九州及び中國と對し、北を鴨綠江及び豆滿江を以て滿州國及び露領沿海州に境してゐる。東部海岸には元山、木浦、城津、清津、羅津、雄基の諸港があり、南部及び西部海岸には釜山、麗水、木浦、群山、仁川、龍塘浦、鎮南浦の良港を擁してゐる。

地勢は長白山脈東北より西南に連つて北方の國境を擁し、その一脈南にのびて平安南北、咸鏡南北四道の境を劃して江原道に入り、東海岸線にそふて南に走り、半島の脊梁を形成してゐる。脊梁山脈以東の地は斜面が急峻であり大川平野に乏しいが、その以西は緩斜であつて處々に平野を有し、鴨綠江、大同江、臨津江、錦江、蟾津江、洛東江等がある。舟楫の便と灌溉の利と地味の豊穰を合し得てゐる。

全鮮の戶數は(昭和十三年末現在)四百二十七萬一千三百八戸、内地人十五萬八千八百四十三戸、朝鮮人四百十萬

二千五十一戸、外國人一萬三百六十四戸、總人口二千二百六十三萬三千七百五十一人、内地人六十三萬三千三百二十人、朝鮮人二千九百九十五萬六百十六人、外國人四萬九千八百十五人である。之れを合併當時に比すれば約二倍の倍加率を示してゐる。

この人口總積の上に構築さるべき行政組織も飛躍的發展を示したことは外治統治の偉徳に輝くものである。明治四十三年韓國の合併と同時に朝鮮總督を置き、天皇の命を承けて陸海軍を統率し諸般の政務を總轄せしめることを宣言し朝鮮總督を設置したが、當分の内は統監府及びその所屬官署を存置し朝鮮總督の職務は擧げて統監をして之れを行はしめ、そして、韓國政府に屬したる官廳は内閣及び表動院を除く外、總て總督府の所屬官署とし政府の執行にあたらしめたのである。その後約一ヶ月間に各種機關の廢合統一を行ひ、同年九月三十日朝鮮總督府官制及びその所屬官署の諸官制を公布し、十月一日より之れを施行した。

先づ朝鮮總督は親任として陸海軍大將を以て之れに充て、天皇に直隸し、委任の範圍内に於て陸海軍を統率し、朝鮮防備を掌ることとしたのである。朝鮮總督令を發することを定められ、所屬官署としては諮詢機關としては中樞院を設け、又警防機關としては中央に警務總監部を、各道に警務部、憲兵隊司令官をして警務總監を、憲兵隊長をして警務部長を兼ねしめ地方行政機關の外に特定して一般警務を統理執行せしむることとした。

ところが、其の後數回に互つて官制の改正があり、大正八年の改正は總督の武官たる資格制限を撤廢し、總督に對する陸海軍統率委任の條項を削除し、朝鮮に於ける陸海軍の司令官に對する出兵を請求することを得しむると同時に、憲兵警察制度を廢止し劃期的の文化政治へと轉移した。

故に總督は中央政府の政治最高支配權を掌握し、朝鮮に於ける行政事務は包括的に朝鮮總督の權限に屬し、上奏裁

可を要する事項に付ては内閣總理大臣を経て上奏を爲し裁可を奏請し、安寧秩序保持の爲め必要と認めるときは朝鮮に於ける陸海軍司令官に兵力の使用を請求することが得られる。その他制令制定權、命令權、監督權、王公族及び朝鮮貴族に關する權限等の成文化がある。

總督には事務分掌のために總督官房及び内務、財務、殖産、農林、法務、學務の七局の外に外事部及び企畫部を置き、總督の補助機關として總督を補佐し府務を統理し各局の事務を監督する爲め親任官である政務總監があり、以下局長、外事部長、企畫部長、秘書官、事務官、理事官、統計官、土木事務官、山林事務官、教育官、視學官、編修官、銀行検査官、技師、通譯官、屬、統計官補、編修書記、技手、通譯生を設置してゐる。

其の外に諮詢に應ずる機關として中樞院がある。中樞院には議長（政務總監を以て充つ）副議長（親任待遇）顧問（親任待遇）及び參議（勅任又は奏任待遇）等を置き、議長の外は何れも朝鮮人の有力者及び達識者を選び、總督の諮詢に應ぜしめてゐる。副議長以下の任期は何れも三年を原則とし、總督の奏請に因り内閣に於て之れを任命することになつてゐる。

次の總督の管理下に各官制の特別行政廳を置き、その主たるものは、A 逓信官署、B 鐵道局、C 專賣局、D 稅務官署、E 稅關の外朝鮮に於ける行政官廳として、警察官講習所、刑務官練習所、營林署、濟生院、癩療養所、中央試驗所、農事試驗所、水産試驗所、氣象臺、陸軍兵志願者訓練所、各種學校等の所屬官署がある。

官廳の布石陣

中央行政機關に配する地方行政機關の分立區分を掲げると同時に朝鮮に於ける地方行政の色彩と

性格は内地のそれに比較して別個の存在を示してゐやう。行政区劃網に京畿道、忠清北道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黃海道、平安道、平安北道、江原道、咸鏡道、咸鏡南道、咸鏡北道の十三道が存立してゐる。さらに之れを分けて二十府、二百十八郡、二島、七十七邑、二千二百七十一面とする。之れに道知事、府尹、郡守、島司、邑面長を置き、官廳事務と公共團體の事務にあたらしめてゐる。道には知事官房、内務部、産業部、警察部を置き、各部長は事務官を以て充て、知事官房は機密、人事、褒賞等に關する事務を、内務部は地方行政、學務、土木、會計、稅務、金融經濟の事務を、産業部は勸業一般事務を、警察部は警察、衛生の事務を分掌せしめてゐる。

朝鮮總督府機構概表

1、總督官房	2、内務局	3、財務局
4、殖産局	5、農林局	6、法務局
7、學務局	8、警務局	9、外事部
10、企業部	11、中樞院	12、遞信局
13、鐵道局	14、專賣局	15、稅務監督局
16、稅關	17、高等法院	18、覆審法院
19、地方法院	20、高等法院檢事局	21、覆審法院檢事局
22、地方法院檢事局	23、刑務所	24、保護觀察所
25、保護觀察審査所	26、刑務官練習所	27、警察官講習所

28、供託局	29、營林署	30、濟生院
31、癩療養所	32、感化院	33、中央試驗所
34、農事試驗所	35、穀物檢査所	36、水産製品檢査所
37、種馬牧場	38、種羊場	39、獸疫血清製造所
40、林業試驗所	41、水産試驗所	42、朝鮮關稅訴訟審査委員
43、海員審判所	44、朝鮮簡易生命保險審査會	45、京城帝國大學
46、官立學校	47、圖書館	48、陸軍志願者訓練所
49、氣象臺	50、朝鮮史編修人會	51、寶物古蹟名勝天然紀念保存會

道、府、邑面の概貌

以上は朝鮮中央政治の核心構圖の鳥瞰である。之れに有機關聯する公共團體に、道、府、邑面があり、内地に於ける府、縣、町村と同じ組織と機構とを以て中央行政の運営に寄與するものである。

道は昭和八年四月一日より道制が施行せられ今日に至つたものである。法人にして議決機關であり、歳入、決算、道稅、夫役現品、使用手数料の賦課徵收、起債、基本財産及び積立金等の設置管理處分、繼續費、特別會計、豫算義務負擔及び權利拋棄等の事項に付議決權を有し、道知事の外に副議長を置き、道會議員を選挙し、この定數二十一名乃至四十五名とし、定員の三分の二及びその端數は選挙區たる府、郡、島、邑に配當し、府邑會議員又は面協議會員之れを選挙し、残りの三分の一は道知事之れを任命するものである。道會議員の任期は四年と規定されてゐる。

道の主なる事業は先づ土木砂防、勸業、教育衛生、救済及び各種補助等である。之れに要する財源なるものは、道税、使用料及び手数料並に國庫補助金で賄ひ、道税の税目は地税附加税、第一種所得税附加税及び特別税、漁業税、營業税附加税、取引所得税、鑛税附加税、林野税、戸別税、家屋税、屠場税、車輛税及び不動産取得税等を擧ぐるものである。

府も道と同じく法人にして行政區域とされるものは京城、仁川、開城、大田、群山、金州、木浦、光州、大邱、釜山、馬山、海州、平壤、鎮南浦、新義州、元山、咸興、清津、羅津等である。

むろん一般公共事務及び法令により府に屬する事務を處理し、府内に住居するものを住民となし、府住民の規定により府の營造物を共用する権利を有するものである。

府内に三月以上住居するものに對しては府税を課する。先づ税種は、地税、營業税、取引税、鑛税、道税たる戸別税、家屋税、車輛税、特別所得税、不動産の附加税及び特別税を主なるものとす。府内に於て土地家屋物件を所有し使用し若くは占用し、府内に營業所を設けて營業を爲し滞在し、又特定の行爲を爲すものにはその土地家屋物件營業若くはその收入に對し、又はその行爲に對して之れに賦課する規定になつてゐる。

公共團體に於て公用又は公共の用に供する土地家屋物件及び營業物並に神社、寺院、佛堂の用に供する建物及びその境内、教會所、説教の用に供する建物及びその構内地、墓地、外國政府の所有に關する領事館及びその敷地等に對しては府税を課せないことになつてゐる。府は營造物の使用には使用料を徴收し又個人の爲にする事務には手数料を徴收するものである。

道に知事があるが如く、府には府尹があり、府尹は府を統轄し之れに代表する権限を有するものである。而して府



員を任員し之れを懲戒する特權を賦與されてゐる。府には意思機關として府會及び教育部會を置く。教育部會は第一教育部會及び第二教育部會に分ち、府會には議長、副議長及び府會議員を組織し、府に關する重要な事件の議決、副議長及び検査委員の選舉、府の公益に關する意見書の提出、會議規則の設定、官廳の諮問に對する答申、尙諸府事務に關する書類及び計算書の檢閲、事務管理議決の執行及び出納の検査を爲す權限を有するものである。

而して府會議員の定数は二十四人、その任期は四年である。議員の資格は帝國臣民にして獨立の生計を營み年齢廿五歳の男子、一年以上府住民と爲り且つ一年以上朝鮮總督の指定したる府税年額五圓以上を納むる者とされてゐる。

第一教育部會は議長、副議長及び内地人たる府會議員を以てし、第二教育部會は議長、副議長及び朝鮮人たる府會議員を以て組織することになつてゐる。教育部會は各特別經濟に關する重要な事件の議決、副議長又は検査員、事務検査、意見書の提出、並に官廳の諮問に對する答申を爲す事務會となんら權限に遜色がない。

邑面法の發布されたのは大正六年十月である。大正九年及び昭和五年の大改正を経て現行制度となつたものである。法人たる邑面の區域は行政區劃である邑面の區域と同じく、邑の數は約七十に達し、面の數は二千二百七十一を數えてゐる。

邑面は法人であり、官の監督をうけ邑面の公共事務及び法令に依り邑面に屬する事務を處理し、邑面内に住居するものをしてその邑面の住民となすものである。

邑面の住民は邑面制の規定により邑面の營造物を共用する權利を有し、そして邑面の負擔を分任する義務を有するものとされてゐる。

邑面に課する邑面税には、地税、營業税、鑛税、戸別税、家屋税、不動産所得税、車輛税、特別所得税の附加税及

び特別税として邑面内に住所を有し三ヶ月以上邑面内に滞在する者、又は邑面内に於て特定の行爲を爲すものにはその上地家屋物件營業若くはその収入に對し、又はその行爲に對して賦課することになつてゐる。

邑面長は邑面を統轄し且つ代表する。一面邑面の事務を擔任するものである。邑長は邑會の議決を経る事件につき議案を發して議決を執行する權限を有するものである。

邑には意思機關である邑會を置き、面には諮問機關として面協議會を置き、邑會は議長及び邑會議員を以て組織し邑に關する事件の議決、法令に依る選舉、邑の公益に關する意見書の提出、官廳の諮問に對する答申並に邑に關する書類計算書を檢閲し、事務の管理、議決の執行及び出納の檢査を爲す權限を有するものである。

邑會議員及び面會協議會員の定数は最低八人、最高十四人、邑面の人口に應じて區別しその任期は四年間である。その選舉資格は獨立の生計を營むもので年齢二十五年以上の男子、一年以上邑面住民と爲り且つ一年以上總督の指定した邑面稅年額五圓以上を納むる者、所屬道郡島の官吏、待遇當該邑面長並に有給官員、判檢事及び警察官吏、小學校の教員でない者、邑會議員の選舉權を有するものはその被選舉權を有するものである。

斯くして自治的行爲を積極化せしむる外、邑面組合の設立をも公認され組合は營造物の使用には使用料を徵收する外、組合の財産より生ずる收入その他組合に屬する收入を以て經費を支出し、又組合は内地人の教育に關し必要な場合には寄附又は補助を爲すことが出来る規定を設けてゐる。而して組合の起債その方法、利息の定率、償還の方法を定め變更を爲すときには朝鮮總督の許可を要することになつてゐる。

(1) 基本財産管理處分に關する件

(2) 特別基本財産及び積立金穀等の設置管理處分に關する件

(3) 不動産の處分に關する件

(4) 寄附又は補助を爲す件

(5) 使用料、手数料、組合費及び夫役現品の賦課徵收に關する件

(6) 一時の借入金に關する件

(7) 繼續の件

(8) 歳入出豫算を以て定むるものを除く外に新に義務の負擔を爲し及び權利を爲すの件

朝鮮も日本の統治に入る前には殖民的高度の性格を深化せしめてゐた、一朝一夕にして封建性を遊離せしむることは非常なる努力を要せられやう。朝鮮を今日の文化に馴致し、本質的に見解一如のところに引上げる過程には並々ならぬ政治的の苦心があつたといふ比喩よりも、彫骨髓心の苦闘が量的に賄れたのである。

二千萬の鮮民を天皇の綏選の下に立たせしめ、且つ之れを適從せしむるには政治的にも、經濟的にも多邊多狀なるテクニクに待たねばならない。越島は南枝に巢くひ、胡馬北風に嘶く、習性を後天化せしむる政治の苦心の背後には幾多の犠牲の綴られてゐることを一應知りなく、また内省せしむるものがある。

外治統治のハンディ・キャップといふべきものは、民族の構成分子の調整にあらう。その上にも朝鮮民族の馴致性なるものは純化淡々たるものではなかつた。民族特有に裏付けられる半島の尖鋭なる感覺は、一篇の成文的行政では容易に片付けられるはずはない。歴代總督の統治の痛ともいふべきものは財政問題よりも、むしろ思想問題にあると云ひ得られる。

と、いつて財政問題の處理は安易であつたかといへば、否々そうではない。韓國政府時代の財政の紊亂は殆んど收

捨し能はぬその極に達してゐたのである。これを引き繼いだ統監府は銳意刷新に全力を傾倒し、明治四十年に於て日鮮協約の結果、行政各部を擴張し、各種事業の發展を伴ひ、斯して漸やく財政の基礎的構造が實現されたのである。けれども政府の歳出はますます膨脹の一途を辿り、到底その支出を辨じ難くなつたため、帝國政府は同年度以降四十五年に至るまで六ヶ年度内に總計一千九百六十八萬二千六百二十二圓を無利子無期限を以て貸付を斷行したのである。けれども併合當時に於ては經常歳入を以てそれも豫期の施設を爲すこと不可能なるに鑑み、同四十四年以降中央政府の一般會計から一千二百三十五萬圓の補充をもとめたのである。爾來經費を節約し大正二年度には該補充金中より二百十五萬圓を減じ、さらに同三年度以降五ヶ年を期して朝鮮特別會計の獨立計畫を實行するため、諸制度を確立し他方産業獎勵の道を拓き、廣く財源を求むるため諸税の増徴を圖り、同八年度に於ては中央政府の補充を必要とせぬことになつた。

京畿道

道民は農林、牧畜六割強、商業、交通事業之れに次ぐ。産業は米を王座とし年産二百萬石に達してゐる。大豆は四十餘萬石を産し、長湍、大豆、漣川大豆、龍山大豆特に有名である。小豆も數萬石に達し、麥は八十萬石、粟は農民の主食物で二十萬石近くを産出してゐる。その他蕎麥、蜀黍の産額も多い。

本道は又養蠶に適し五萬石以上の産出を示し、産繭百萬石計畫にタイアップして増産に従事してゐる。養豚、養鶏も盛んであり、牛肉、牛皮、牛乳の生産七百萬石に及んでゐる。林野は國有林一萬町歩、道地方は二萬三千餘町歩、私有林七十一萬數千町歩、苗圃、林野保護、砂防工事等に積極的の施設と開拓を行つてゐる。木炭その他一ヶ年七百

萬圓の産出額を擧げてゐる。

鑛業方面は産金熱に煽揚されて、金、金銀、砂金、硫化鐵、銀高嶺土、汝鏞等一ヶ年約百萬圓以上の生産を示してゐる。

水産專業者一千七百餘戸、兼業二千九百餘戸、從業者三千四百餘人、漁獲高百萬餘圓、製鹽は官民合して生産高一億八千餘萬斤、道水産會があり、資金の貸付、福利の増進を行ひ、漁業組合も數ヶ所に設置してゐる。

さらに本道の農工總生産高を概計すると二億五千餘萬圓に達し、中工業生産六割餘を占めてゐる。製絲、織物各工場、電気機具製造、清酒、ビール、醬油、葡萄酒の醸造の發展著大である。煙草は耕作反別六百餘町歩、製造工場は京城にある。

本道の人蔘は全鮮の約八割を占め主産地は開城附近である。白蔘百萬圓、紅蔘二百數十萬圓に及ぶ。

本道は朝鮮總督府の所在地であり、京城を包擁する中樞地である。従つて商業も繁榮し、商業及び金融機關も完備擴充されてゐる。京城を中心として行れる輸移出高は一億數千萬圓に及び、主要品は米を首位とし、大豆、海産、牛皮及び牛、葉煙草、機械類、藥製品、人蔘、藥材、輸入の主要品は、諸機械、印刷料紙、機械類、揮發油、肥料、酒類、砂糖、陶器等である。

金融機關は朝鮮銀行、朝鮮殖産銀行、朝鮮商業銀行、朝鮮貯蓄銀行、漢城銀行、東一銀行の各本店、支店、出張所は各樞要地に設置されてゐる。内地銀行には安田、第一、三和の各銀行が積極的に活躍してゐる。

金融組合は水原地方金融組合の設立を始めとし都市金融組合二十、村落金融組合六百五十七、外に支所數十ヶ所、組合員七萬人を越え、總戸數の四割まで組合員で網羅してゐる有様である。無業の發達も併進され庶民金融機關の

役割を大に發揮してゐる。京城には中央無盡會社、仁川に同社支社が存在してゐる。

以上の本道發展の規模を醸成する中核的の推進力は本道當局者の行政活躍の寄與を擧げねばなるまい。京畿道知事を始め同行政機關の精強なる施設と改善はまことに驚異すべきものがある。本道は政治の中心地帯であるだけ行政的高度の手腕を要請されてゐる。

慶尙南道

本道の地勢は北東に高く西南は平地である。東西五十八里三十五町、南北四十九里十九町、面積約七百九十八方里に及んでゐる。氣候は内地の福井、金澤と同じく朝鮮半島の本道釜山の埠頭、歐亞連絡の關門釜山港を持つ大玄關を展望せしめてゐる。

本道の地勢的優位は經濟文化二つながら先天的發展性を把握してゐる。産業の總生産高は實に一億二千餘萬圓に達し、農産は米を王座として收穫二百萬石を數え輸移出百萬石を計上してゐる。特産物として綿、大麻、苧麻、青麻、楮莞草、胡麻、荏、蓖麻、杞柳、豆類、除蟲菊等を産出し、棉作はとりわけ盛行を呈してゐる。

當道は果實の名産地である。三浪津梨は名聲噴々たるもの、現今梨は百四十萬餘貫、苹果は廿數萬に及んでゐる。畜類は牛の十五萬頭餘、養豚、養鶏、養蜂も盛んである。畜産額は二百數十萬圓餘に達してゐる。

養蠶に對する道當局者の奨勵施設は完全なるものあり、桑田數百町歩、蠶繭約三萬石を計上してゐる有様である。林野面積は八十六萬町歩、國有林十萬數町歩、民有林七十萬町歩、立木地六十萬町歩、増殖の徹底化を圖り、苗圃は九百餘ヶ所に達してゐる。林産年額は約六百數十萬圓。

鑛業の分野では金、銀、銅、鐵、石炭、黒鉛が主なるものである。鑛區百數十數鑛區に及んでゐる。工業は飛躍的發展を示し、工場數は一千に上り、生産高七千餘萬圓の巨額に達し、機業、醸造業、製紙業、窯業、水産食料品製造業、精米業、造船業、木工業、鐵工業、製水業、硝子、菓子、ゴム靴、車輛、瓦斯電氣、製鹽、製材、石鹼、清涼飲料水、蠟燭等の廣汎に亘つてゐる。家庭工業を中心として發展し、蠶、叭、改良筵の年産だけでも百萬圓を越ゆるの盛況である。

商業及び金融の方面を一瞥すればこれまた盛況なるテンポを見せ、釜山、鳳樹、太陽、感陽、徳山、大山、金海等に各特産物の産業組合が設立されてゐる。釜山穀物輸出同業組合、馬山酒造同業組合、三浪津果物同業組合があり、釜山には慶尙南道物産陳列館があり、慶南特産物の宣傳紹介と取引の向上を圖つてゐる。

海産物としては、鎮海灣を中心とする鱈、鱈、長濟島、方魚津方面の鯖、蔚山東萊近海の海苔、鰻、蛤、其他養殖場がある。

水産製品は罐詰、乾物、鹽物、鹽辛があり、五百數十萬圓に上つてゐる。水産市場は釜山水産會社、釜山市場、釜山海産商組合市場、馬山水産市場、馬山煎子販賣市場、三子浦水産會社水産市場、釜山水産會社經營市場、鎮海水産市場等が設置されてゐる。

朝鮮各在來市場は依然として繁盛し、道内五十餘ヶ所もある。農産約一千萬圓、水産約八百萬圓、織物二百數十萬圓、畜類四百萬圓、其他を合計して二千七百萬圓に上る賣買に達してゐる。米穀取引は釜山米穀取引所で行れる。慶尙米倉がある。

金融機關は本道内に本店を有する銀行は慶尙合同商業銀行があり、その他本道本店銀行及び内地著名銀行の支店、

出張所が散在してゐる。之れ等銀行の預金高三千數萬圓、貸付數百萬圓に及んでゐる。金融組合は都市村落組合の合計八十に近い。無盡會社は道内一會社あるのみ。地の利を占め朝鮮大支關の指標にある本道の今後の發展、産業の躍進には刮目すべきものが期待されやう。

慶尙北道

主都大邱を有する本道は米、麥、大豆、小豆、雜穀の産出地として著名である。さらに棉花、麻、楮の生育極めて良好である。産米は二百萬石に上り道外移出百萬石を數ふ。大麥作付二十萬町歩餘、小麥四萬町歩、裸麥一萬數千町歩の補充を見せ、農業經營の規模の大なるものを飛躍化せしめてゐる。

果物も豊饒にして年産百萬貫に近く、行政獎勵の掩護射撃の活潑化によつて生産テンポを増進してゐる。總督府の至上法令である北羊南棉主義はいよく適正化されるの域に進み、棉作の品質改良と栽培獎勵の結果陸地棉の早熟性を普及し年産一千萬斤に及んでゐる。

又之れと軒並を合せて蠶業も發展し、桑田一萬二、三千町歩、産繭十三、四萬石の大成績を獲得してゐる。今後一兩年には桑田をさらに五、六千町に増加し、産繭を二十三萬石に記録せしめる達成目標に邁進してゐる。

慶州牛は有名にして畜牛の移出年産二萬頭平均。鑛産は金、銀、石炭、黒鉛、鑛區百五十區餘。林野は面積百三十六萬町歩餘、全道の七割を占めてゐる。

水産物は全鮮一の漁場を獲得し、年百五十餘萬の漁獲を發表してゐる。鯖、鱈、鰈、鯉、鮐、アワビ、エビ、ワカメ、海苔の總額五百數千圓餘に上つてゐる。

商業金融機關としては、大邱、金泉、浦項、尙州、慶州、醴泉はいづれも商業取引の段盛を示してゐるといふもの九割強の農業經營を擁することは、それだけ商業經營の規模を狭小ならしむる理由ともならう。本道の商業團體は大邱に商工會議所があり、龍城、乾州、慶州、義興、咸昌、普門、東村には産業組合が設立され、道外進出の銀行は朝鮮銀行、朝鮮殖産銀行、漢城銀行、東洋殖産會社がある。

製絲工場の主なるものは片倉製絲、大邱製絲、朝鮮生絲等がある。主要土産物としては製絲、織物、鑄物、鑄物金屬製品、紙、酒類、菓子、パン、麵子、菓製品、皮革製品、裁縫品等である。年産實に一千三百萬圓を越えてゐる。

本道の金融組合は村落都市兩組合併せて八十に近い。

其他庶民金融網は擴充されて、商業金融ルートを全面化してゐることは、商業規模の擴大飛躍化に資するものが大きい。地の利を把握し、鑛、土、水産、林野の發展性を將來づけてゐる本道は現本道當局者の行政活動を先駆的伴奏にかさして新たな分野をうち拓くことであらう。

忠清南道

本道も農業本位を前進する指標にある。錦江、曲橋川、炭隈川の沿岸は大平原沃野を擁して各種作物の栽培に適して、三南の寶庫とさへ稱せられてゐる。

一府十四郡七十五面を包括し、行政區域も廣い。農林、牧畜者が大部分を占め、商業、交通業者が之れに次ぐといふ有様である。本道耕地面積は二十四萬五千町歩の中水田十六萬一千町歩、田八萬三千町歩に及び、主要農産物は米を首位とし、麥類、豆類之れに次ぐ。米は百三四十萬石、麥類は八十萬石の年産を記録してゐる。

道當局の米の品質改良、増産計畫の施設は近時とみに活潑に擡頭を見せかけ來り、産米改良組合だけでも四十數ヶ所を數えてゐる。特産物には陸棉、大麻、苧麻、莞草等がある。蔬菜は甘藷、蘿蔔、白菜、甜瓜等が主要であり、梨、葡萄の栽培が盛行してゐる。

畜産は牛皮、牛骨、牛脂、豚脂、牛乳、鶏卵が道外に移出されてゐる。牛は第一位六萬餘頭を越え、馬、驢、騾、山羊、豚も盛んである。

養蠶は積極的に其筋の獎勵鞭撻があり、養蠶目標戸數十二萬戸、蠶繭目標十三萬石、桑田、蠶種、飼育等に萬全の指導を加へてゐる。

林野は面積五十町歩餘、國有林四萬町歩、公有林五萬數千町歩、寺刹林三千町歩、年産額二百萬圓を計上し、此の中で柴草の六十數萬圓は目立つてゐる。

植林計畫の施設徹底化、地方費を以て模範林の設置、森林組合苗圃の設置、砂防工事等に全力を傾倒してゐる。

本道の鑛産は金、砂金、金銀鑛の中金及び砂金は年産〇〇圓に上り、鑛區は本道内に二百三十鑛區を有してゐる。

水産物の中主なる漁獲高は石首魚、鯖、鯛等であり、各種の魚介を合せて年産二百萬圓に達してゐる。水産物製品は鹽乾、煮乾、燒乾、曬藏品、鹽辛品等で四十萬圓に上つてゐる。

本道の工業品の年産は六百五十萬圓以上に概計されるといふ殷盛を窺しむるものがある。織物の百萬圓を首座として、製製品は九十萬圓、其他本製品、麵子、菓子類、莞草莖、植物油脂、麵類は十萬圓に達し、茲に特筆すべきものは杞柳細工である。同製品の技は日本品を凌駕するものがあり、苧布の産出は古い歴史を有し、忠南苧布、幹山苧布は有名である。

以上の農、水、工業に對し商業は湖南、京釜、京南の各鐵道によつて物資が運搬され且つ移出されてゐる。道内には出期開市されてゐる市場が九十個所を有し、市場賣買高は農産物三百八、九十萬圓、水産物百五十萬圓、織物三百餘萬圓、畜類二百萬圓、其他三百數十萬圓に達してゐる。

さらに、本道内に存在する各種會社の數は本支店合計して約九十會社、資本金九千五百六十餘圓、商業、工業、運輸、銀行、其他金融機關、農業、電氣、瓦斯、鑛業、水産等である。

金融機關には殖産銀行支店、漢城銀行支店、預金九百萬圓、貸付一千六七百萬圓、金融組合は村落金融組合四十、都市金融聯合組合支部一を有してゐる。

銀行機關及び金融組合の預金貸出のテンポ率を見ても本島の經濟が精強力に富んでゐることが推知されるものがある。各産業部門に對し一段と綜合計畫性を強化して整備を加えるときには、百揆燎爛の場面を昂揚するであらう。本道當局者は時潮の緊迫化に對處し一般産業に及んで擴充發展政策を進めてゐる。

忠 清 北 道

海をもたないのは本島にたゞひとつ本道あるだけである。海を有しないのは漁獲、海産物となんらの關係をもたないといふことを表現する。東西三十六里餘、南北四十里餘、面積百八十一方里餘。林野の面積は七割五分の比率、西北部に漢江及び錦江の二大州の本支流があり、農作物はこゝを主流して多産されてゐる。

農業が本道の全産業の中核を占めてゐる。農業者九割といふ歴史的勢力を持つてゐる。耕地面積は約十六萬町歩、此の中水田七萬餘町歩、内地人が五百數十人存在してゐるのは特異の風景である。

米が農産の王座を占め、その收穫高七百餘萬石と稱せられ、當局の増産計畫は着々として板について著大の成績を示してゐる。麥類は作付八萬數千町歩、大麥を第一とし小麥、裸麥も相當の收穫がある。豆類は大豆、小豆、綠豆、落花生がある。清北豆の特産は夙に宣傳され、二十萬石の生産を見せてゐる。粟、蕎麥、蜀黍の作付二萬數千町歩、煙草は本島の特産中の第一位を占め、作付四千町歩を越え、二百萬斤の數量に達してゐる。忠州、清州には專賣局がある。

養蠶は桑田四千五百町歩、産繭四百萬石。桑田七八千町歩、産繭七八萬石目標達成に大重になつてゐる。畜産は畜牛六萬頭、養鶏には在來種の改良と良種の普及を計つてゐる。

林野は五十四萬町歩、國有林八萬一千町歩、民有林四十六萬町歩、全道の約七割を占めてゐる。林産物は、薪、炭材、柴草、用材、樹實等で年産二百十萬餘圓を擧げてゐる。

鑛産は金、銀、銅、黒鉛、タニクテン、砂金、蠟石、鐵其他である。産額四五萬圓に過ぎないが、今後の採鑛は極めて有望である。

工業は製紙、醸造、陶磁器、苳、繩等である。清州郡北一面椒井里方面には天然炭酸の泉が湧出し之れにて清涼飲料水を製造してゐる。一ヶ年一千萬餘圓に達してゐる。工産中で繩呷年産五十數萬圓、之等の工業生産は五百萬圓を計上してゐる。

本道商業地帯はなんといつても清州、忠州、永同を擧げねばなるまい。商業の發達が意の如くなかつた原因は鐵道交通の恩澤の低級であつたことである。近年鐵道交通の便繁く、これがため商業取引もとみに旺盛を加え來り、躍進的擡頭を示してきたのは見通せぬ現象である。農、畜産、其他の年賣買高は百數十萬圓に上つてゐる。

金融機關は殖産銀行、忠州及び清州支店をはじめ本島本店銀行の支店設置があり、此の外に金融組合は村落都市組合併せて三十餘ヶ所、預金三百數十萬圓を計上してゐる。

斯かる異常の金融的發展は本島の産業生産のテンポ上昇の指標に外ならない。海を有せざる本島は陸の産業一本道を擡進させ、當局の逞しい指導の鞭撻によつて積極的に發展してゐる。

今後本道の産業發展にはめざましいものが期待されるものと思ふ。

全 羅 南 道

本島の總面積は九百方里四〇五と稱せられ陸地部約七割七分、島嶼一割五分を占めてゐる。氣候溫順にして内地の關東地方に比すべき寒暖位を保有してゐる。

米は本道の誇るべき農産物にして全道の第三位を占め、繭は第一位、棉は第一位の記録を示してゐる。

米收穫は精米二百數十萬石、糯米八萬石、隱米四萬石、麥は各種合算して二百餘萬石といふ數量をあげてゐる。

特に目立つてゐるものは棉作である。この作付四萬數千町歩、産額に於て七千萬斤、桑田は約五萬町歩、産繭は約五萬數千石に上つて絶對優位を維持してゐる。

林業方面を一瞥すると竹の四百餘町歩、全鮮竹林面積の六割に近い竹林を有し、鑛業は金鑛、黒鉛鑛、明礬石、蠟石、硅砂、高嶺等が産出されてゐる。年産二、三百萬圓といふところ。

工業方面では繰棉工場、油工場、寒天工場、竹細工場、罐詰工場、醸造工場、印刷工場、窯業工場、電氣、織物その他の大小工場四百餘に上つてゐる。實に諸工場の生産高を合せ年産二千數百萬圓を計上してゐる。

前記の如く島嶼に富み、海岸線を有してゐると暖寒潮流の調和よろしい爲め魚介草の種類も極めて豊富である。其の漁獲高年一千萬圓に達し、加工水産は四五百萬圓に上つてゐる。養殖事業は古來より海苔養殖が専ら行はれ、牡蠣、灰貝、藻貝、鯛の養殖があり、さらに當局の指導奨励によつて養殖面積は擴大の一途を辿り面積二千餘萬坪、四百餘ヶ所に及び收穫高は百萬圓より二百萬圓に上昇する勢を見せてゐる。

商業方面は木浦、麗水、光州、松汀里、順天、榮山浦、筏橋、濟州、羅州、長城を中心として行れてゐる。市場取引が最も旺盛に全面化されてゐる。市場は百數ヶ所、年額取引高一千數十萬圓に達し、農産物、水産物、織物、畜類各々二百萬圓内外の賣買が行れてゐる。

近時本道商業は面目を一新するばかりに發展し、舊穀の色彩を揚棄して新分野の機構が豊潤に滲透されてきたことは特筆すべき事である。各種の會社數三百數十社、資本金二億數千萬圓を擁し、企業經營の急進は一般商取引を活潑化に導入せしめてゐる。内地は勿論滿洲其他への移出貿易は大に躍進を呈してきた。

金融機關は朝鮮本店銀行の支店、出張所が商業各市の樞要の地に設置され、この外に東拓の木浦支店がある。本道の金融組合は六十數組合、都市金融七、同聯合會支部一がある。貸付金一千數百萬圓に上り、庶民性の無盡金融があり、金融のルートは企業經營の發展テンポに併進して領域が擴大されつゝある。本道の將來性は洋々たる景觀を展示してゐる。

全羅北道

本道は東西四十九里十八町、島嶼を合して六十里五町といふ廣さを有し、南北四十九里、面積五百五十三方里餘、

二府十四郡、百八十八面を包括する行政區域を展望せしめ、米の産出を誇る天與の豊穰地である。

農業者は二十三萬戸、人口の八割を占め、内地人で五十町歩を耕耘してゐるもの百人を數えてゐる。最近の作付反別は十七萬八百町歩、その收穫高百九十六萬石、麥は作付反別八萬二千餘町歩、收穫高七十萬石、輸出港としては群山港を擁し、米の増産計畫に對しては施肥、資材、資金其他抜目のない施設と改良の機關を設置し、立體的計畫を進めてゐるので收穫高も近來目立つて増大されるに至つたのである。

特産物には大麻、苧麻、楮、青麻、莞草、胡麻、荏等がある。水利組合等も既に十三組合を有し、蒙利面積百萬町歩、組合員は一萬人を數へてゐる。

畜産物は畜牛が第一位である。當局の保護牛制度は徹底化され、このために良好の成績をあげてゐる。畜牛取引は五萬數千頭に上り、畜牛取引市場は四十二に及ぶ。畜産中最も多いものは牛肉、鶏卵、牛乳、牛脂、密蠟、牛骨、蜂蜜等の二百數十萬圓を上げてゐる。

蠶業は春秋播立數七萬枚、繭産額四萬餘石、桑田反別三萬一千町歩、生絲戸數一萬八千餘、生絲生産額十二萬疋、郡農會では女子蠶業講習所を各地に設け、部落養蠶組合の設立、蠶種業組合、桑苗組合を組織、蠶業萬般の改良増産に對し當局の専らなる指導奨励は偉大の寄與をしめてゐる。

林野は五十五萬六千餘町歩、成林地四十二萬町歩餘、散生地六萬三千餘町歩、末立木地三萬六千町歩餘、其他三萬八千町歩を有し、本道總面積の七割を占めてゐる。地方費補助によつて植林を奨励し今日までの植栽面積は三萬六千町歩を越え、植栽數量一億二千數百本を數ふ。砂防工事費も百三、四十萬圓に上つてゐる。

漁獲は百五十萬圓、水産品は五十萬餘圓、漁業者は一萬數千に及び、漁船七百餘隻に達してゐる。

干潟四萬町歩を有するので各種の具類の養殖に適してゐる。水産試験所、漁業組合も設置され、水産方面には異常の努力を拂ひ産額の上昇及び計畫の普及に邁進してゐる。

鑛業は金、砂金、金銀鑛、銀、水銀鑛、銅、亜鉛、螢石、石棉等を主とし年産百四十數萬圓に上つてゐる。砂金はこの中百萬圓の地位を占めてゐる。

工業は家内小工業が特有の技を發揮し、繭製品、織物、水産品、金屬製品、其他廢汎の種類に亘つてゐる。菓製品の百二十萬圓、織物の七十萬圓、紙の三十六萬圓、裁縫品の二十萬圓、菓子二十萬圓、主要工業生産は四百七十八萬圓に上つてゐる。

商業は全州、郡山、裡里、井邑、金堤、南原を中心として發展してゐる。市場一ヶ年の賣上高は農産物百四十六萬圓、水産物百四十萬圓、織物七十萬圓、畜産百八十七萬圓、其他百三十萬圓、總計六百七十萬圓を計上してゐる。米穀取引所が郡山にあり、本道の會社數は農業二〇、工業三〇、林業一、水産二、銀行及び金融業約二十、運搬業一四、瓦斯電氣六、其他二十を數えてゐる。商工會議所は郡山にあり、産業組合六組合、組合員四千百九十餘名。貿易は郡山港を中心とし輸出額は米を首位とし三千七百六十萬圓、輸入額は一千四百萬圓に上つてゐる。

江 原 道

本道は東西六十一里、南北六十九里、廣袤千七百里、海岸地方は洋風の調節が、北部高原地方は寒氣が相應に酷し。

農業は本道の人口に對する約九割を占めてゐる農業本位主義、耕水田九萬町歩、田二七五萬六千町歩を有し、水田

三萬町で水田作は至て僅少である。農産物の主要なるものは米、大豆、麥、大麻である。總生産額は四百萬圓に及んでゐる。増殖、改良、施設に對する當局の熱意と努力とは優良品種の普及、土地耕法の改善指導に拍車をかけ内地人を收容して荒蕪地五千町歩を開拓せしめてゐる。道農事試験場があり、鐵原にけ出張所があり、模範栽培所、實地指導所があり、郡農會、道農會の成績は飛躍的に發展を示してゐる。

蠶業は全鮮中に冠を誇るもの、總督の百萬石増殖計畫に順應し、本道は十萬石突破は近きにあり、今日では六、七萬石の産額高を擧げてゐる。桑田は一萬町有餘、産繭の共同販賣所は農會の手によつて行はれ、原種製造所の設立、原種の改良、技術の向上とみに見るべきものがある。

本道の牛は性質優秀、既に二十萬頭に達し、一ヶ年四萬數千頭を産出して、移出二萬五千頭を越えてゐる。道内各市場取引三百萬頭に上つてゐる。

林野は本道總面積の八割を占め二百二十六萬餘町歩、國有林百數萬町歩、私有林又は私有に移屬するもの五割七分餘、金剛山の三千八百尺以上に達する寒帯林區域を擁してゐる。竹林は東海岸の諸郡に分布してゐる。

本島漁業の近況は、漁港の修築、東海岸の鐵道の開通促進、水陸交通の圓滑によつて水産業の發達はめざましい。注文津、汀羅、墨湖津、原浦、平草、庫底等の築港が完成すれば本道の漁獲と水産界の繁榮は驚異すべきものが展示されるだらう。

本道の産業分野の壓倒的勢力を占むるものは農産物にして、とりわけ米、養蠶は二大特産を誇るべき地位を前進せしめてゐる。本道農業經營の規模が近時飛躍化されてきたことは寔に注目し値すべきことである。この背後事情を支配するものは、架設するまでもなく、本道當局者の指導性の昂揚にあり、普及、改善がこれを中核として全面的に行

はれた結果である。

特に養蠶の如きは原始的の技術を拂拭してこれが指導と奨励を積極化し、一面高度の技術を全面化し、産繭には共同販賣所を設け、桑田の擴張を行ひて既に一萬町歩を獲得し、特用作物として大麻の外に棉、胡麻、蔬菜、甘藷、白菜、薯甜瓜、果樹には梨、柿、苹果、葡萄等がある。

土地の改良耕地の擴張を強行し、水利組合十數ヶ所を始め個人又は共同經營による改良と奨励と相俟つて水田面積十萬町歩を突破、成功も近きにあるものと思ふ。米は五十萬石以上を道外に輸移出し品質の良好なるを誇つてゐる。

咸鏡南道

白頭山は國境に屹立し、東部海岸は咸興、安邊、洪原、北青、端川の沃野を有し、その中でも、咸興平野は朝鮮三大平野の一として名高い。

農業が産業の王座を占め、農業中心を以て發展に移行してゐる。耕地面積水田四萬九千九町歩、田三十五萬五千四百三十四町歩、合計四十萬四千四百四十三町歩を有し、その中小作反別は水田一萬九千町歩、田約九萬町歩、總面積に對する二割七分弱を占めてゐる。

農家戸數は十六萬八千四百四十八戸、總戸數に比ぶれば約七割五分の割合である。

而して、兼火田民一萬六千五百二十戸、純火田民七千七十三戸を含んでゐる。米の産額は三十六萬四千四十九石、麥類二十一萬四千二百石、大豆三十萬七千七百八十三石、燕麥六十萬九千五百二十六石、大麻六十八萬三千八百七貫、粟五十一萬一千四百八十五石、總計四百五十一萬八千七百四石を擧げてゐる。その外收藪高は逐年増勢を示し三萬一

千十四石、價格三十萬五千六百三十圓に達してゐる。

林産物も豊富にして薪炭材百八十八萬九千五十一圓、用材百三十七萬七千五百圓、木炭二十九萬二千三百三十一圓、總額五百八十六萬二千四百圓を計上してゐる。

工業方面を一瞥すれば、工場數は動力を有するもの六十四、有しないもの百十七、計八十一ヶ所、資本金一千四百一萬六千圓、従業員二千八百八十六人。精穀の四百二十三萬五千圓、燒酎製造の二百二十六萬一千圓、瓦斯及び電氣の六十八萬三千圓、織工業の三十二萬六千圓、清酒釀造二十七萬一千圓、製材二十六萬三千圓、醬油釀造二十五萬一千圓、一ヶ年間の生産額八百六十八萬六千八百八十二圓である。

さらに、農家の副業として家内工業を加へれば、工産總額は一千四百四十三萬八千二百九圓、その主要なるものは(1)醸造品二、八七一、九九四圓、(2)肥料一、五九二、七九二圓、(3)藪製品一、五二六、〇〇〇圓、(4)織物一、四九七、四九〇圓、(5)動物性一、一一〇、五一〇圓、(6)布帛製品七二九、一三〇圓。

鑛業方面では鑛物の埋藏量にとみ、文川の無煙炭、永興の有煙炭、利原の鐵山、甲山銅店の銅山が有名である。現在採鑛してゐるものは、金、金銀、銅、黑鉛、砂金、石炭、鐵、雲母等である。

咸興の天地はこのところ完全に電力企業化され、窒素肥料會社、長津江水電會社の企業計畫の遂行達成など各種の産業はとみに活氣湧沸の場面を展開してきた。

商業は北鮮の興隆と共に逐日發展し、貿易は元山を中心として行はれ、貿易額一千七八百萬圓を計上し、一般商業も躍進の域に達してゐる。取引高は農産物三百七十萬圓、水産物二百三十萬圓、織物二百五十萬圓、畜類百九十萬圓、合計一千二百萬圓に上つてゐる。元山商工會議所、咸興商工會議所の機關があり、咸興には商品陳列館が設置されて

ある。

金融機關は元山、咸興、北青に各支店銀行があり、金融組合は都市村落兩組合併せて三十七組合及びその聯合會支部がある。

咸鏡北道

本島は面積千三百餘方里を有し、農牧に適する自然條件に富み、耕地未墾地多く、地表には原始林の森林があり、地下には幾多の鑛物を埋藏せしめてゐる。有名なる咸北炭田があり、沿岸二百七里に及ぶ。従つて漁獲、水産の産出高も逐年増勢のテンポを上昇してゐる。

農産物が首位を占め、米の二十萬二百六十石を筆頭として、麥の十六萬九千四十九石、豆類三十六萬五千十四石、粟三十六萬四千五百三十三石、大麻の十七萬三千四十八貫を順位とし、養蠶、畜産之れに次ぐ。肥料の生産を誇るものに鱈鮮粕の七百二十四萬貫、價格二千九百九十九萬九千四百圓があり、其他魚肥、胡麻油粕、米糠を加算して七百三十萬六千三百八十七萬貫、價格二千九百二十一萬五千六百八十八圓を計上してゐる。最近とみに鱈の回游が増加し、鱈の山積せる收穫高は本島財政に寄與する壓巻性の存在といつてよい。

水産業はむしろ魚獲高を凌駕してゐる。明太魚素乾、身火練、開鱈、練臨乾、海參、牡蠣、北寄貝、蟹煮乾、練、鱈、鱒、明太魚卵、臨藏其他罐詰が製造されてゐる。年産額は九百六十二萬二千五百餘圓を擧げてゐる。漁獲高は以上の魚族の外に鯨、鮪、鱈、海膽、昆布等を加へ年額七百四十四萬一千九百六十三圓を計上してゐる。

工業資本を一瞥すると、資本金二、三三〇、八五一圓、工場数は百六十七箇所、従業員一、九〇九人、年産額四百

三十八萬八百二十五圓、工場工業、家内工業を通じての工産高は、まさに一千六百六十二萬四千五百餘圓を記録してゐる。うち織物の六〇七、四一四圓、酒類の一、三九二、三五〇圓、醬油の三七〇、二三五圓、網類の二九五、六一三圓、菓子の一、四二一、五二〇圓、肥料の三、二四五、二六九圓、動物性脂油の三、三一六、〇八四圓を記入せしめてゐる。

金融商業は地の利を占めてゐる。地理的有利の環境を有してゐるため異常の發展を示し、城津、清津、雄基の開港貿易と國境貿易が併進して安打的に發展してゐる。年二千萬圓の貿易金高を示し、日滿のルートに繋ぐポイントの要衝を把握してゐるので、羅津はむしろのこと鐵道沿線に都市新興が華々しく登場されるものと思ふ。

各地の市場取引は六十餘ヶ所、農産物二百數萬圓、織物百數十萬圓、畜類百數十萬圓、水産物七八十萬圓、合計六七百萬圓を占め市場性の高價を博してゐる。

金融機關は朝鮮銀行の清津、會寧の支店、朝鮮銀行の清津、羅南の支店、金融組合が約三十ヶ所あり、さらに東拓も進出して金融網を擴充してゐる。本道の將來は地の利に隨伴する建設的産物の發達膨脹力を握つてゐるのを見通してはならない。

黃海道

本道は東西最長約五十三里、南北五十五里、最短約十八里、面積は四國よりも小さい。鮮内の六位にあり、大平原は一大寶庫に擬すべき豊かなる地表をもつてゐる。

農産物本位にあり、文化機關の發達に後退色を深めつゝ、それは地理的環境の然らしむるところ、それだけ諸相に

開拓的分野を擴げてゐるのは本道の今後の發展指標といつてよからう。

交通機關の發達は沿線より深奥に開拓の觸手を伸長せしめ、資源の開發は益々積極化せられ、投資を試みるものが漸次増加し、近年に於ては各種の生産額は實に一億二千萬圓餘を突破する有様であり、増加のテンポに拍手をかけてゐる。

耕地面積は五十四町歩、其中水田十三萬町歩、田面積は全鮮中の第一位に上り、農業戸數は二十三萬二千餘戸、全戸數の八割を占める盛況ぶりである。

米は農産物の王位を占め、米の八十萬石、粟の九十萬石、小麦の七十萬石、特産物に於ては棉の千百萬斤が産出され、大日本製糖の平壤工場設置を見ると同時に黃州、鳳山の二郡は甜菜の栽培地として面積五百町歩、六百萬斤の收穫があるといふ。園藝物は苹果の百五十萬貫、黃州林檎は有名である。其他畜牛も特産のひとつに數へられ、十四萬二千頭を計上してゐる。養蠶額は繭一萬六千餘石、桑田反別四萬町歩に及んでゐる。

本道は大方天水水田とも稱すべきところ、水田十三萬町歩の中僅かに三萬町歩だけが灌漑の設備を有するだけである。(1)灌漑の改良を爲し得べき地は九八、五二町歩、(2)田を水田に變換し得べき土地七六、四七二町歩、(3)原野及び潟地を開墾し水田と爲すべき土地三二、七六三町歩、合計二〇七、七六一町歩に達してゐる。

本道は礦物性に富み、鐵、金、金銀、硅砂、亞鉛、石炭、陶土があり、その中金硅砂、陶土は豊富にして一千萬圓に達し全鮮の首位を占めてゐる。

鑛山の著名なるものは、遂安鑛、栗浦金山、樂山金鑛、義寧鐵山、段栗鑛山は商工省の所管に屬してゐる。

次に石炭は京義線新鳳山附近にある鳳山炭鑛の採掘を擧げねばならない。一ヶ年の採炭高〇〇噸、硅砂は瓮津郡巡

咸鳴、長浦郡九味浦、蘭金浦が主要なる産地である。

海岸線を饒かに擁してゐるので漁獲あり、又沿海には三十九萬町歩に達する清流干潟地を有し、漁獲高三百萬圓、製造高二百萬圓に及んでゐる。

林野の面積は約百萬町歩、總面積の六割を占めてゐる。即ち成林地一割九分、稚樹地六割五分、未立地一割三分の割合である。林産物は年産七、八百萬圓、木炭、藥草、樹實類は平壤方面に輸出されてゐる。

工業方面を一瞥すると三菱の兼二浦の製鐵所以外は、大方家内工業又は副業的商工業である。最近の工産額は千五百萬圓、生産品の主なるものは、酒類の二百五十萬圓、穀粉の九十五萬圓、織物類の九十一萬圓、藍製品細口の六十萬圓、金屬品の五十八萬圓、窯業製品の五十五萬圓である。

商業市場の開市はまことに殷盛なるものがあり、市場數は一二五に上り、廻數は一年八千數百廻に上り、商品は農産物四百數十萬圓、水産物九十數萬圓、織物二百五十餘萬圓、畜類五百萬餘圓、雜貨二百數十圓、合計一千五百數十萬圓に及び、最近の商取引はますます活潑化される一方である。

海州、沙里、載寧、信川には朝鮮の本店銀行の支店がある。各銀行の貸出は約一千萬圓、商工資金三百數十萬圓に達してゐる。

金融組合は村落組合五十四、都市組合五十八、組合員は六萬五千三百數十人、貸出高は一千萬圓に上つてゐる。商工水産の資金に充てられてゐる。又預金は七百萬圓を越えてゐる。

東洋拓殖の沙里支店があり、貸出は一千百數十萬圓に上り、民間貸金者は百名以上、朝鮮人九百名、その貸出高七百數十萬圓である。

平安南道

本道は東西約四十里、南北約三十里、面積九百六十七方里餘を有し、大陸的の氣候の影響をうけ、極寒期は零下二十五六度を下ること珍しくない。

米がやはり産物の主要を占め今日では九十萬石の收穫高を計上し、粟が農家の常食である。田面梁の三分の一に及び、百萬石の出産を記録し、豆類は大豆、綠豆、落花生、菜豆、豌豆を數えその收穫量は六七十萬石に達してゐる。小麦を主とし麥類を合せて五十萬石、雜穀も五十萬石餘を生産し、平壤蕎麥の名は高い。特産物は、棉、大麻、煙草、杞柳、棉花栽培である。煙草は專賣局の適切なる指導により五十萬貫以上を生産、胡麻、楮、荏、莞草の栽培盛んにして總産額三百數十萬圓に上つてゐる。

本道は苹果に適し、同業組合が既に設立せられ、その生産額は百三十萬圓に及んでゐる。梨、葡萄、桃の收穫を合計すれば百四五十萬圓に達するといふ。

機械製絲工場も盛んである。改良家蠶絲製造業者併せて三四萬貫を生産してゐる。

平壤牛は噴々たる聲價を博し、飼育増産の奨励、資金の貸付が全面化せられ、畜牛十萬頭、生産高三萬餘圓、移輸出八千頭、屠殺三萬餘頭、一ヶ年の賣買高四萬數千圓に上るといふ。養豚事業も却々旺盛である。

林産物は用材、薪炭材、枝葉、柴草、木炭種、藥草、五倍子、木石類其他で四百萬圓の産出高を記録し、平壤栗の年産一萬石、三十數萬圓に及んでゐる。京城線平坦部の荒廢林三千數百町歩に亘り、防砂事業の完備と治水計畫の達成とは保護國有林の經營に資するものが多い。

平安北道

鎮南浦を除いては良港少なく、製鹽は天日鹽、煎鹽、再製鹽等にして年額百五十萬圓に上つてゐる。

工業立地に富み、大小工場四百を越えてゐる。製糖會社、電氣興業會社、小野田セメント、日本鑛業、朝鮮商工、日本製粉工場がある。其他官有工場も設立されてゐる。

商業金融は平壤を中心とし、西鮮物資の集散鎮南浦を有し、殷盛なる取引が行れてゐる。交易市場數十ヶ所、一ヶ年間に農産物四百萬圓、水産物百六十萬圓、織物二百數十萬圓、畜類四百五十萬圓に達してゐる。

商工業の機關として平壤商工會議所、鎮南浦商工會議所がある。本道を通じて主なるもの五六十社を算じ、公稱金六億萬圓、拂込資本一億四千餘萬圓を有し、鎮南浦を中心とする貿易は輸出入合計九千餘萬圓に上り、金融機關には銀行、金融組合、無盡會社があり、金融組合は四十數組合、預金九百萬圓、貸出八百萬圓に及んでゐる。

本道は東西七十五里、南北六十五里、面積二千八百四十四方里を有してゐる。鴨綠江は鐵道と共に本道交通の二大幹線を成すもの、百五十里の間戎克船又は筏が通ずるのはあまりに有名なる鴨綠江の風景であり、歴史を飾る挿話でもある。

平北米を産する本道の全耕地面積は四十萬町歩、水田約九萬町歩、田三十二三萬町歩を有してゐる。農民百二十萬人、米産額百十萬石に及び、七十萬石を道外に移出し、日本の米の不足をカバーしてゐる。

従つて米に對する施設改善はぬかりなく行はれ、粟は田作物中第一位にあり生産八十萬石、大豆は粟に亞ぐ重要品であり、玉蜀黍は年産四十萬石、全鮮の半を占めてゐる有様である。棉の生産高は六十萬圓、大麻八十萬圓、特用作

物全部では百五十萬圓以上に達し、苹果は實に十五六萬圓を越えてゐる。

平北の牛は温順で強力を以て知られ、美味第一、畜牛頭数は二十萬頭、年産四五萬頭、道外移出二萬頭、豚の移出も道外に二萬頭餘を移出されてゐる。

畜産物として牛骨、牛乳、鶏卵、豚脂、蜂蜜等があり、牛肉の百萬圓をはじめ畜産品は三百萬圓に上つてゐる。本道の産物は五萬石餘に達し又柞蠶も盛んにして飼育林二千町歩、養蠶國の平安北道は有望なる前途を物語つてゐる。

林野地帯は本道の八割強、林野面積は二百三十萬町歩、國有林百十萬町歩、道地方林一萬町餘歩、林野經營に對する總督府の獎勵、國庫補助等が行れてゐる。

鑛物は金の外に銀鑛、黒鉛、砂金、石炭等であり、全鮮の六割の産出高を占めてゐる。本道の工業生産は木材で、營林署直營の製材工場大小數十ヶ所、年産六百萬圓に達し、洋紙は年産三百萬圓を越えてゐる。

この外に工産品として薬工品、酒類、石炭、眞輪器、靴下、豆油、豆粕、窯業製品、鉛類、皮革類、植物性油脂、布綿加工品があり、之れも年産二千萬圓に上る。

水産物は年産四百萬圓に上り、漁業組合、道水産會、龍岸浦水産學校等が設立されてゐる。

本道内にも各郡に二三ヶ所、又は十數ヶ所の市場があり、農産物に於ては八九百萬圓、水産物に於て百數十萬圓、織物に於て四五萬圓、畜産三四萬圓、合計二千數百萬の巨額に達してゐる。尙ほ魚類専門の市場が新義州、龍川に於て數十萬圓の取引を行つてゐる。

金融機關は新義州、宜川、博川、寧邊江界に朝鮮殖産銀行の支店があり、金融組合村落都市を合せて二十數ヶ所、農工商漁各業者に潤澤なる融資を與へ、専らその發展を促進してゐるのである。

産業篇

農業

いづれの國家の歴史を見ても、農業は一國源泉の産業地位を指標し、先づ一般産業は農業からといふスローガンに歴史的發展性の命題を物語つてゐる。朝鮮もそのとおり、農業國として農産部門の地位が高度の歴史を維持し、工業はいはゞ農業の內的哺育によつて發達し、即ち農業を温床として諸産業の萌芽は培へられたのである。

農業時代から工業時代への轉換は、とりも直さず工業生活が農業依存性から脱離された言葉に表現されやう。その依存から脱離された、いはゆる農業依存の脱離の彩こそ、朝鮮の近代的産業文化を表徴する道標でもある。

けれども、朝鮮農業の地位は決して王座からひきずりおろされたといふのではない。農業生産のキイ的比重はあらゆる角度に於て輝しい光芒を投げ、殊に食糧の需供問題が喧しく而かも支配的に戦時經濟の面に巨影を露出してゐる現實の面からも、朝鮮農産物の母胎たる米の増産寄與は、國防國家建設と生産擴充の兩面を完遂する視野に歴卷的の評價を標示してゐるものといへやう。

何れの國家に於ても農業は基本評價の對象である。土地は農業政策の中心評題にされ、生産の根本改革の理念は土地制度の再編成にあり、またこれを原源とする理念に方面づけねば農業問題は容易に根本的の改革が不可能であるこ

とは今更梨説する必要もないのである。

土地制度の創設が生産、流通の部面からもかなり高度にとりあげられてゐるといふ論議はこゝで解決的の巻を結ぶ紙面の餘白を與へられてをらない。たゞ何れの國家に於ても土地制度なるものゝ改革には、歴史的、傳統的、地方的手伽をもつてゐる。土地の改良事業の推進の一面には、行政的にも、かなりの困難に立たせられるものがある。

朝鮮は由來農業に適し、適地適作の規模を擴充するに適性をもつてゐる。殊に、南部地方は氣候晴氣に富み、農作物の成熟に適當してゐる。冬季は寒氣が相應に烈しいけれども、麥類の如き冬作物は枯死の虞もない。年中概ね空氣が乾燥してゐるので、收穫物の品質に於ても極めて良好なる成績を示してゐる。

ところが、灌漑に設備完全の域に達してゐなかつた時代は、用水の不十二分なるために旱害に曝られること珍らからず、旱魃の災に悩みつけられてゐたのである。

爾來總督府の水利事業の改良發展により且つ産米の増産計畫の緊要化は、自らこの方の施設にフルの改良と努力とを傾ける結果となり、さらに、大正九年から約十五箇年に亘つて土地改良事業を施行することになつたのである。

次いで、大正十五年さらに計畫の一部を更正し、同年以降十四箇年を期し三十五萬町歩の改良事業達成に萬全の努力を拂ふことになつた。昭和九年五月内外兩地の米穀事情に鑑み、本計畫は窮迫化する米穀事情の解消するまでは當分の間はこれで中止することにした。

米 穀

増産計畫の核心は土地の計畫化を要請すると同時に、未墾地の規模の比率にあらう。いかに机上プランを優位に樹

立しても未墾地の適當規模を有せざれば實踐の裏付は不可能であらう。適正規模の計畫の裏返しは未墾地の増大をもつことなのだ。

朝鮮は河邊荒蕪地又は山麓傾斜地にあつてはその面積は概計九十萬町歩と稱せられ、咸鏡南北及び江原道地方は一箇所でも數百町歩に亘るものがあるといふ。

さればこそ、總督府は國有未墾地利用法を施行し、未墾地の利用を奨励し、面積十町歩のものは道知事の處分權限を許容し、それ以上を越ゆるものは總督府の許可を受けることになつてゐる。

貸付期間は十箇年を限度とし、貸付料は一町歩につき五十錢、特別の事由ある場合は減免するといふ條文を設けてゐる。さらに事業成功及び拂下に對しては便法が與へられてゐる。

國有未墾地は田、水田に開墾するものを理想としてゐる。昭和十三年末現在に於ける附與拂下げは一萬五千百十四件、面積實に三萬二千二百六十町歩、現在貸付許可中のものは二千四百四十件、面積一萬三千八百五十一町歩に達してゐる。

さらに、大正十三年八月以降朝鮮公有水面埋立令施行の結果、埋立及び開拓に對しては同令の適用を受くることになつたのである。比較的大面積を擁してゐるのは公有水面である。一箇所數百町歩に及ぶところすらある。内地のそれにくらぶれば設備利用の資は驚くほど少量にてこと足りるといふ有様である。地味肥沃にとみ、収益率多く、干潟地の各道合計面積は約二十萬町歩に達してゐる。内土地改良基本調査計畫に依れば、開水田見込面積七萬三千三百五十七町歩、事業未着手にして將來開水田し得る面積は二萬七千四百九十一町歩に及んでゐる。

昭和十三年度末現在に於ける竣工認可は三千七百七十四件、面積四萬四千九百二町歩、現在埋立免許中のものは一千

九百三十九件、面積二萬七十二町歩である。

こうした面積の拡大を擁する朝鮮の開墾干潟こそ實に將來に於ける農業規模の完成を構造する基本的役割をもつてゐると見てよい。戦時食糧の増産計畫は、兵器擴充計畫と表裏するものである。内地米の増産計畫が春日遅々として進まぬのは、幾多の矛盾面を機構の編成に打つてゐるとはいふものゝ、その中心命題となるものは、土地の開拓が限界を衝いてゐることにあらう。労働力の減退、農具供給の困難、農村價格のシエレー激化等も増産計畫の手働の最大的存在となつてゐるのも見落されまいが、所詮は土地擴充がもはや限界線に達し、別言すれば耕農面の既存を擴充することが出来ない。いはゆる既存の耕地面に依存する外なく、増産計畫が肥料の過大供給といふ一手にたよる外に、さらに手を施すべき建設的經營の餘地がないことに一抹の悲觀を抱かずにをられないのである。

この觀點に立つて、朝鮮の開墾水拓の有望なることは、増産計畫を單一性に發展せしめ、なんらの農業經營機構を煩さずとも、スミーズに成果を收め得らるゝといふ自然條件の惠澤が、机上プラン通りの増産計畫を實踐せしむる槓杆の役割ともならう。

さて、視野を農業者の状況に轉移して見ると、大地主といふものは多く都會に住居してゐる。いはゆる不在地主の過多を占めてゐることも將來土地改良計畫に對する根本的課題を殘しをるものと見てよからう。

故に不在地主に替ふるに土地管理者が登場し、小作料を徴收してゐる。小作料徴收の方法は(1)秋期に檢見を行ひ、生産額の二分の一を標準として小作料を定むるもの、(2)收穫物を折半し、その一を小作料とするもの、(1)年の豊凶に拘らず一定の小作料を定め置くものゝ三種である。

昭和十三年度農業戸數を掲ぐれば、

農業者戸數		被備者	
自作	小作	純火田民	計
自作兼小作	自作兼小作	純火田民	計
五五二、四三〇戸	七二九、三二〇戸	一、五八三、四三五戸	七一、一八七戸
内地人	朝鮮人	滿洲國人及中華民國人	其他ノ外國人
七、三二九戸	三、〇四二、七九二戸	二、二七一戸	三、〇五二、三九二戸

(備考) 本表中被備者とは耕地を所有並に占有せず、他人に雇傭されて農業に従事し、獨立の世帯を樹つる者を謂ふ。

米は農産物の中で王座を占めてゐる。總督府はこれが増産に全力を傾け、内地食糧増産にタイアップして米の増收は文字通りの血みどろの線上を奮進してゐる。さすがにその努力は酬ひられ、今日では收量品質に面目を一新し、朝鮮米の品質は内地米をしのぎ、生産高は昭和十三年に於て二千四百四萬石、輸出高は九百六十萬石、この價格は二億一千三百七萬圓の巨額に達してゐる。さらに昭和十四年度以降増産計畫を樹立し、朝鮮米の増産飛躍に待つ内地食糧の不足がカバーし得られる要望もさることながら、大陸經營への兵站基地の使命完遂に表裏するものは主要食糧の供給を完成することにあらう。兵站基地は産業基地にを替ふる命題にある。これを至上命令として國策の線に邁進を命じられて朝鮮の産米計畫化はあまりにもキイ・ポイントに立たせられてゐる視野を飛躍させてゐる。

米と棉

米について甘藷、果實、蔬菜、棉花を擧げて見たが、茲では棉花の栽培の片貌を指摘することにした。

棉は咸鏡南道の一部及び咸鏡北道を除く各地に栽培を營れてゐる。とりわけ、全羅南道、慶尙南北道及び黃海道はその主産地を誇るもの、忠清南道、全羅北道、平安南道及び忠清北道之れにつぐ。

明治三十九年以來政府保護の下に收量綿歩合低く、纖維細長にして紡績原料に好適せる米國種陸地棉の栽培を奨励し、好成績を得たので年々其の栽培反別を増加し、同四十三年に於ては陸地棉作付反別一千二百六十八町歩、栽培戸數百九百餘萬戸、昭和十三年には作付反別十八萬八千九百五十町歩、栽培戸數百九萬七千四百二十戸の激増を示し、尙陸地棉に不適なる地方には在來棉を産し、昭和十三年に於てその作付總面積四萬六千六百二十二町歩、栽培戸數二十四萬六千五百八十八戸に及んだ。

さらに昭和十三年は生育前期に於ける氣温の降下、連續的霖雨並に後期に於ける長期の旱魃に因り作柄不良であつたが、尙生産高は二億一千三十三萬二千二百二十一斤といふ數字を獲得したのである。

養蠶

養蠶は封建的粗惡飼育を一擲し、總督府は施政以來各農蠶獎勵機關をして朝鮮に適する優良種の選定に協力する一方、内地より積極的に優良種を移入し、あらゆる缺陷を補正し、普及計畫を樹立しその達成に全幅の努力を傾けたのである。桑苗の主なる生産地は當初は慶北、全南、慶南、京畿、忠南等であつたが、現在では全鮮に生産され、大正十四年の産繭百萬石増産を樹立し、植桑獎勵補助金まで交付し生産の高度化を促進したのである。

而して一方原蠶種の配付及び地方的試験調査を行ひ、大正八年四月朝鮮蠶絲會並にその附屬法令を發布し、道に蠶業取締所を設置し、蠶種製造移入に制限を加へ、一面養蠶業獎勵機關に於ても鮮内の風土に適應せる蠶種の選定につとめ、優良蠶種を製造し之れを全面的に配付したのである。

昭和十三年の統計を見れば蠶種製造者は全鮮を通じて二百九十九名、その蠶種製造高百八十八萬一千六十六枚に及

んだのである。

朝鮮總督府は大正十四年より十五ヶ年を期し、産繭を百萬石に増産する計畫を樹立し、爾來年々國庫より補助金を交付、昭和十二年度を以て補助金を中止し、別に桑田肥培施設補助として昭和十三年度より向ふ五ヶ年間毎年四六、二九〇圓を補助することにした。

生絲は、漸次機械製絲に依る輸出向生絲を製造するに至り、昭和十三年に於て機械製絲釜數九千二百八十二釜、生産高三十七萬一千五百五十二貫、價格一千六百八十三萬三千六百五十五圓を計上した。その他の製絲法によるもの釜數三十三萬九千二百九十五釜、生産高二十萬四千九百五十八貫、價格六百七十五萬六千九百九十六圓となる。

朝鮮總督府の農業指導は内地に見るやうな多角的理論を排して、一貫性を高揚に邁進することによつて特徴づけられるものが窺れてゐる。指導はむろん勸農政策に重點主義を強化する。農業政策の巧手によつて、農業再編成とすしかへるといふ狡猾のさらにないことが朝鮮農業の行政的純度性を高めるものがある。

先づ指導的勸業機關として、農業試験場を設置し、農業、蠶絲業、畜産の改良發達に關する調査、試験、種苗、蠶種、種禽、種卵の配付、講習及び講話を行ふものである。これが本場を京畿道水原に設け、支場として南鮮支場を全羅北道裡里に稲作の試験調査を、西鮮支場を黃海道沙里院に、畑作に關する試験調査を北鮮支場に、咸鏡南道甲山郡普大面に北鮮農事に關する試験調査、木浦棉作支場を全羅南道木浦に棉花に關する試験調査を、龍岡棉作支場を平安南道龍岡に、棉花の試験調査を、金堤干拓出張所を全羅北道金堤に、干拓に關する試験調査を、車籠蠶業出張所を平安北道車籠館に、蠶業に關する試験調査を、女子蠶業講習所を本場に、蠶業に關する學理實地を講習せしめ、昭和十二年までの卒業總數七百八十餘名を數へてゐる。

農業團體として主なるものを擧げて見れば先づ果物同業組合がある。(イ)鎮南浦果物同業組合、(ロ)三浪津果物同業組合、(ハ)慶尙北道果物同業組合、(ニ)黃州郡果物同業組合、(ホ)羅南鏡城果物同業組合、(ヘ)金海郡果物同業組合、(ト)元山果物同業組合、(チ)安邊郡果物同業組合。

蠶業方面の團體には、(イ)朝鮮蠶絲會、(ロ)朝鮮蠶種製造組合中央會、(ハ)朝鮮製絲協會、(ニ)朝鮮桑苗組合聯合會等がある。此の外に水利方面に關する組合及び團體が成立されてゐる。さらに米穀倉庫の創設があり、農會、産業組合を主體とする農業倉庫がある。

農業倉庫一覽

道名	設置箇所數	坪數
京畿道	七	六、四〇二
忠清北道	五	一、二五〇
忠清南道	七	二、四五〇
全羅北道	七	二、九六四・三五
全羅南道	六	二、八三二
慶尙北道	一〇	六、八〇八・七五
慶尙南道	八	二、〇六三・六
黃海道	三	一、五二四
平安南道	四	一、五三三

畜産——朝鮮は地方的一色に畜産に適してゐる面を押し出してゐるのも農業生産の特徴性ともいへやう。牛は畜産の代表的のもので、生牛、牛皮の内地移出は年額五百萬圓乃至八百萬圓に達してゐる。蕃殖牝牛の設置、低利資金によ

る耕牛の預託、畜牛共済事業の奨励がある。施政當時七十萬三千八百頭に過ぎなかつた畜牛數は現在では百七十萬三千頭に上り、平均成年牛一頭、牡百一圓、牝八十四圓内外である。乳用牛はホルタイン種、年内搾乳頭數は約千五百頭、搾乳量一萬八千餘石に達してゐる。

馬——在來馬は體格矮小持久力に劣つてゐるので、蒙古牧馬を交配せしめて質の改善を行つてゐる。現在二千頭の馬が飼育されてゐる。朝鮮馬政第一期を立て有能馬の増殖を圖つてゐる。昭和十二年度より十五ヶ年に良馬四萬頭目標達成を狙つて鋭意努力することになつた。

騾——乗駄輓用に供せられ一頭の價値は約三、四十圓、騾は五、六十圓内外である。

綿羊——朝鮮の風土に適するコリデル種を選び之れを奨励してゐる。民間牧羊場の保護を爲すと同時に、咸北明川郡阿門面に國立種羊場を設置し飼料の豊富なる西北鮮地方の農家に副業的飼養を爲さしめ、昭和十二年度平南順川郡段山面に國立種羊場を設置して全鮮に及ぼすことになつてゐる。

豚、家禽、養蜂——豚はパーク・シャイ種を傳播奨励せしめ昭和十三年には總頭數約百五十七萬頭の約六十三%に達し、家禽は鶏が首位を占め鶩、七面鳥の數は多い。昭和十三年末には總羽數約七百十六萬羽。養蜂は江原道、平安北道、慶尙北道に於て最も盛んに飼蜂されてゐる。密蜂生産高九十九萬七千圓、近時改良種としてイタリアン種、アーニオラン種を飼養するやうになつてきた。

林業

朝鮮林野の總面積は約一千萬町歩、實に全土の七割三分強を占めてゐる有様である。總督府は明治四十四年森林法

令を制定し、従来の森林法を廢し、國土の保安、危害の防止、水源の涵養、公衆衛生及び漁業又は風致上必要と認むるものは之れを保安林に編入して自由なる施業を爲すことにしたのである。

さらに、造林貸付の制度を設け、造林事業の促進を図り、毎年、年中行事として記念植樹を行ひ、或は防砂事業、或は保護指導機關の充實を計り逐年林相を改新した。林相の最近の統計を抜萃する。

林相別面積（昭和三十三年の現在）は、(1)立木地一、五二町歩、(2)敷地二、一〇二町歩、(3)無立木地一、一六八町歩、(4)その他一、五三五町歩、合計一六、三一八町歩を示してゐる。

國有林の經營については専ら公的施設の機關が擴充され、大正十五年六月林政の改革を行ひ國有林の經營、保護、民有林の指導獎勵事務を統轄するため本府に山林部を設け、新に三十六ヶ所の營林署を特設し、昭和四年十一月營林業績の向上を期するため十ヶ所に廢合して經營、昭和七年八月營林署中八營林署はこれを廢止し、その所轄林野を道廳に移した。昭和十年末現在營林署の管轄は三百四十四萬町歩に達してゐる。

さらに將來經營プランとするものに林野約三百八十萬町歩を目標としてゐる。

産物の賣却は一時賣却の外、年期賣却の方法を設けてゐる。今過去五ヶ年に於て立木賣却高を示すと、

年次	材積	價格
昭和六年度	九八一、三〇九	七一三、四七四
同 七年度	一、二四五、八三六	一、〇二七、四九二
同 八年度	一、五三五、六六二	一、七八三、六五四
同 九年度	一、五三四、三六二	二、二七二、〇三一
同 十年度	一、四一二、六四一	二、三三三、四五三

この外に鴨綠江、豆滿江の上流地方たる咸鏡南北道及び平安北道の國境地方には國自ら伐木事業を經營してゐる。國有林の保護取締については、鮮内に四十八ヶ所の道森林保護區及び二ヶ所の營林署保護區を設置してゐる。一面森林令により地元住民に連帯の責任を負はしめて保護を命じ、その報酬として林産物の一部を讓與する特權を與へて官民相互の便益を圖つてゐる。大正三年之れを實施し、昭和十一年十二月末の現在に於てはその數七百五十一ヶ所、區域面積四百二十八萬町歩に上つてゐる。

なほ、國有林野の貸付を受けたるものに對しては事業の成功した場合に於て特にこれを讓渡され得ることになつてゐる。

既に昭和十年二月までに八萬二千三百七十二件、面積百三十六萬二千百十九町歩を貸付、二萬四千三百四十七件、面積七十萬二千九百二十一町歩を事業成功により讓與されてゐる。

民有林——民有林野は公有九十三萬町歩、寺刹有十八萬町歩、私有九百五十七萬町歩、合計一千六十八萬町歩、第一種保安國有林野十七萬町歩は森林令又は特別綠故森林讓與令により民間に移屬するから將來の民有林は一千七百七十萬町歩に達し、林野面積一千六百三十四萬町歩の約七割に相當する。昭和十一年末の民有林野面積中立木地は七百六十萬町歩に過ぎなかつた。散生地百三十萬町歩及び未立木地六十四町歩は今後人工を加へ且つ天然力に依存して造林を要する國境域にして内二十一萬町歩は防砂工事を要する荒廢地である。

記念植樹——これは愛林思想の涵養と表裏し、明治四十四年併合後第一回神武天皇祭を期し植樹を敢行せしめたのである。爾來年中行事のひとつとして官公署、學校、其他の諸團體が中心となつて之れを行ひ、第二十六回に至る植栽本數は四億八千餘本に達してゐる。

造林補助事業——今尙ほ植林を要するものは四百六十萬町歩に上つてゐる。その内約二百九十五萬町歩は、天然造林または造林成功を條件とする國有林の貸付制度によつて漸次成林せしめる見込である。殘餘の六十五萬町歩には造林費調達上比較的の苦痛の程度少なく、自力を以て造林を行ひ得べきもの約三割を有するも、その他の七割、百十六萬町歩は造林費調達に又苦痛多きを以て相當の補助金を下附しなければ造林を期することが不可能視されてゐる。

造林補助の率は苗木代金の約半額は一旦之れを道費に交付し、道費はさらにこの半額即ち一町歩には十三圓を補助する制度で、補助金の交付に必要な造林の設計審査、成功検査及び之れに伴ふ處理する職員設置に要する経費も道費に補助し、道費をして之れを設置せしむるものである。

其他保安の施設、保護取締を積極的に勵行して林産の向上を夙に圖つてゐる。

林産物——林産額は全鮮を通じて約一億圓内外を計上してゐる。昭和十一年度に於ける生産額は約一億一千四百萬圓、その内譯は用材一千八百十四萬圓、薪材二千六百四十一萬圓、枝葉其他の林産燃料四千六百六十三萬圓、竹材二十五萬圓、木炭二百六十九萬圓、肥料原料及び家畜飼料一千五百十三萬圓、その他の副産物品は百七十五萬圓である。

水 産 業

朝鮮は沿海線を豊有する天恵を確保してゐるので水産の朝鮮は一國財政に對して甚大なる寄與評價を記入せしめてゐる。各種水産に關する施設及び之れが調査、指導、獎勵機關は公私共に積極化されて逐年水産業は飛躍的に増大され、また生産高は加速度的に向上されてゐる。昭和十三年度に於ける漁獲高八千七百八萬圓、養殖生産高百九十二萬圓、製造高九千六百八十一萬圓、今その漁獲高百萬圓以上の産額のもの指摘すると、まいわし一三、八六二、五三

圓、さば五、八一六、八七二圓、かたくちいはいし四、三八三、四五〇圓、えび二、〇九五、四〇七圓、にしん二、六六四、六一八圓、めんたい一〇、二二七、九九四圓、たし一、七二八、二二二圓、かれい二、二六〇、九六八圓、ぐち五、二八九、五三七圓、きわら一、〇九一、八八九圓、たちうを二二、〇四五、二九七圓、にべ一、〇六二、二六一圓、あじ一、三三五、八一九圓、ひらめ一、〇四二、四三三圓、たら一、五三〇、一九四圓。

更に百萬圓以上の産額のものを見て見ると、(1)素乾めんたい一〇、三九七、二二二圓、(2)鹽藏ぐち一、二九七、三一九圓、(3)乾のり五、三七九、二二二圓、(4)いはいし搾粕一九、二七一、一二五圓、(5)鹽乾ぐち一、〇八二、〇一九圓、(6)いわし油二四、二二四、六〇八圓、(7)煮乾いわし四、二三八、八七五圓、(8)魚粉二、三一一、七二〇圓、(9)めんたい卵一、八七七、四二七圓、(10)トマトサージ一、四四七、二八六圓、(11)鹽藏さば一、一五三、六九六圓。

以上の如く多額の水産高を記録してゐる半面には幾多の發展機關のあることはむろんのことである。同時に水産試験及び調査機關を設置して水族の種別、公布状態、習性等を研究し、漁獲物の處理及び蕃殖保護の方法を専ら研究してゐる。本府は大正元年以降九年度まで水産調査及び各種試験を行ひ、さらに大正十一年度には釜山牧五島に國費に依る水産試験所が設立され水産事業發展のため全力を傾倒してゐる。清津に北鮮支場の設置があり、茲では主としていはいしの處理について試験事業を行つてゐる。

發展指標——水産業の發展指標は日本海方面と多島方面と黄海方面の三大面を挙げねばなるまい。それ／＼地域的に水産の特殊性をもつてゐる。日本海に面したる豆満江から釜山港に至る東海岸は延長二千軒に及び、水深くして魚族の棲息に適してゐる。咸境南道のめんたい、江原道のいわし、慶尙北道のにしん等は近時發展の顯著なるを見るに至つた。

多島方面は釜山港から且つ木浦に至る南海岸、大小の島嶼散在し廣漠なる海域を占めてゐる。あじ、さば、たい、さわら、はもの漁獲に富み、その年産高は巨額に達してゐる。

黄海方面は、木浦から鴨綠江に至る西海岸は海底浅く、水深五十尋を越えない。さらに干満の落差甚だしいので冬季漁族の棲息に恵れない。ぐち、たい、あじ、さば、にべ、ひらめの豊漁あり、盛漁期には全羅北道、青島附近から黄海岸延坪島に至る間に七、八百隻の漁獲船が漁獲陣を展開せしめてゐる。のり、かき、あさり、はまぐり等の魚介類の養殖にも適してゐる。

本府は昭和二年此等の増殖奨励を施行し、近年大に養殖面積を擴大し、干潟地利用養殖事業は刮目に値すべき今後を展望せしめてゐる。

鑛業

朝鮮の鑛工業は飛躍的に高水準へと記録を上げ、鑛業部門の王座ともいふべき金の鑛産稼行は過大に評價されてゐる。朝鮮の全土これ金ならざるはなく、金の鑛派によつて地層が構成されてゐるといふところには、金の睡眠ははじめて稼行によつて全面的にゆるぎ起されることになる。

金が國際貿易の決算手段として不可欠なるのはひろんのこと、世界の新秩序によつて金の國際價值は一應の修正が試みられるかもしれないが、金の爲替の全面的役割を解消するといふことは到底考へられない。

日本の國際貿易が英米依存主義から離脱し、世界經濟の隷屬から脱却されることになつても、金の役割は依然として現状を維持し、輸入増強の奏功力を發展せしむることにならう。

外貨獲得と金との關係は宿命的不可分の關聯にあるだけに、金の産出に對してはフルの稼行を傾倒して積極的に増産敢行を全面化せしめねばなるまい。

金の採鑛に對しては政府も補助金政策を強化し、一オンスの金塊も虎の子にして現階段の物資需給のルートを豊かならしめ、この至上命令にわが戦時經濟は遂行に全力をさづけてゐる有様である。この秋に際し、金鑛床が全鮮到る所に存在するといふことは、なんたる幸福であり、天祐であるかに感謝せずにはをられまい。

ところで、金鑛床の存在するところは、平安北道、咸鏡南道、江原道、忠清南道が首位に輝き、忠清北道、平安南道、慶尙北道、京畿道、黄海道、全羅北道、慶尙南道、全羅南道、咸鏡北道の順位となつてゐる。

而して著名なる鑛山は、日本鑛業株式會社の平安北道雲山及び大楡洞鑛山、之れに次ぐものは慶津、金井、咸興、光陽、發銀、新延、義州、樂山、筋洞、遂安、無極、三菱三光、慈城、長津、永中、九峰、宜川、中央、徳陰鑛山等である。何れも年産額〇〇圓以上と稱へられ、其他盈徳、女明、尙州、海州、吉祥、三成、住友高原、大嶺、新興、青岩等に指を屈するものである。

一方砂金は、金堤、稷山、順安、永興、金清川、前井、金沓等で何れもドレッチャーを以て採金をなしてゐる。まさにこれ全鮮の金鑛層を誇るものであり、黄金塔林立の偉容に比喩するよりも、わが戦時經濟の發展的確保に對して鬼に金棒ともいへやう。

鐵はキイ生産のキイ核心性であるばかりか高度國防の搖ぎない完途は鐵に基本的理念を依存しなければなるまい。日本の宿命的に不足なる鐵の生産こそ、東亞共榮圈確立となる基礎的役割を標高するともいへやう。

幸なる哉、朝鮮にも鐵は産出されてゐる。赤鐵鑛、褐鐵鑛、磁鐵鑛の鐵が産出される。赤褐兩鐵鑛の混合したもの



に平安南道、价川及び黄海道載寧、銀龍、下聖、黃州、兼二浦等の鐵山がある。赤褐兩鐵鑛石の埋藏量は五〇%以上のもの約二千萬噸と推定され、昭和十一年には六十三萬餘噸を産出してゐる。兼二浦製鐵所はあまりに有名なる存在であり、整備宏觀の企業を形成してゐる。

さらに今後重要視されるものは磁鐵鑛である。その主なるものは咸鏡北道の茂山鐵山であつて、その平均品位は三十八%であるが、埋藏量の巨大を擁してゐる。

石炭と鐵とは生産の二元的要素となるもの、朝鮮に於ける石炭の存在は戰時經濟の生産擴充の面にクロズ・アップしてゐる。朝鮮の石炭には褐炭と無煙炭との二種があり、褐炭は咸鏡北道吉州、明州、鏡城炭田、會寧地方の會寧炭田及び雄基、訓我間の鐵道に沿ふて散在する慶源、慶興炭田を包括する咸北炭田最も依存量多く、その他平安南道安州、黄海道鳳山、咸鏡南道咸興の各炭田がある。その埋没總藏量四億萬噸と推定せられてゐる。

朝鮮の褐炭は比較的低温乾餾など人造石油工業の原料として適してゐるため、朝鮮窒素肥料會社に於ては昭和七年八月咸鏡北道明川郡永安に於て此等の石炭を處理する低温乾出しつゝあり、さらに朝鮮石炭工業株式會社に於ては昭和十一年咸鏡北道阿吾地炭田に於ては水素添化による直接液化工場を建設し、その製品を市販しつゝある。

無煙炭は褐炭に比しさらに大なる範圍に埋藏されてゐる。全埋藏量約十三億五千萬噸と稱せられてゐる。

現在に於て全産額の大部分を産出してゐるのは平壤炭田である。この外咸鏡南道文川、慶尙北道間慶、全羅南道和順等の各炭田及び平安南道北部炭田の一部に於て稼行されてゐる。

このほかに有望視されてゐるものに、江原三陟、寧越炭田及び咸鏡南道高原炭田があるが、この内寧越炭田は朝鮮電力株式會社が元山附近に火力發電所を建設しその燃料として同炭田の開發をなしてをり、又三陟炭田は三陟開發株

式會社が内地の發電所燃料及び地元建設に用ゐる石炭窒素、セメントその他の工業用炭とする目的のもとに採炭準備に着手し、己に内地及び鮮内の需要に應じつゝある。

黒鉛も又朝鮮鑛業の一角に光るものである。黒鉛は鱗狀と土狀との二種があり、鱗狀黒鉛は平安北道、咸鏡北道に土狀黒鉛は慶尙北道、咸鏡南道に生産されてゐる。

鱗狀黒鉛の主なる産地は咸鏡北道城津地方、平安北道江界地方、平安北道楚山郡地方である。とりわけ江界地方は産出額に於て首位を占めてゐる。

土狀黒鉛は山野月明、小宮、咸昌、馬老、永興、長興、价川第一、价川第二等が著名生産地である。海外に販路をもとめてゐたが、最近電氣工業の發達によりその需要とみに増加し國內供給を行つてゐる有様である。

タングステン鑛も歐洲大戰勃發後軍需に促され發見、採鑛に従事するもの多く、大正七年以來市價低落したるためその需要減少したるため休山廢鑛するもの續出し、同八年には全休止する状態に陥つたのである。今次の事變によつてそれが急激に發展し、フルの稼行が要請されてきたのである。

今その稼行中のものは大華、百年、箕州、中山春陽、鯨水、順鑛山、稻葉平安、内金剛等の鑛山である。

其他水鉛鑛の採鑛もタングステンに劣らぬ増産を示し、主なるものは全羅北道の長水鑛山、江原道の金剛鑛山、慶尙北道の龍鳳水鉛鑛山等である。

マグネサイトも咸鏡北道吉州郡、咸鏡南道端川郡に大量の生産があり、北斗、白岩の鑛山がある。咸鏡南道端川郡には朝鮮マグネサイト開發株式會社が設立されてゐる。

螢石の産地は咸南、江原、忠北、今北黄海、京畿の諸道に分布してゐる主なる鑛床は江原道金化、春川、場口、華

川、淮陽の諸郡、忠北永同、堤川郡、全北錦山郡、黃海載寧、平山の兩郡、京畿道抱川郡である。

雲丹は咸鏡北道、平安北道、咸鏡南道等の各所に分布してゐる。その主なる産出地は、咸鏡北道林洞鑛山、砲手鑛山、平安北道芦田洞鑛山である。

明礬石はカルシウムの原料鑛として重要な地位を占めてゐる。全羅南道、慶尙道に多く産出され、その重要な鑛床は、全羅南道懷川鑛山、加沙島鑛山、玉埋山鑛山である。

最後にかきそへてをきたいのは朝鮮の労働移住の問題である。滿洲事變後、冀東防共自治政府成立後に於ては、滿洲國に居住するものが同方面に轉住するものが漸次その數を加え來つたことである。斯くして在支朝鮮人は今次支那事變たる昭和十二年六月現在には北支方面に七千八百五十四人、中南支方面に一千七百九十七人、合計九千六百五十人に及んだ。さらに調査もれものを加へれば無慮三萬人と稱すべき巨數に上つてゐる。

而して、今次事變は半島労働の支那移住を急激に増加せしめ、新規移住者は月平均一千人餘以上に達する有様である。昭和十四年三月末現在に於ける數は北支に於て二萬八千九百八十五人、蒙古聯合自治政府管内に一千七百三十四人、中南支に於て五千九十二人、計三萬五千八百一十一人となつてゐる。さらに調査もれを加へればざつと五萬人と推定してよからう。

由來朝鮮人の特質といふべき不平分子の性格も宣撫によつて漸次拂拭され、既に半島の志願兵制度が實施され、半島統治の上に劃期的の光彩を投じたのである。半島人にして榮譽ある帝國軍人たり得る陸軍特別志願兵制度の實施されたことは、朝鮮人が全く皇國臣民のカデユリーに入つたといふ同義語でなければならぬ。日鮮純化の一色にぬりつぶされたるところには彼等の叫ぶ忠誠の血は超弩級に躍るものがあらう。

そこで半島二千三百萬同胞の赤誠烈々の凝固一塊を集め、滿十七歳以上の男子にして陸軍志願者訓練所の訓練を経たるものは陸軍特別志願兵として帝國陸軍の現役又は補充兵役に編入せられ軍務に服し得ることになつたのである。その採用條件は年齢滿十七歳以上、身長一、六米以上、小學校卒業程度の學力を有し、志操堅固にして家計の困らぬことを要する。昭和十四年度には一躍一二、三四九名に達し、此の中前年度は四〇四名が、十五年度は六〇一名を選抜入所を許可された。

かく、鮮人に志願兵制度が施行されたことは、やがては皆兵主義の近づきを示唆されたものといへやう。そればかりでなく鮮人が高度國防の線に高次の血を捧げ、東亞共榮團のインシヤチブを握るの榮譽を把握することが出來たことは、これも皇化に生を享けし賜であるといはねばなるまい。

それにつけても、近代戰の掩護射撃の對象となるものは労働資源の獲得であらう。鮮人が大陸に移住し、内地に轉居して枯渴せる労働力を補給してくれるといふことは、時局的高價の意義と役割とを物語るものである。

今次事變に對する半島人の立派と健氣とは眞に涙ぐまじきものが見られ、中には決死的獻身作業を働き、名譽の戰死傷者をも出してゐる。上海朝鮮人會の事變當初に於ける雄々しき奉仕の作業と活動、濟南居留民會の結成組織方面にも半島人の時局的息吹は高價をすゝめてゐる。のみならず婦人連までが内地婦人と行動を共にして、前線及び銃後に活躍してゐる健氣なる有様にも愛國の血潮はみなぎつてゐるものが窺れやう。

工業

今次事變の勃發を轉機として、農業生産より工業生産へと著しい飛躍的移行を記録せしめた朝鮮工業の歴史的轉換

は、時局的にも重大の意義をそふるものがある。

大陸經營の前進兵站基地と共に、接攘國防基地としての朝鮮の役割はさすがに大きい。地域の命題の下にも工業躍進への轉換に移行するのは當然である。内地と大陸との物質交流のルート、いはゆる輸送基地としての朝鮮のウエー
トにもかなりの重要な比重を有してゐる。

鐵、石炭の増産計畫と併進するものに電力設備の計畫遂行のあることを見落してはなるまい。五ヶ年の日時を費して工事に着手してゐた鴨綠江水力電氣は昭和十六年六月より發電を開始するところに促進を見るに至つたことを報道してをく。

同水力發電は鮮滿二基の經濟提携の具現も無論のこと、鮮滿經濟の生産擴充力はこの水電開始によつて一段の飛躍的段階へと突入するであらう。

この水電開始は鮮滿經濟を新しい方向に基礎づけ、これが發程を闡明するものでもある。はやくも鮮滿兩者の主腦部の會合が行はれ、使用金問題、初發電力の使用優先者決定、第二次開發に關する意見交換、これに附隨して將來水没地帯たるべき東邊道大栗子嶺山輸送線の處理問題が議題の呼物となつたらしい。

滿洲國の電力の現状は朝鮮よりもさらに急眉を要するに鑑み、滿洲側に花を持たせる寛容を示したことは面目をそふるものとも見られ、電氣料金も諸資材の昂騰、その他により工事費が既定計算をはるかに超越した關係で、當初の豫想より相當高額に上る模様であるといふ。

同水力電氣の五ヶ年工事が茲に竣成の一步を踏み出したことは、鮮滿經濟の支配的動力の根幹であるばかりでなくこれが完成の際には電力の低廉豊富の浸透による諸産業の増産計畫は一時に開花絢爛の展望を見せ、朝鮮工業は新な

る歴史的階段の發展へのし上ることになるであらう。

朝鮮工業を語る上について野口經營の日空コンツェルンの進展を抹殺することは出来まい。同コンツェルンの一斑は既に政經篇に記載してをいたが、さらに蛇足を加えてコンツェルンの事業分布の陣容に指摘することにした。

いふまでもなく日空コンツェルンの發展規模を構成するものはやはり電力を基礎としたる化學工業の躍進である。六億五千萬圓の巨資がフルに生擴する樞軸のいはゞキイ動力となる電力の逞しい開發は半島工業の歴史過程を誇る金字塔ともいへやう。

日空關係の生産分布の鳥瞰圖を示せば左の如し。(昭和十五年二月現在)

社名	公稱資本	社名	公稱資本
日本窒素肥料	二〇〇,〇〇〇	朝鮮水産工業	一,〇〇〇
朝鮮窒素肥料	一〇〇,〇〇〇	成興合同木材	一,五〇〇
旭ベンベル絹糸	四六,〇〇〇	新興鐵道	二,〇〇〇
朝鮮石炭工業	一〇,〇〇〇	端豐鐵道	五,〇〇〇
吉林人造石油	一〇〇,〇〇〇	平北鐵道	一〇,〇〇〇
日本窒素火藥	七,〇〇〇	鴨北鐵道	一〇,〇〇〇
朝鮮窒素火藥	一〇,〇〇〇	朝鮮鴨綠江航運	一三三
東京火藥工業	一,〇〇〇	滿洲鴨綠江航運	七五〇
日本マグネシウム金屬	四,二〇〇	國境交通	一〇〇
日窒寶石	五〇〇	吉林鐵道	五,〇〇〇
長津江水電	一五〇,〇〇〇	吉林鐵道	四五〇
朝鮮鴨綠江水力發電	五〇,〇〇〇	草輕電氣鐵道	二,〇〇〇

滿洲鴨綠江水力發電	五〇,〇〇〇	富田商會	一〇,〇〇〇
朝鮮送電	一五,〇〇〇	窒素肥料販賣	一〇,〇〇〇
日室鑛業開發	一〇,〇〇〇	日之丸商會	三〇〇
日室鑛業	五,〇〇〇	東洋火藥	一〇〇
日室硫黃鑛業	二,〇〇〇	朝鮮ビルディング	二,〇〇〇
東洋水銀鑛業	三,〇〇〇	日室證券	一〇,〇〇〇
大和アンチモン	二〇〇	延岡土地	五〇〇
廣長金山	五〇〇	旭染工	三三〇
舒蘭炭鑛	一〇,〇〇〇	旭綢工	二五〇
日本水電	二〇,〇〇〇	東洋工業	三,〇〇〇

以上の如く、企業の聯繫によつて資本と生産とが前進され、さらに既成財閥の競合せる資本投下がある。内地資本が直線的に導入し、短時日の間に朝鮮をして一躍近代工業の水準に引上げしめたる側面には總督府の巨大官府的の熾烈なる先導性を拒否することは出来ない。外治統治の一元的行政を特徴づけるものは、理論よりも實踐を中心とする現實の把握にあらう。南現總督の時局的推進力の高度性はこのあたりにも離如たるものがある。

朝鮮の企業發展の樞軸をなすものは、なんといつても内地資本の進出を擧げねばなるまい。資本と技術とは内地より導入し、労力は鮮人を動員する。労働豫備軍を豊かにもつところに、朝鮮企業の異常なる興隆は期待されるのである。労働資源の低廉と過剰とが今やフルに全面的に稼行されてゐる半島の生産力擴充こそ、まことにわが戦時經濟を高度恒久に運轉せしむる潤滑油であるのだ。

まづ紡績、製絲、製鐵、パルプ、硬質陶器、セメント、製粉、麥酒、製油、硫安、硬化油、金屬精鍊、石炭液化、

石油精製等の工場が續々として設立せられ、次いで滿洲國の建國、日滿新交通路の開通以來、滿蒙に對する經濟進出に於て地の利を有するがため各種工業資源の開發に着目し、各種の專業經營を目論むもの増加し、全鮮樞要なる地帯は工場化されるに至つたのである。昭和十三年に於ける工産額は十一億四千十一萬圓、内二億八千六百六十六萬圓は家内工業又は副業の割合である。

業種別工業産額は左の如し。(昭和十三年現在、單位圓)

紡織工業	一六四、八二一、一五九
金屬工業	九一、九六六、二二八
機械器具工業	二六、七九八、九五七
窯業	三五、八七七、一九八
化學工業	三五二、八一九、三一二
木製品工業	一五、〇五四、〇〇〇
印刷及製本工業	一六、九四八、一二三
瓦斯及電氣工業	二四、五〇一、九四七
食料品工業	二七七、二〇七、七八一
其他工業	一三四、一二三、八八〇
計	一、一四〇、一一八、五八五

紡績工業の重なるものには朝鮮紡織株式會社釜山工場(四萬鍾)、東洋紡績仁川工場(三萬二千鍾)、鐘淵紡績全南工場(三萬二千鍾)、京城紡績(二萬五千鍾)、永登浦に鐘淵紡績京城工場(四萬鍾)、東洋紡績京城工場(四萬五千鍾)とがある。

そこで朝鮮に需要される綿織物は年額六千萬圓、その内四割は内地の移入を仰いでゐる。昭和十二年の綿布生産高四千九百十九萬圓を計上し、工場生産高は四千七十八萬圓となつてゐる。

金屬工業を一瞥すれば、製鐵工業には兼二浦に日本製鐵の兼二浦工場を有し鉄鐵及び鋼鐵を製造してゐる。金製鍊には日本鑛業株式會社の鎮南浦精鍊所、朝鮮鑛業開發の興南製鍊所、朝鮮製鍊の長項製鍊所がある。

輕金屬工業には、マグネシウムの優良鑛區があり、最近之れを原料とするアルミニウム金屬マグネシウムの製造を目的とする朝望アルミニウム工場及び日本マグネシウム金屬會社の興南工場が建設された。輕金屬工場に朝鮮理研金屬株式會社がある。

セメント工業として鮮内に地位を占むるものは、朝鮮小野田セメント株式會社(平南)、川内里(咸南)、古茂山(咸北)、朝鮮セメント株式會社海州工場及び同社の鳳山工場がある。

右の外に小野田セメントが江原道三陟に、又鴨綠江水力發電會社が勝湖里に工場を有してゐる。

石油液化工業は朝鮮の褐炭を低溫乾餾によつて多量のタールを溜出することに成功したのは斯界に一新記録を劃するものである。朝鮮窒素肥料株式會社は昭和八年四月より咸鏡北道永安工場に低溫乾餾事業を創立した。同工場は年〇〇噸の石炭を處理し、揮發油、重油、パラフィン等を製造し、さらに石炭工業株式會社の石炭液化工場がある。

油脂製造事業としては大規模工場として日華製油株式會社(木浦工場)、北鮮油脂株式會社がある。硬化油製造として朝鮮窒素肥料株式會社興南工場がある。同社は硬油の分解に依り、脂肪酸及びグリセリン製造に成功してゐる。昭和八年に同一目的を以て朝鮮油脂株式會社が創立され、昭和九年六月より操業を開始した。さらに朝鮮油脂も江原三陟に於て昭和十三年より操業を開始した。

製紙工業として新義州に王子製紙會社の工場は有名である。さらに同社系の北鮮製紙株式會社が咸北吉州に工場を建設しバルブ製造に従事してゐる。總督府中央試験所に於て廢棄同様に取扱れたる棉莖皮を原料として棉皮紙の製造法を發明し、之れが特許權使用の許諾を受け棉皮製紙事業の製紙會社を組織してゐる。

硫酸アンモニヤ製造工業としては、朝鮮窒素肥料會社の興南工場は赴戰江の水力電力を利用し、硫酸年産四十五萬噸、硫酸十六噸の製造能力を有してゐることはわが國肥料界に萬丈の氣を吐いてゐる。此の外に日本製鐵會社の兼二浦工場でも副産物として年額五千噸を生産してゐる。

製革工業は朝鮮の牛皮は名高い。現在主なる工場は朝鮮皮革會社の永登浦工場が時局的生産に従事してゐる。

麥酒企業には、永登浦に朝鮮麥酒、昭和キリンの二麥酒がある。兩者共に二百萬石の生産能力を有し、滿洲方面にも輸出してゐる。

製粉工業に日本穀産工業會社平壤工場があり、同社は米國系の資本七百五十萬圓の大會社である。玉蜀黍を原料として澱粉又は葡萄糖並に油及び餌量を製造するものである。内地の需要ばかりでない、海外輸出を行つてゐる。

精糖工業には大正六年朝鮮精糖會社の創立があり、次いで大日本製糖と合併し、大正九年平壤に製糖工場を設け、平安道、黃海道に亘つて甜菜を栽培し之れを原料として製糖を營むのである。

布哇、臺灣より粗糖を輸入し精糖を行つてゐたが、昭和六年度より甜菜糖を中止し、昭和十二年度年産額の精糖額は四萬三千七百噸、對滿輸出の重要地位を占むるものである。

その他精米工業の設置があり、昭和十一年度に於ける朝鮮の工場總數五千九百二十七、中一千二百二十五は精米工場である。昭和十年は白米調整高百六十五萬噸、玄米調整高五十一萬噸に達してゐる。

工業を奨励せし總督府は、收支償ふ能はざるものには之れに金品を補助し、曩に併合の際朝鮮人投産の爲め下賜せられたる恩賜金の利子一部を以て従来一般に副業として行はれてゐたる機業、製紙等の改良を計り、最近に至つては機業、製紙の外陶器等の共同作業所の設置を奨励し、之れに對して補助金を交付する等、あらゆる角度を工業發展の奨励に考慮し、建設的努力をすゝめてゐる。

商 業

産業の發展が工業中心へと移行するのも時局が書きなぐる色彩ともいへやう。けれど商業の核心性はこのためにもぎとられたといふわけではなく、商業政策の轉換は脱體、換嚴によつて適應に實踐されるのである。所謂商業再編成は商業革新策の登場に置きかへられるのである。

朝鮮も内地と同じく、商業の再編成を要請してゐる。けれども、朝鮮には地域の商業の歴史性がある。別言すれば朝鮮商業カラーの特長性は幾度編成を繰返されてもカラー脱落は恒久的に不可能的存在といへやう。

總督府は大正三年九月市場規則を發布し、市場組織及び監督に關する規定を設け、在來の市場には客主、居間、監考、典當の取引機關がある。

客主と稱するものは手形の引受、割引、貸金及び貨幣の交換をなし、且つ顧客を宿泊せしむる業務を営むものである。その商行爲は内地の間屋業に類似してゐる。

其の委託販賣を爲す貨物は穀物、牛皮である。客主は市場の相場を通報し、委託者は機を見てその所有貨物を客主に送り、指定價格を表して販賣を委託し、之れと同時に客主は委託者に對して預り證書を交付し、委託者の指定價格

を以て販賣したるときには、所定の口錢その他の諸經費を控除して殘額を委託者に交付せしむるのである。

居間は賣買兩者の間に介在して諸般の周旋を爲し、一定の口錢を受くるを本業とする。内地の仲立人同様である。

常に店主の店舗に出入し、その依頼を受けて賣買を探索紹介し、賣買成立の時、報酬として口錢を得るものである。

監考は地方に依つてその取扱ふ商品は一定しない。市場の米穀取引は賣買者自ら之れを商量せず、必らず監考が升量し、その手数料として一升到たざる端數の米穀を收受する慣習である。

典當は多くは金貸業の一部分が兼業として之れを營み、純然たる典當業は殆んどない。典當は概ね金、銀細工、衣冠、家具及び什器等である。貸金の比率は借主の信用に依り異なるも、評價の三割乃至五割を普通とし、期限は一定せざるも普通の典當に在りては三箇月を以て一期とし、金銀の如き價格の變動の少なきものに在りては長い。細民に融通する場合はその時期を頗る短くする。然し何れも利息支拂により延期し得ること及び流質となりたる場合、典當權を賣却處分し得ることは内地の質業と何んらの變りはない。

こうしたカラーの營業機構によつて、取引を行ふところは、内地のカラーと表見的異色を示してゐるけれども、内地人の商業市場に進出する勢力は知名都市に全面化して、深奥に滲透してゐる。主として穀物、海産物、牛皮、朝鮮物産の輸出、又は各種雜貨、綿絲布、肥料、石油、砂糖、燐寸等の移入貿易、各種商品の卸賣、小賣に従事するもの多く、日用雜貨、呉服、酒、文房具、菓子類、荒物等は、京城、仁川、釜山等の卸商より各地の小賣商に供給されてゐる。

近來各種工業を目的とする大會社の設立せらるゝものがとみに増加することは、朝鮮の國富増進の指標であると同時に、戦時下産業の發展テンポとも見られるのである。

朝鮮に本店を有する會社營業種別

年次	農林業	商業	保險業	金融業	運輸及倉庫業	工業	鑛業	水産業	電氣業	雜業	合計
昭和十二年末	一六一	九九二	二	一五五	三五三	九八一	八五	四四	一九	四二五	三、二一七

朝鮮に支店を有する内地會社營業種別

年次	農林業	商業	保險業	金融業	運輸及倉庫業	工業	鑛業	水産業	電氣業	雜業	合計
昭和十二年末	二三	三五	一四	三	五	三六	二二	六	—	一六	一六〇

朝鮮に支店を有する外國會社營業種別

年次	農林業	商業	保險業	金融業	運輸及倉庫業	工業	鑛業	水産業	電氣業	雜業	合計
昭和十二年末	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

朝鮮にては共同利益を圖る目的を以て設立されてきた同業組合があつたが、概ね社交團體の域を脱せず、恣意に陥るの傾向さへあつた。別に法的據點もない、いはゞ自由主義的の機構的色彩を辿り來つたものである。故に組合遂行の上に不便すくなからぬため官廳の監督の必要を認めたので、大正四年七月朝鮮重要物産組合令を公布し、同年十一月一日之れを施行し、米、大豆、家禽、家畜及びその他の畜産物、毛皮及び毛皮品、棉花、繭、蠶種、桑苗、果實、織物、紙、醸造品、白漆、木炭、製材及びその生産、若くは販賣又は之れと密接の關係を有するものに制限したが、昭和十四年螢石及び石炭をそれぞれ追加した。昭和十四年八月現在に於て紙物、穀物輸出、電球、珪瑯鐵器、靴下、牛乳、螢石の同業組合各一、人蔘同業聯合二、ゴム靴同業組合三、重油同業組合三、蠶種同業組合四、石油同業組合四、果物同業組合八、同聯合會一、合計三十二に及んだ。何れも製品の検査を行ひ、生産費の軽減、販賣の擴張を圖る外に、紛議の調停又は仲裁を爲すものである。畜産同業組合及び聯合會は農會に統一されたため、昭和八年三月解散された。

散された。

この外、商工業の改善發達を圖るための重要機關として商工會議所が設けられ、大正四年朝鮮商業會議所令が公布實施されたのである。内地人の設立にかゝはるもの十一、朝鮮人の設立にかゝはるもの十四を算じ、一地一會議所として内鮮人協力し、斯くして十五年を経過し、昭和五年之れを廢し、新たに朝鮮商工會議所令を公布し、名稱を商工會議所と改めた。現に存する會議所は京城、仁川、開城、大田、群山、全州、木浦、光州、大邱、釜山、平壤、鎮南浦、新義州、元山、咸興、清津、馬山、海州、城津、羅南等がある。さらに商工會議所の綜合機關たる朝鮮商工會議所がある。

産業組合は大正十五年一月制令第二號を以て朝鮮産業組合令を公布し、同三月一日より之れを施行した。夙に發達せる内地産組の機構性を取り入れ、信用事業は金融組合制度施行によつて著大の發展を示したので、之れが重複をさくるため産業組合にその業務の範圍を販賣、購買及び利用の三種に限定し、信用組合制度は除外したのである。

而して産業組合の現況は、昭和十三年三月末に於て組合數百十八、組合員數十七萬二千人、出資金二百七十五萬六千圓、積立金三十八萬八千圓、借入金一千四百九十六萬八千圓、事業高三千六百八十七萬九千圓といふ成績を發表し産業發展の中核機關たるのモメントを積極的に發揚してゐる。

むろん總督府の監督、指導、支援の力にあるも、産組の機構的特色を内地よりもさらに再検討をすゝめ、實狀に伴ふ建設的方向に努力を拂ひたることは、時間的にも長足の發展をなさしめたる動因ともいへやう。さらに、商工獎勵館を設け、商業に關する圖書その他の刊行物發行、蒐集及び供覧の方法により、當業者をして産業の改善、商品の改良及び販賣の擴張に資せしめたのである。

さらに各種の展覧會、即賣會の出張幹旋、参考品の貸與及び統計圖表の調製に應ずると共に、見本展示會又は宣傳會の開催に利用せられ、本館の使命にもとづき、商品の調査に力を注ぎ、地方物産の産額、産地、生産状況、品質、價格、包装、意匠、集散及び需給の状況、代用品又は競争品との關係、輸送機關、税金及び運賃の生産機構を明確にすると共に、關係官公吏及び主要なる當業者につき商品に關する研究批判を徴し、取引の幹旋と向上とを圖るものである。

朝鮮の輸出入概況

眼を輸出入の分野に轉じて見ると、なんと云つても朝鮮の移出入貿易は、内地依存性を多分に發揮してゐること、その依存性から離脱することは相當期間を要するならんと思はれるが、近時商工業の發展と諸産業の進歩は、漸次内地依存性を薄化する方向へと進歩を強めてきたことは、朝鮮貿易の將來を益々有望視せしめる指標といはねばなるまい。圓域輸出と第三國貿易とを分別して見るに、圓域輸出は一億六千萬圓で輸出總體の約九割六分の比重を占め、輸入は八千萬圓で總體の六割を占めてゐるのが目立つてゐる。主として輸出は綿織物、米、人絹織物、小麦粉、輸入は粟、石炭、硫安、大豆等である。

第三國貿易は輸出六百萬圓、輸入五千四百萬圓、輸入超過は四千八百萬圓を計上してゐる。輸出品は水産製品、綿織物、珓瑯鐵器、電球等、輸出先は主として南洋、アフリカ方面に向けられ、輸入は礦油、機械類、生ゴム、皮革等類である。

因に國別貿易の輸移出を示さう。(單位千圓)

年 別	一、輸 移 出											
	内地	關東州	滿洲國	中華民國	英領印度	葡領印度	獨逸	北米合衆國	埃及	其他共計		
昭和十一年	五、八〇、七〇〇	九、九二一	五、五〇、〇〇〇	一、〇七〇	三、一八	二、六	一〇	九、九三	五、七五	五、九三、三二二		
同 十二年	四、九一、〇〇〇	一〇、六六六	七、一、三三三	五、八二一	七、四〇	一、〇三三	二、六六一	一、七七一	四、八三五	六、八五、五三三		
同 十三年	七、〇〇、〇〇〇	一、七、七七一	一、三、〇〇〇	三、一、一三三	四、九二	七、七	一、〇六一	一、二、二〇	三、三	八、九、六六六		

二、輸 移 入

年 別	内地	關東州	滿洲國	中華民國	英領印度	葡領印度	獨逸	北米合衆國	埃及	其他共計
昭和十一年	六、七、九一八	六、六四二	五、九、〇〇〇	一、一、一八八	二、一八	九、七二六	一、〇四一	九、一五二	一一	七、九、一三七
同 十二年	七、三、〇三三	六、九八八	六、三、三三三	一〇、三六九	三、五三	八、五三一	一、九七三	二、二一一	—	八、六三、五五三
同 十三年	九、二、三三三	一〇、一、七七一	五、八、〇〇〇	一三、二一四	一〇、七七八	五、三三三	一、八八八	一、七、七五五	—	一、〇、五、九二六

而して貿易港は仁川、釜山、新義州、羅津、元山、鎮南浦、群山、清津、雄基、城津、龍岩浦、多獅島の十三港が擧げられてゐる。釜山港は内地朝鮮の關門にあたるため對内貿易に於て首位を占め、仁川は對内貿易に於て釜山に次いでゐる。

新義州は對滿貿易がさかんであり、羅津は北滿特産物の大豆の搬出港として有名である。その他鎮南浦、清津、元山、群山はいづれも活況を呈し、將來性をゆたかならしめてゐる。

前記の如く朝鮮は農業本位國の本質性を多年にわたつて持続したることは、農産物を輸移出せしめることになり、ために輸移出品は農産物を大宗として、鑛、水産之れにつぐといふ比率である。

とりわけ米、肥料、水産物の占むる割合は壓倒的にもひとしきものを示してゐる。其他各種の鑛石、生絲、魚類、

魚粉、木材、石炭、綿織物を輸出してゐる。

左にそのメンバーと金額を示すと、(單位千圓)

輸移出重要品價格

品名	昭和十二年	昭和十三年
米穀	二二二、四七三	三一三、〇六八
大豆	二二、三五八	二二、一三七
コーンスターチ	三、四七四	三、二四〇
鮮魚	一三、三九〇	一七、五四九
砂糖	四、四八〇	三、八七二
檜油	三、〇〇四	四、一三三
魚油	一〇、〇二八	七、八六四
生糸	八、二七一	七、九九三
綿織物	一八、九六二	一五、八三一
黒鉛	二二、一〇二	三二、一八六
石炭	二、三〇二	三、三九二
セメント	七、三〇五	一一、一二七
洋紙	三、二二八	五、一九七
木材	四、三八九	六、一九二
肥料	九、三八九	五、三二二
合計(其他共)	三七、九〇五	四〇、三二七
	六八五、五四二	八七九、六〇六

入港貿易船舶

外國貿易船

年別	汽船	帆船	計
昭和十二年	一、二八九	一四、〇一五	一五、三〇四
昭和十三年	一、四二二	一四、三八四	一五、八〇六

噸數 (單位千噸)

年別	汽船	帆船	計
昭和十二年	一、七二八	一一九	一、八四八
昭和十三年	一、九三六	一一二	二、〇五九

内地間貿易船

年別	汽船	帆船	計
昭和十二年	一四、二三一	一〇、六五九	二四、八九〇
昭和十三年	一一、六四〇	一一、八九一	二三、五三一

噸數 (單位千噸)

年別	汽船	帆船	計
昭和十二年	一三、〇〇八	三五七	一三、三六六
昭和十三年	一一、二三〇	三八七	一二、六一七

出港貿易船舶

外國貿易船

年別	汽船	帆船	計
昭和十二年	一、三一〇	一三、八四一	一五、一五一
昭和十三年	一、三一六	一四、〇〇七	一四、三二三

噸數 (單位千噸)

年別	汽船	帆船	計
昭和十二年	一、七五三	一一六	一、八七〇
昭和十三年	一、七九二	一〇〇	一、八九三

内地貿易船

年 別	隻 数 (單位隻)		噸 数 (單位千噸)	
	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船
昭和十二年	一四、二二八	一〇、八八一	一三、〇〇二	三五九
同 十三年	一一、六七五	一二、三八三	一二、三三三	四一三
計	二五、〇〇九	二四、〇五八	二五、三三三	一三、七四六

(備考) 噸数の計が内容と一致せざるは千噸未満切捨たるに依る。

商工會議所の人的構成

商工會議所の存する地方は京城、仁川、開城、太田、群山、全州、木浦、光州、大邱、釜山、平壤、鎮南浦、新義州、元山、咸興、清津、羅津の十七個所である。以下會議所の構成メンバーを粗上化して見ると、

朝鮮商工會議所	會頭 人見 次郎	副會頭 田川常次郎	同	理事 田村 浩
京城商工會議所	會頭 田川常次郎	副會頭 田中 三郎	同	理事 伊藤 正徳
仁川商工會議所	會頭 深見 寅市	副會頭 直野 良策	同	理事 渡邊 政喜
釜山商工會議所	會頭 立石 良雄	副會頭 松尾巳之介	同	理事 上田耕一郎
大邱商工會議所	會頭 伊藤吉三郎	副會頭 森西平三郎	同	理事 赤木 憲之
平壤商工會議所	會頭 今井頼次郎	副會頭 異儀田軍樹	同	理事 八谷 俊一
木浦商工會議所	會頭 村上 直助	副會頭 伊藤關太郎	同	理事 油谷 保三
新義州商工會議所	會頭 加藤鏡治郎	副會頭 中込 精一	同	理事 飯野正太郎

鎮南浦商工會議所	會頭 河村 國助	副會頭 重枝 太案	同	理事 石川 益次
開城商工會議所	會頭 孫國 禮光	副會頭 八木 右一	同	理事 宮内 益男
太田商工會議所	會頭 富士平 平	副會頭 南部 京平	同	理事 治田麗八郎
元山商工會議所	會頭 藤岡喜一郎	副會頭 神宮與太郎	理事	同 町田 義介
清津商工會議所	會頭 川本 彰一	副會頭 水島計次郎	同	理事 勝村 長平
咸興商工會議所	會頭 今關 忠二	副會頭 高倉 新吉	同	理事 土谷 惟一
全州商工會議所	會頭 大木 良作	副會頭 牧村 芳平	同	理事 山本 義雄
光州商工會議所	會頭 相馬 與作	副會頭 加藤幾三郎	同	理事 高松 六男
馬山商工會議所	會頭 西田 惣市	副會頭 富和 雅夫	同	理事 曾根 熊次
海州商工會議所	會頭 萬代 龍助	副會頭 清水 宗基	同	理事 高橋 敏巳
城津商工會議所	會頭 夏目十郎兵衛	副會頭 黒田直三郎	同	理事 山田 茂實
羅津商工會議所	會頭 光永 喜七	副會頭 中島 彦作	同	理事 中村 謹平

金融組合聯合會の機構

別記の通り朝鮮金融組合は著大なる躍進的發展を以てし、都市、部落組合の設立は全面化せんとしてある有様である。官府の巨大監督と指導は組合機構の前進的核心となつてゐるのはむろんのことであるが、昭和八年八月朝鮮金融組合令は制定され、各道金融組合を合併し、新たに朝鮮金融組合聯合會が創設され、各道には支部が設置され今日に

至つた。

その傘下には産業組合、漁業組合も吸収包括されて中央集権の勢力を把握してゐる。今その現勢を見ると、昭和十四年度に於ける會員数は金融組合七百十二、産業組合四十二、漁業組合十六、合計七百七十組合を計上してゐる。

聯合會は京城に本部を設け組織には、(1)庶務部、(2)金融部、(3)教育部、(4)事業部等を置き、各地支部には庶務係、資金係、指導係の三係があり、それぞれ會の活動運動に核心的の役割を發揮してゐる。

役員及び地方部長を擧ぐれば、會長松本誠、理事庶務部長松本節郎、理事金融部長齋藤清治、理事事業部長土屋傳作、理事教育部長山根謙、監事肥塚正太、監事元應常、監事小川一三、顧問相泳孝、顧問李允用、顧問松原純一、顧問參與水口隆三、顧問參與韓圭復。

支部長——京畿支部長理事關田源太郎、咸北支部長理事古川甚二郎、忠南支部長理事江口辰茂、全北支部長理事鈴木伊勢吉、全南支部長理事池田利一郎、慶北支部長理事岡田豊次郎、慶南支部長理事關朝雄、平南支部長理事岡今治郎、平北支部長理事松村耕作、黄海支部長理事重私諱、江原支部長理事木下齊、咸南支部長理事須磨正而、忠北支部長理事長濱能得。

經濟新體制と外地金融性

内地といはず外地といはず、戰時統制經濟の基本理念には何等の二重的性格のあらうはずはない。あらゆるものに計畫性を銳角的に全面的に普及して、生産、配給、消費の部門を規正し、その適正なる整備を進むることによつて、統制の難局を打開し得らるゝのである。

第二次歐洲戰亂は、わが國の生産及び金融を旋回點に立たしめたのである。第三國の輸入依存は急カーブを描いて狹隘化され、特に、英米自由主義國家の敵性濃化は封鎖經濟にまで押し進められ、日米危機の情勢はまさに一觸即發にあるといつてもよからう。

日米危機と表裏する戰時經濟の強化整備は宿命的理論の課題として高く浮びあがり、その映像はとみに強く生産及び金融部門に登場されてきたのである。營利生産の危機にとつて替るべきものは、經濟機構の再編成であるといふことが一部の小市民インテリイの理論を賑はし、企劃院新官僚も經濟新體制を以てせざればこの攪亂せる財界を打開することが不可能であることを痛感せしめたのである。

そこで、この構想の再設定され、具體化されたものが即ち經濟新體制である。經濟新體制の要綱が表現される一歩手前に於て、原案なるものが換骨奪體されたといふ理論の可否は抜きにして、實踐的原源となる基本構想にはなんらの變化のあらうはずはない。——これに代更されて登場せんとする總動員の準據法の強化は、一應は換骨奪體と見せかけて、その實原案そのまゝと同巧異曲であることが窺はれるのである。

こうした理論はさて置いて、國際情勢の危機に應ずるものは、一念一心を凝固一塊する總力の結果にある。これは國民の困苦缺亡に置き替へる表現法であるといふよりは、各自のもつ營利の機構を一先づ改訂することである。所謂自由主義的、序列的なる組織を再編成して、國家總力の全體線に引上げしめ、高次にこれを活躍せしめる以外に方法がない。

この實踐的構想の伴はぬものに、建設的批判と、理論のあらう道理はないのは無論であると同時に、これは内地、外地に共通申渡される戰時統制經濟の合言葉である。

さればこそ、現階段に立つ日本の戦時経済を積極化し、建設化するには、内地、外地経済の共通性、総合性を合目的の下に計畫化せしむることに至上命令は達せられるであらう。新体制の動向を支配する原源的役割は、統制の一貫性にある。地域別觀念をはなれてあくまで内外地の合一性に邁進協力することにある。別言すれば、朝鮮、臺灣、大陸に地域的經濟人格を分化することは一貫性に反律する命題をつくるにひとしいものである。時間的にもスペース的にも一元性でなければならぬことだ。

經濟新体制が換骨奪體されるといふことによつて、財界人が一時の偷安的氣分を以て統制の緩和を豫想することは斷じて許すべきものではない。たとへ新体制は表面的には一應の中脊椎線を抜かれたといふものゝ、深奥に滲透する推進力には何の變りもないといふことを重ねて強調するものである。内、外地の經濟情勢は國際情勢の危機切迫の度合に伴つて深刻なる様相を露呈するものと思はねばなるまい。偷安氣分は油斷氣分に變形する危険への導入がある。營利危機を回避するものにとつては、新体制案の換骨奪體こそ反つて營利危機の實現をはやめることにもならう。

何れにしても日本の戦時經濟は深奥にまで革新の構想をすゝめねばならなくなつてきたのである。在來の認識の限界は最早發言權をもたなくなつたのである。否既成の概念性を以てしてはこの現階段を超越することは不可能視されるに至つたのである。換言すれば現實そのまゝ情勢維持の困難を打開するには革新的構想の伴ふ建設批判に俟たざればならぬのである。金融政策の如き自由主義の多分なる雰圍氣の中に生成發展するものですら、基本的改革が叫ばれるに至つたのである。統制強化の比重分擔から自由性の孤域を押し出してゐた金融機關も事變四ヶ年を迎ふ今日となつては、積極的、建設的の計畫性を要請されるに至つてきたのである。別言すれば金融の私業的經營は金融の公業的經營に置き替へねばならなくなつてきた。

金融の私業性が、金融の公業性に轉換されることは金融の新體制の表現である。昭和十五年度の金融情勢を歴史的に回顧しても、金融新體制なる歴史的發展の階段が窺へ知られるのである。ありていに告白すれば私業的金融機構では擾亂情勢の金融を克復してゆくことは實際に於て不可能事になつてきたのである。公業的金融機構——いはゆる國家金融の計畫性を進める——この視野にのみ支配力は集中化されねばならなくなつてきた。

國家信用力の膨脹力の盛衰に金融指標は左右されるのである。金融の民間能力と自己資本の蓄積のみでは金融市場を賄ふことが困難になつたばかりか、民間授信能力の後退化を完補するものにも國家信用の膨脹力に半ば依存しなければならなくなつたのである。

國家信用の絶對價が金融支配の指標となつたことは、官有金融機關のヘゲモニー獲得であると同時に、特殊金融機關の強大なる信用力の發展ともいへやう。所謂特殊銀行の權限の強大は金融ルートの獨占化と表裏するものである。

この點に於て、内地も外地も現象的になんらの變りがない。外地の特殊銀行は營業分野に於て内地のそれよりも民間的性格を濃化してゐることも争はれぬ事實である。それだけ經營機構に複合性を發展せしめてゐる。さらに、それだけ經營スタッフの人格と手腕とに民間的構成の色彩を要請されることにならう。

外地特殊銀行の内地のそれに比較して官僚色彩の退潮せる、否さらに官僚化が拂拭されて終つてゐるのも、民間的經營に携はる一面の機微の表現ともいへやう。

これは外地特殊銀行經營家に對する二重の公課の負擔でもあり、手枷の強化でもありといひ得るのである。かたゝ加へて、行政的にも二重の命題をもつてゐる。それはいふまでもなく、大藏省と總督府の二重監督の關門に亘立させられることをいふのである。

新體制なるもの、建設的創意がこうした方向にかなりの重點をもつてゐることを看過してはなるまいと思ふ。行政監督の一元性といふことももとよりであるが、外地特殊金融機關の首腦層に對し、より以上に經營獨立性を附與せしめ、より以上に金融自主權を獲得せしむることによつて、外地金融は高次の道標に脱皮跳躍することにならう。

朝鮮特銀の性格と普銀の分布成績

外地金融の自主性とは事務的機能よりも、政治的機能を指摘することである。朝鮮銀行にしろ、臺灣銀行にしろ、政治的の高度性の稀薄化してゐる現象は否めないであらう。換言すれば日銀の隷屬化に置き据えられ、支配的羈絆を脱し得ないことである。

それはむしろ外地特殊銀行が商業性を多分にもつといふことも一應の條件を構成してゐるといへやうが、政治的經營に貧困なる内面性をもつといふことが推進力を停滞せしめる枷となつてゐることを見逃されぬ。

平時の金融經濟なれば別段高度の政治性を期待し、要請するの必要もないだらうが、戰時金融は事務的強化よりも政治的手段によつて解決する問題が山積されてゐる。さらに金融統制の重點主義と表裏する計畫性をスムーズに完遂する上にも政治經營の併進符が痛切に感じられる。基本的指導システムに對してはむしろ高層機關の指圖を要することにならうが、外地金融機關の經營が事務的偏重性を濃化して、政治的推進性の稀薄化してゐる認識を今更ながら深めしむるところに、建設的構想の登場をつぶさに要請されるものがある。

指導原理の達成は、經營に高度の權力を附與することにある。經營を職域奉公化するといふことは經營の政治的限界性を擴充することの同義語といへやう。

朝鮮特殊銀行の主腦者の指導性が貧困、稀薄化されてゐるといふことではないにしても、内地の特殊銀行のそれにくらべて政治的色彩の退潮を如實に物語るものがある。

さればこそ、外地銀行のスタッフは一段と高き水準の經營的手腕を有する人物を進化選擇されることになるのである。選擇の第一條件となるべきものは金融エキスパートであると同時に、建設的金融計畫性の智識才覚を豊富に領有する人物でなければならぬ。

エキスパートが建設的金融計畫性を獨占するといふことは當らない。革新的金融の構想は金融計畫性の頭腦の所持者にのみ期待されやう。この視野に人格を飛躍するものは鮮銀の松原總裁がある。

松原銀總裁については別項人物篇の巻頭に掲載することを約束して置く。茲では朝鮮銀行の營業の梗概を指摘することにした。

朝鮮銀行は朝鮮銀行券を發兌する特權を有してゐる。舊韓國貨幣は大正七年四月貨幣法が朝鮮に施行せらるやうになり、大正九年末その通用を停止されたのである。其れから五年同政府に於て通貨を以て之れが引換をなした。今昭和五年より同十四年六月末の當行券以外の通貨流通見込高を示せば、(單位千圓)

年 別	金 貨	補助貨及 小額紙幣	韓國葉錢	日 本 銀 行 券	合 計
昭和五年末		八、一一四			八、一一四
同 六 年 末		七、二一四			七、二一四
同 七 年 末		八、〇〇一			八、〇〇一
同 八 年 末		八、五四九			八、五四九
同 九 年 末		九、〇三〇			九、〇三〇

同	十年末	九、二一四				九、二一四
同	十一年末	九、六三四				九、六三四
同	十二年末	一〇、五一二				一〇、五一二
同	十三年末	一二、三二八				一二、三二八
同	十四年六月末	一四、八三四				一四、八三四

鮮銀は總督府施政後明治四十四年朝鮮銀行法が公布せられ、從來韓國の中央銀行であつた韓國銀行を改めて朝鮮銀行と稱したのである。昭和十四年八月末現在の同行資本金は四千萬圓に達し、中央銀行として國庫金の出納、國債事務等の取扱、銀行券發行の特権を有するの外に左の業務を營んでゐる。

- (1) 爲替手形その他商業手形の割引
- (2) 平常取引する諸會社、銀行又は商人の爲めの手形取立
- (3) 爲替及び荷爲替
- (4) 確實なる擔保ある貸付
- (5) 諸預り金及び當座貸越勘定
- (6) 金銀貨、貴金屬及び諸證券の保護預り
- (7) 地金銀の賣買及び貨幣の交換
- (8) 擔保社債信託業務
- (9) 政府の認可を受くるときは公共團體に對する無擔保貸付及び銀行の業務代理を爲すことが出来る
- (10) 營業の都合によつては國債證券、地方債證券その他確實有價證券を買入れることが出来る

以上の廣汎なる業務を營み、朝鮮金融の最高支配權を把握してゐる。ところで、當行の現在有する支店及び出張網は、朝鮮樞要の土地に支店及び出張所十三を設置し、さらに爲替の調節及び貿易助長のため、東京、大阪、神戸、下關、大連、旅順、青島、上海、濟南、天津、北京、石家莊、太原、米國紐育に支店、出張所がある。尙ほ滿洲には安東縣、奉天、新京、哈爾濱、開原、營口、龍井村、遼陽、鐵嶺、四平街等に支店を有し、その他十ヶ所に派出所を設け、昭和十二年一月一日之等支店を滿洲興業に引繼いで滿洲國から撤退したのである。

殖銀は大正七年十月の設立にかゝり、資本金は六千萬圓、鮮内樞要に支店五十八、出張所二、派出所七を置いて専ら殖産ルートの金融業務を營んでゐる。

政府の特銀として鮮銀と並び稱せられ、生産、擴充及び拓殖事業の發展を哺育培養する融資機關である。内地の興銀のその如く特權的融資のルートを握つてゐる。今次の事變に對し殖銀の役割は九鼎大いに擬すべきものがある。朝鮮の生機は大陸基地のルートとして偉大の發展性を顯揚したことは既に周知の事實である。内地資本の導入に於いても殖銀は、これにピツクアップしてゐる。鮮銀と殖銀とは常に表裏の關聯にあり、有機的に運営を行つてゐる。普通商業銀行と別個なる分野を有し、公共團體、金融組合、漁業組合、其他干拓の業務を代理する金融機關の任務を完ふするものである。今茲に營業の範圍を列記すれば、

- (イ) 五十年内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依り、不動産又は不動産の權利を擔保とする貸付
- (ロ) 五年以内定期償還の方法に依り漁業權を擔保とする貸付
- (ハ) 法令の規定に依り設定した財團を擔保とする第一號の方法による貸付
- (ニ) 農業者又は工業者十人以上連帯して債務を負ふ者に對する五年以内の定期償還の方法による無擔保貸付

- (ホ)公共團體に對する第一號の方法による無擔保貸付
- (ヘ)金融組合、漁業組合その他の營利を目的としない産業に關する法人に對する第一號の方法による無擔保貸付
- (ト)朝鮮の産物又は朝鮮の産業上必要な貨物を質とする貸付
- (チ)國債證券又は朝鮮總督の認可したる有價證券を質とする貸付
- (リ)爲替及び荷爲替
- (ヌ)公共團體の債券、朝鮮金融債券又は朝鮮に於て殖産事業を營むことを目的とする會社の社債券の應募又は引受け
- (ル)擔保付社債に關する信託事業

(ヲ)預り金又は地金銀、有價證券の保護預りを爲し朝鮮總督の認可を受け其他の銀行又は東洋拓殖株式會社の業務を代理し公共團體の爲めその金銭出納の取扱を爲すの外朝鮮總督の指定に基いて普通銀行の業務に屬する貸付及び當座貸越並に諸手形割引の業務を營む、尙ほ銀行はその營業資金を得る爲め拂込資本金額の十五倍を限り(但し年賦償還貸付金總高定期償還貸付總高並に第十六條十號の規定に依り應募し又は引受けた債券及び社債券現在高を超過することは出来ない)債券を發行することが出来る

朝鮮貯蓄銀行は昭和四年七月一日の設立である。資本金五百萬圓を擁し、本店を京城に置き、釜山に支店及び出張所、平壤、仁川、咸興、光州、群山、本浦、大邱、新義州、清津及び元山府に支店を置き、さらに營業所在地外の朝鮮殖産銀行の鮮内各營業所をその代理店として業務を營んでゐる。
以下鮮銀殖銀及び朝鮮貯銀の業務概況を一瞥すると、(單位千圓)

朝鮮銀行業務概況

年次	公稱資本金	拂込資本金	積立金	貸下金	借入金	預金	貸出金	銀行券發行高
昭和十三年末	80,000	118,000	2,201	41,001	73,577	539,633	554,435	3,449,999
昭和十三年末	80,000	118,000	2,201	41,001	73,577	539,633	554,435	3,449,999
昭和十四年六月末	80,000	118,000	2,201	40,312	71,577	539,633	554,435	3,449,999
昭和十四年六月末	80,000	118,000	2,201	40,312	71,577	539,633	554,435	3,449,999

朝鮮殖産銀行業務概況

年次	公稱資本金	拂込資本金	積立金	發行高	預金	貸出金	貸下金
昭和十三年末	30,000	30,000	1,813	38,974	1,113	20,588	1,113
昭和十四年六月末	30,000	30,000	1,721	38,974	1,113	20,588	1,113

(備考) 預金及び貸出金には朝鮮に關係のない分を、貸出金中には引受債券を含ませぬ。

朝鮮貯蓄銀行業務概況

年次	公稱資本金	拂込資本金	積立金	預金及積金	所有有價證券	預ヶ金
昭和十三年末	5,000	3,750	1,270	68,039	39,013	7,414
昭和十四年六月末	5,000	3,750	1,440	75,234	46,194	5,428

朝鮮貯蓄銀行業績概況

視野を普通銀行の業面に轉移して見ると、朝鮮に於ける普通銀行は明治十一年第一銀行の釜山支店が先づ皮切りで

ある。其の後朝鮮の殖産及び商工業の殷盛は目立つて好況を呈してきたので、漸次設立の数を増してきたのである。さらに内鮮人間の経済關係が密接となるに従つて、内鮮人合同經營の銀行設立が行はれるやうになつたので、適用法規の統一を圖るため大正元年十月銀行令を公布し、爾來大正九年四月及び同十二年十一月の二回に亘つて改正を行ひ、時勢の進展は愈々銀行令及び同施行規則の根本的改正を必要としたので、昭和三年十二月これらの改正を斷行し翌四年一月から施行したのである。

斯くして普銀の營業は鮮内商工業のテンポに並列してますます飛躍發展されるに至つたのである。地場銀行はむろんのこと、内地一流の普銀が相結合して支店及び出張所を設け、研を競つて金融陣容を示したことは、金融盛行の劃期的光景といはねばなるまい。

昭和十三年六月末現在の普銀は朝鮮に本店を有するものが六、その支店、出張所が百九、内地に本店を有する銀行が六といふ勘定を示してゐる。

信託會社——朝鮮信託業は明治四十一年二月に藤本合資會社が之れを創立したのがそもものはじめである。大正八年の好況時代に便乘し、本業を營むものとみに擴出し、今日の隆昌を見るに至つたのである。朝鮮に於ける信託關係法規としては大正九年一月に施行せられた擔保附社債信託法があつただけで、一般信託等を營むものに對しては直接適確な指導監督の方法を缺いてゐたが、昭和六年六月朝鮮信託業令が公布され、信託業者に對する指導監督の法規が整備するやうになつたのである。當時現存してゐるものは信託會社二十九社中朝鮮土地、共濟、群山、南朝鮮、釜山の五社だけは同令に依り營業の免許を受けた。

昭和七年十二月朝鮮信託が設立されてから、同社は昭和八年九月群山信託を買收したのを始めとし、昭和九年十一

月までに上記五社の買收を完了し全鮮唯一の信託會社となつた。こうした歴史的回顧の過程に闡明されて、朝鮮信託は獨歩の雄をすゝめてゐるのである。

以下普銀の業務概況と朝鮮信託の業務概況とを併記しておこう。(單位千圓)

普通銀行業務概況 (昭和十四年六月末現在)

銀行名	公稱資本金	拂込資本金	積立金	政府貸下金	預金	貸出金
朝鮮商業銀行	九、九二五	四、九七五	二、五三四	一六五	九一、一〇二	七三、六四一
漢城銀行	三、〇〇〇	一、八七五	七二〇		五三、六二四	五〇、二一九
東一銀行	四、〇〇〇	二、七七五	一、〇六三		三一、八〇四	三四、九九九
湖南銀行	二、〇〇〇	一、八七五	七四六		一〇、五四七	一一、三八一
慶尙合同銀行	二、二五〇	一、三三一	三五五		五、七九四	七、八六一
大邱商工銀行	一、〇〇〇	三五〇	九五		七、三〇八	七、五一七
第一銀行支店					三七、二一七	二八、三六五
安田銀行支店					二六、一一六	一五、一三三
三和銀行支店					一一、〇六七	八、一六七
合計	二二、一七五	一三、一八一	五、五一三	一六五	二七四、五七九	二三七、二八三
昭和十三年末	二二、一七五	一三、一八一	五、二五二	一六五	二二七、九七三	二一〇、一四五

朝鮮信託株式會社業務概況	資本金	拂込資本金	積立金	各種信託受託高
昭和十三年末	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	四八八	一一〇、〇四五
昭和十四年六月末	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	六二八	一二三、四五一

金融組合と聯合會

朝鮮に於ける金融機關は叙上の如く多彩の歴史的段階に發展したる回顧と現實との記録を把握してゐる。ところが、さらに別働隊として立ちあらはれ、新銳主義の旗幟をかゝけて出現したものに金融組合の機關がある。内地の信組の如く朝鮮の金融組合は觸手を農業及び商工業の全階層に伸べ、庶民金融機關としての機能を萬全に發揮してきたことは特に紙上に紹介するものがある。

庶民金融機關の小口融資は組合員の金融としては唯一便法的のものであり、特に時局下に於ける組合協同主義化の推進性の發展はめざましいものがあり、これに表裏する功績を没すべからざる記録を輝してゐる。

同組合は明治四十年地方金融組合規則を發布して以來、毎年各地に數十の組合が設立され、農民の經濟を緩和助長して一面産業の發展に貢献を捧げてきたものである。

大正三年にいたり準據法に改正を加へ、新に地方金融組合令を公布し、組合員の權利義務を明確にし、業務の範圍を擴張した。

次いで同七年六月さらに一部を改正し、地方金融組合令を金融組合令に改めた。そこで今までは農民に限り組合員の資格を、さらに商工業者に擴張し、殊に都會地には主として中小商工業者を組合とする都市組合の設立を認めたとはいふ。これは劃期的の轉換ともいへやう。

昭和四年四月組合の組織及び業務の内容に亘つて準據法を改正し、その運用に依つて庶民金融機關としての機能を萬全に發揮するに至つたのである。左に組合員の組織と事業との大要をのべて見やう。

(1) 組合員は組合区域内に住所を有するものに限り其の設立の趣旨に鑑み主として中流階級以下の者を加入させる。
(2) 組合員の責任で出資一口以上（一口の金額十圓以上五十圓以下）を負擔させ、之れに對しては年七分以下を配當する。

(3) 組合に組合長一人、理事二人以上及び評議員五人以上を置く。然し必要ある場合は朝鮮總督の認可を受け一人又は數人の副理事を置くことが出来る。而して組合長、監事及び評議員は組合員中から選任させ、理事及び副理事は朝鮮總督が任免する。

(4) 組合の代表は組合長と理事の共同で爲すか、常務については理事單獨で之れを代表することが出来る。

(5) 組合の資金は出資金、預り金、借入金、各種積立金から成り（村落組合に在つては外に政府の下附した基本金を有する）左に掲げる業務を行ふ。

(イ) 組合員に對しては經濟の發展に必要な資金を貸付すること、(ロ) 組合員の爲に預金又は定期積立金を受入れること、(ハ) 朝鮮總督の認可を受け組合員の爲めに貨物を倉庫に保管し又は之に對して倉荷證券を發行する貸金をすること、(ニ) 他の金融組合若は銀行の業務を代理し、又は銀行の業務の媒介をすること、(ホ) 供託又は地方金融の調節に關しては朝鮮總督の命令した業務を爲すこと。

尙都市組合は、(イ) 號の資金の爲め手形の割引を爲すことを認める。茲に金融組合に對する昭和十四年度六月現在の成績を附記してをく。

金融組合の上部機關として朝鮮金融組合聯合會がある。

聯合會は各金融組合の資金の加不足を調節し、さらに之れが監督指導の機能を附與するものである。金融組合の個

個の性格を個々に發展せしむることは、個々の對立意識を作るといふよりも、金融の個別なることはそこに資金のバランスを激化することにもなるので、上部に聯合會を設立しこの調節の任務と經營にあたらしめ、一面直接的の官廳指導監督より脱逸し、組合の積極的活動を促進するに遺憾なからしめたのである。

昭和八年朝鮮金融組合聯合會令を制定し、各道金融組合會を合併して新たに朝鮮金融組合を創設した。今その組織の一斑を窺ふに、

- (1) 朝鮮金融組合聯合會は會員に對して資金を供給し、義務上の指導を爲し、その他會員共同の利益の増進を圖ることを目的とする非營利有限責任の法人で、その本部を京城府に、支部を各道廳所在地に置く。
- (2) 朝鮮金融聯合會は金融組合及び朝鮮總督府の指定したる産業に關する法人を以て會員とし、會員に對しては出資一口以上（一口の金額五百圓）を負擔させる。之れに對しては年七分を配當する。
- (3) 朝鮮金融組合聯合會には會長一人、理事十三人以上及び監事二人以上を置く。會長及び理事は朝鮮總督が任命し監事は總會に於て會員の代表中から選任する。
- (4) 朝鮮金融組合聯合會の資金は、出資金、預り金、政府貸下金、借入金及び諸積立金から成り、左に掲げる業務を行ふ。

(イ) 會員に必要な貸付を爲すこと、(ロ) 會員に對して手形の割引を爲すこと、(ハ) 會員のために爲替業務を爲すこと、(ニ) 會員から預り金をすること、(ホ) 會員に對して業務上の指導をすること、(ヘ) 會員相互の聯絡及び業務上の便宜を圖ること、(ト) 會員の職員の教養其の他會員の共同の利益を増進する爲め必要なる業務を爲すこと。

左に金融組合業務概況を示すと、(單位千圓)

金融組合業務概況 (昭和十四年六月末現在)

組合別	組合數	支所數	組合員數	拂込済出資金	積立金	借入金	預け金	預り金	貸出金
村落組合	六三九	三三三	一、二、七、一、四	三、一、三、〇、三	二、三、七、六	二、一、三、八	九、六、〇、七	一、三、六、三、四	一一、七、二、〇
都市組合	六	三	二、一、七、七、七	二、三、三、七	二、三、三、三	七、三、七	七、七、二、三	七、七、〇、〇	五、七、〇、二
計	七九	三三六	一、四、八、九、一	五、四、六、七	四、六、〇、九	二、八、七、五	一、七、三、三、〇	一、一、三、三、四	一、七、四、二、二

金融組合と金融組合聯合會に配するに殖産契がある。昭和七年時局匡救策として鮮内に自力更生運動が勃興し、金融組合への中小産業組合の増強及びその指導が要請さるゝに至つた。一面精神訓練及び經濟指導の徹底を圖り、地方振興運動の實效を收め而して朝鮮統治の運営に資すべく、昭和十年八月卅日限り制令第十二號を以て殖産契命が公布され、同年十二月十日より之れを施行したのである。

そこで昭和十四年七月末現在に於ける金融組合所屬下の殖産契を掲載して見ると、(單位千圓)

朝鮮金融組合聯合會業務概況 (昭和十四年六月末現在)

支部數	會員數	拂込済出資金	諸積立金	政下金	借入金	金融債券	預け金	預り金	貸出金
一三	二、七	一、四、七、四	一、三、七、三	五、三、三、三	四、〇、〇、〇	二、六、六、六	一、一、二、二	一、一、三、三	一、一、三、三

最後に附記するものに無盡會社の存在がある。朝鮮無盡業は大正十一年四月、朝鮮無盡業令制定以來特に進展したが、時勢の進展とその實狀に鑑み、昭和六年準據法令の全般的改正を行ひ、さらに昭和十一年五月合併の簡易化を圖るため準據法の改正を行ひ、もつて庶民金融機關としての發展性を維持確保せしめたのである。

會社篇

株式朝鮮銀行

特殊銀行が戦時金融計畫の前進に伴つて建設的批判を強化せしめる表裏には、特殊銀行の質的變化といふ表現が公式化されてくる。國家資本の膨脹の蓋然性の發揚は特殊銀行の質的推進性に應へねばならない。

公債數量を指標とする對策的にも特銀の機能はもとより現状維持を許すまい。國家資本の飛躍的増大と特銀の機能を壓縮するといふのは當らない。特銀のもつ独自の役割は公的金融の發展にともないます。重要性を加へ來るものと見てよからう。

問題の兌換券最高發行は、日銀の四十七億圓に對し、朝銀の六億三千萬圓、臺銀の二億四千萬圓と決定され、これまでの恒常的限外發行の赤信號はこれで一應解消すべきものとなるわけである。

こうした對策は特銀の營業政策の自由槓杆の發揮に置き替ふるものにして、いひ換へれば外的金融技術使驅を

安易化せしめる方策ともいつてよい。

鮮銀の外貌については産業篇欄内に於て一通り記述してゐる。滿洲國の建設と同時に、彼地に所在する支店網を滿銀に引渡し、鮮内特銀の金融支配に専ら傾倒してゐる。前加藤總裁の後を繼ぐ現松原總裁は金融エキスパートとしては隨一の折紙をつけられ、特に指導的推進力の豊富な聲價を博してゐる。

今更鮮銀の内容を解剖しても、どうにもなるまい。既に同行は一般經濟誌に粗上化されてゐる。茲には點睛相似の一面を記載してせめをふさぐことにしたいと思ふ。

當行は京城府大門通りに本店を置き、釜山、大邱、麗水外十二ヶ所に支店を設置し、明治四十二年十一月の設立、公稱資本金四〇、〇〇〇、〇〇〇圓、現重役陣には、總裁松原純一、副總裁君島一郎、同大塚源藏、同星野喜代治、同中野正永、監事西脇濟三郎、松平康春、芳賀文三の諸氏が就任してゐる。尙筆頭理事横瀬雄氏は先般當行を辭し朝鮮貿易振興會社の理事長に就任した。

當行の成績の一斑を指摘すると左の通りである。

〔資産負債〕		十四年六月	十四年三月	十五年六月
株主資本		三六、四七一	三七、一七五	四三、九三三
外部負債		一、六六、六〇〇	一、六二、〇三三	一、六七、八〇〇
預金勘定		七四、三九六	八二、六六六	一、〇〇、五九六
借入金		一、五八、八〇〇	一、六五、二六六	一、六八、八〇〇
使用總資本		一、九四、九〇〇	一、九四、九〇〇	一、七〇、九〇〇
固定資産		八、九〇〇	九、〇〇〇	九、一八〇
流動資産		一、八六、〇〇〇	一、八五、九〇〇	一、六一、七二〇
有價證券		四四、三六四	四九、〇〇〇	五九、〇〇〇
貸付金		五四、七九三	七三、九四八	八六、一七七
〔收支計算〕				
収入		三九、〇八八	三三、三六六	四三、三三六
支出		三七、六三三	三三、六七七	四一、七七七
純益		一、四五五	一、五九九	一、五五九

さらに業績を分析すれば十四年度の上期は利益率一一・八、配當率〇・六、保留率四・四、十四年下期は同一・二、同〇・六、同四・一、十五年上期は同一・一、同〇・六、同四・三といふ上昇のテンポを示してゐる。

朝鮮金融の司令塔に立つて内地、大陸の接壤金融權を操り、資金計畫と金融操作を行ふことは、二面同時の金融併行主義の達成といふ指標を置かれてゐるといつても

よからう。さらに生産擴充の資金を供給する殖産銀を配下にして資金計畫を運営することは異常の苦心を要すると同時に、全スタッフの使命こそ重且つ大なるものがあらう。

株式朝鮮殖産銀行

當行は鮮銀と雁行する特銀であり、不動産金融を主たる目的とし、さらに商業金融を行ふ特殊銀行である。

外地特銀の性格は内地特銀に比し民間的且つ商業的色彩と機構を昂め、それだけ官廳營業から逸脱してゐるところに特異の分野を持つてゐる。

當行は本店を京城府大門通二丁目を設置し、支店を東京、大阪外五十九ヶ所に及んで設けてゐる。大正七年十月一日に創立され、公稱金六〇、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込三七、〇〇〇、〇〇〇圓、現重役には、頭取林繁造、副頭取金子隆三、同山口重政、同富永文一、同松井彦治郎、監事原邦造、同進辰馬、同中富計太の諸氏が就任してゐる。

當行十四年より十五年に至る成績を示すと――

〔資産負債〕		十四年六月	十四年三月	十五年六月
株主資本		五九、七二一	六一、一五五	六三、八〇〇
外部負債		六八、三三二	八七、八四二	九七、四〇〇

預金勘定	三三三,九〇〇	三三〇,六七七	三三三,九〇〇
借用金	三三,七〇〇	一〇八,六六九	三三,〇〇〇
使用總資本	七四〇,九六二	九八,九六七	九四〇,二六四
固定資産	六,九三三	六,四三三	五,八八二
流動資産	七三三,五六九	九二,五三六	九三四,三八二
有價証券	六七,五七一	七,三七七	十三,三〇四
貸付金	六七,四六一	九八,〇八一	八〇,四九〇
現金預金	一〇,四三三	一一,七六八	一四,〇八八

〔収支計算〕
 純益 三、五五一
 支 出 三、〇九六
 純益 金 四五五

〔負債資産〕
 株主資本 八、二〇五
 外部負債 一〇七、八〇五
 預金積金 一〇七、四〇五
 使用總資本 二六、〇一〇
 固定資産 一、八二八
 流動資産 一一四、一八二
 貸付金 六、一五二
 有價証券 三九、八二六

〔収出計算〕
 純益 三、五五一
 支 出 三、〇九六
 純益 金 四五五

を計上し、ことに緯々たる資産面を指摘せしめてゐる。さらに利益率を見れば、十四年六月の利益率一%五三、配當率〇%九〇、保留率三%八五、十四年十二月には同%六八、同%九〇、同%三三、十五年六月は一%八三、同%九〇、同%八一を示し、十四年下期に比し利益率に、保留率に上昇を記入せしめてゐる。當行は生産擴充の面の資金ルートを一途に引受け、全鮮の鑛工フルの稼働化には當行の全面的資金供給が賄れてゐることを知らねばならない。時局下特銀の地位は背推を記録されてゐる。中にも殖産銀のもつ面の負擔はさらでだに九鼎のそれに比すべきものがあるといへやう。

株式 朝鮮貯蓄銀行

當行は全鮮内に於ける隨一の貯蓄銀行として金融的公私の使命を遂行するもの、貯銀の機構がいかに現下の金融情勢に重要な使命を持つか今更々々するまでもなからう。

當行は夙に今次事變の勃發を見ると同時に貯銀の本質性を發展せしむるに萬全を賦與し、資産基底をさらに強大にして、時局の金融公課に善處したあたり、稱賛に値すべきものがあらう。

頭取伊藤明治氏は人格徳望識見並び立ち、貯銀經營家としては無二の打つけ役と稱せられ、同氏を樞軸とするところに、當行の發展基地は創定されてゐる。

本店を京城府本町一丁目設置、支店を釜山、平壤、仁川外九ヶ所に設けて、貯蓄金融の急務なることを普及宣揚してゐる。

昭和四年七月一日に設立し、資本金五、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込三、七五〇、〇〇〇圓、經營スタッフには頭取伊藤明治、常務白石甚吾、取締役迫間房太郎、同辻本嘉三郎、同山口重政、監査役木村雄次、同金奎洙、同荒井初太郎の諸氏が就任してゐる。

大株主として座標に光るものを擧ぐれば、朝鮮殖銀、

第一生命、朝鮮火災、有賀光豊、辻本眞三郎、長部徳太郎、迫間房太郎、西崎省三の諸氏がある。

十五年六月の營業成績の一部を掲げて見ると――

株主資本	八、二〇五
外部負債	一〇七、八〇五
預金積金	一〇七、四〇五
使用總資本	二六、〇一〇
固定資産	一、八二八
流動資産	一一四、一八二
貸付金	六、一五二
有價証券	三九、八二六

を計上してゐる。純益率二%四三、配當率〇%八〇、保留率六%三七となつてゐる。

貯蓄の營業が殆んど公的化されて公債消化に全面されることは、私益の縮小と表裏する理論をもつわけであるが、公債投資の安全化は貯銀それ自體の機構本質の上に、見て好ましい現象性といはねばなるまい。

金融新構想も所詮は金融公益優先を發展せしむる槓杆

命題である。明日の貯銀の課題はこのところにも興味を示唆をもつてゐる。

株式 朝鮮商業銀行

朝鮮の金融は大陸的性格をますます發揚し、その方向に史的發展を記録してゐる。商業的金融もその傾向に指標するのはむろんであるが、大陸前進基地として、内外と大陸との物質を交流するところには、商業金融的性格の浮彫性は濃厚化されることにならう。

當行は朝鮮金融界否商業金融機關として歴史的發展性を有し、極めて堅實なる營業過程を以て創立より今日に及んだものである。

京城府大門通二ノ二〇に本店を有し、支店を鎮南浦、龍山外三十四ヶ所に設置し、全鮮に及んで商業金融網を張りつめてゐる。

明治三十二年の創立、資本金九、五二五、〇〇〇圓を有し、重役陣には、頭取堀正一、専務井上清、常務金鎮玉、同檜山梅喜、取締役進辰馬、監査役賀田直治、同金正浩の諸氏が就任してゐる。

十五年六月の成績は――

株主資本	八、〇一一
------	-------

外部資本	一三六、〇四四
預金勘定	一三〇、三五四
使用資本	一四四、〇五五
固定資産	三、一七九
流動資産	一四〇、八七六
有價証券	二四、八七一
貸付金	九〇、六六六
〔收支計算〕	
収入	五、〇五三
支出	四、七八八
純益	二六五

を計上し、純益率一〇七、配当率〇%五〇の成績を示し内容の好化を記録してゐる。
大株主として朝鮮信託、大昌興業、其他巨大産業資本家、金融家を網羅し、逐期成績を向上し、鮮内に誇るべき商業金融の強打性を顕揚せしめてゐる。

株式会社 漢城銀行

當行は商工業金融機關の代表的地位をすゝめ、經營の堅實なると資産の優越なることを誇るもの。全鮮民間金融機關にして随一なるものを自他共に許すに餘りあるものである。

株主資本	二、八四五
外部負債	九五、六四八
預金勘定	八一、七九〇
借入金	一一、七一六
使用總資本	九八、四九三
固定資産	二、二一〇

頭取野田新吾氏の人格を中心主義に極めて温健明朗の經營を執り、實に今次事變の全鮮金融の需要を充實し、活潑なる授信力を發揮し、生産擴充の面にも巨大の寄與を齎してゐる。
本店を京城府南大門通一丁目に設置し、支店を水原、平壤、太田、開城、釜山、大邱、平壤外五ヶ所の樞要の地に設立し、水も洩らさぬ完璧なる金融陣をききつめてゐる。
明治四十四年六月の創立に係り、一般銀行業を營み、商工業の預金貸付の全面的性格を昂揚せしめてゐる。資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓を擁し（拂込一、八七五、〇〇〇圓）重役陣には頭取野田新吾、常務取締役三宅富治、取締役張友植、同金季洙、監査役徐光世、同星野喜代治の諸氏の一流メンバーを塔列せしめてゐる。
十五年六月の當行成績を指摘して見ると――

流動資産	九六、三四五
有價証券	一三、二四三
割引手形	一〇、一六四
貸付金	六九、五一四
〔収出計算〕	
収入	四、二〇五
支出	四、〇九〇
純益	一一五

を計上し、洵に健實無比の決算振りを示してゐる。而して純益率は一%二二、配当率は〇%五〇、保留率六%三四といふ飛躍を記録し、受信、授信共に弾力化を有して經營してゐるあたり、王者の貫録を遺憾なく發揚してゐる。鮮内金融は内地とタイアップして膨脹指標を發展し資本需要は生産面のテンポに随伴して、さらに一層の旺盛を呈するであらう。同行金融的役割は重且つ大なりといふべきであらう。

株式会社 大邱商工銀行

大邱の近時の發展は實にめざましいものがめり、地域的金融も之れに反映して推進性を發揚せしめることにならう。大邱商工業界の唯一完全を誇る當行は地方的特殊の金融事情に立ち、實實剛健の營業政策を以て今日に及

株主資本	六一〇
外部負債	一〇、五七七
預金勘定	八、二七七
借入金	二、〇一六
使用總資本	一一、一八七
固定資産	五四二
流動資産	一〇、六四五
有價証券	三一八
現金預金	四二七
貸付金	九、八四〇
〔收支計算〕	
収入	五九三
支出	五二二

んだものである。
當行の史的發展は他の機會に譲るとして、當行は大正三年八月の創立になり、比較的新しい年月の經營にあるが、それだけに近代機構を入れての嶄新的空氣を營業に抽出せしめ、諸相とみに清新に掩れてゐる。
重役陣には代表取締役小倉武之助、専務取締役右近末穂、取締役泰喜葵、同青木柄、監査役張稷相、同高橋泰三、同安永尉濱、同白井義三郎の諸氏が就任してゐる。
十五年六月の決算は――

純益金 七一
 を計上し、純益率は四%〇六、配当率は〇%四〇、保留率は八%五九といふ堅實なる成績を發表してゐる。大邱證券、大光興業の法人その他半島財界知名の士が出資株主として經營の核心を拘欄せしめてゐる。

朝鮮火災海上保險株式會社

半島唯一の火災保險を代表するものは當社である。内地の如く競争會社をもたず、殆んど獨占的地位を發展せしめられることは營業進化の最大最良のコンディションといはねばなるまい。云ひ換れば獨歩の營業を自由に進展せしめられる分野を把握する當社の強味こそ、ますます前途の發展を期待せしめるものがあらう。

その上にも當社は健強なる經營のスタッフを擁してゐること、嶄新なる保險技術の創設を以て地盤を開拓し、さらに火災保險の一般的認識化は契約の増進テンポを上昇せしめる原因となつてゐる。

先づ重役陣を一瞥すれば、社長石川登盛、取締役香推源太郎、同韓相龍、同徐丙朝、同進辰馬、同田中三郎、同富永文一、同吉村偉秀、監査役森菊五郎、同金漢奎、同清水佐太郎の諸氏が燥然と座標に輝いてゐる。十五年六月の成績を見れば――

〔資産負債〕

株主資本	三、〇五八
責任準備	一、〇七九
外部負債	三九五
使用總資本	三、四五三
有價證券	一、一六一
預金預ヶ金	一、六〇四

〔收支計算〕

收入	四、二一六
支出	三、九六六
純益金	二五〇

である。さらに純益率二%〇〇、配当率〇%八〇、保留率五%三〇を記録し、内容の健實化を窺はしむるに足りやう。

大株主には朝鮮殖産銀行、朝鮮信託、朝鮮商業銀行、東一銀行等の官民金融機關を有し、之れとタイアップして資金方面に著しい槓杆を發展せしめるものを指摘して置く。

朝鮮信託株式會社

半島信託機關は内地の如くその組織構成に於て財閥的性格の色彩を持たず、そのかはりに巨大官府的金融機關

〔收支計算〕

收入	九七一
支出	六七一
純益金	三〇〇

を計上し、純益金に於て二%四〇、配当率〇%八〇、保留率六%〇〇を示し専ら内容の蓄積と發展の確保を表記してゐる。

當社は朝鮮唯一に輝く信託機關であること、内地のやうに同業鎬を削る競争圏に立たぬ獨占勢を進展せしむるに自由なる天地を擁してゐるのは、なんといつても營業有利の最大を掴んでゐるといへやう。社長谷、専務井兩氏の人格的至寶は内外面の信用樞軸の遂行に値するものと見るべきである。當社の金融的役割はとみに擴大性を展示されるに至つた。

咸北無盡株式會社

半島無盡業の歴史的過程には特筆すべき長足の進歩を記録してゐる。無盡は庶民金融として、銀行、信託と分野を異にする特殊の金融機能を持し、庶民衆に近接してゐることは、一面貯蓄力を集中化せしめ、一面これを公債消化に轉ぜしむる巨大な役割を指摘せしむるものがある。當社は斯界に雄姿を馳するもの、無盡の機構完備を代表し、今次事變に際しては偉大なる活躍と貢獻を示し

を樞軸とする株主を以て組織されてゐることは、一段と信用評價を昂騰せしめる指標ともなつてゐる。當社の大株主には朝鮮銀行を始めとし朝鮮殖産銀行及び財界一流のメンバーが網羅されてゐる。總株數の絶對過半を兩行によつて占めてゐることは、兩行に表裏する信用飛躍を前面に露出してゐるものといへやう。

昭和七年十二月の創立にかゝはり、本店を京城府南大門通一丁目に設け、支店を群山、釜山、木浦、平壤外樞要地に置き、信託機關としては最新陣營を整備するものである。

經營スタッフには社長谷多喜磨、會長韓相龍、専務井源輔、取締役閔大植、同張稷相、同森菊五郎、同杉村逸樓、同山口重政、同櫻井金吾、監査役金季洙、同金漢奎、同矢鍋永三郎の諸氏が就任してゐる。十五年六月の成績を擧げて見ると――

〔資産負債〕

株主資本	四、〇六一
外部負債	二九一
使用總資本	四、三五二
固定資産	九〇一
流動資産	三、四五一

〔收支計算〕

てゐる。

本店を清津入船町に置き、支店を羅南、會亭、雄基、外二ヶ所に設け、昭和十二年三月の新進會社である。無盡業の外に火災保険の代理業を兼營し、資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓を擁し營業は至極健實を主義とし、外的信用はとみに飛躍されてゐる。

重役陣には會長山本和太郎、社長光永喜七、専務浦邊清一郎、常務阿村專二、取締役前田政、同近藤逸八、同黒田勝太郎、同薄圭勳、同夏目十郎兵衛、同淺野茂夫、同監査役飯田繁藏、同坂井田貞治、同赤木輝夫等を布石して専ら堅壁に持してゐるものである。

然して昨々上期の決算成績を一瞥すれば――

〔資産負債〕

株主資本	七五六
外部資本	二六〇
無盡勘定	一、〇二九
使用總資本	二、〇一七
固定資産	七五
流動資産	一、九四二
現金預金	三七〇
貸付金	一、四八五

〔収支計算〕

収 入	二六〇
支 出	一八九
純 益 金	七一

を示し、純益率二%八四、配當率は〇%八〇を計上、内容改善の顯著と成績の良好化とを記録してゐる。

光永社長、浦邊、阿村の兩常任取締役は同地方に於て聲望隆々を以て知られ、醇厚なる人格と眞摯なる舉措は無盡經營者として適格者と謳はれ、この人的基調に當社の發展は培れることを見落してはなるまい。

慶北無盡株式會社

地域的に應じて地域金融の特殊性を發展せしむることも金融技術を驅使する外的條件であらう、大邱に本店を有し、大邱府を本據とする當社の無盡金融の操作には地方的特殊性――いひ換へれば金融カラーがくつきりと浮び出されるものが窺ひ知られるのである。

無盡業經營の特長發揮は地方的事情の探求に命題される。そこに庶民金融の役割がクロズ・アツプされるのである。當社の經營は夙にこの方向に重點を打たれ、カラ1擁護の發揮に努力してゐるところ、眞に經營の安全化を表徴するものを物語つてゐる。

本店を大邱府西城町二丁目に置き、昭和十三年二月設

立され、最も新進の會社として注目されてゐる。先聲會社をリードすべく新銳の努力を拂ふところ、そこに自ら經營に迫眞力を盛られやう。資本金二〇、〇〇〇、〇〇〇圓を以て組織され、拂込五〇〇、〇〇〇圓に達し、前々上期は八分の配當を行ふの好成績を示してゐる。

現スタッフ陣に光るものは、會長杉原長太郎、代表取締役徐丙朝、専務取締役堀田深、取締役鄭雲用、同小野元太、同金在濤、同福島美治、同徐相銜、同李相武、同稻垣徳三郎、同古谷治輔、同監査役鄭榮均、同松昇海、同小島金之助の諸氏等を網羅し、何れも同地方有力財界のメンバーでぬりつぶしてゐる。

大株主に朝山眉山育英會、朝鮮銀行の法人、個人には李相岳、小野元太、鄭榮均、徐炳桂の何れも金融資本の一流どころを集めてゐる。

前々上期の成績を記して見ると――

〔資産負債〕

株主資本	五七五
外部資本	二、六八七
無盡勘定	二、一三七
使用總資本	三、二九九
固定資産	一三九
流動資産	三、一三〇

有價證券 六 |

現金預金 七二六 |

貸付金 一、〇三一 |

〔収支計算〕

収 入	二一八
支 出	一八五
純 益 金	三三

を記入してゐる。利益率一%三三、配當率〇%八〇、保留率三%〇三を計上し遂期良好なる成績を示してゐる。無盡貯蓄の獎勵強化に裏書する過剩購買力の吸収は戰時經濟の命題である。無盡はこの命題を専ら包摂してゐるので、契約は時局の進展に伴つて益々増勢の一途を辿るものといつてよ。

釜山無盡株式會社

當社は社名の示すやうに朝鮮釜山に本據を構へ釜山府幸町一丁目本店を設けてゐる。朝鮮無盡業令によつて一般無盡の營業を行ひ居るものにして、大正十一年十二月の設立にかゝはり、比較的古き歴史を有し、社礎まことに堅實、純正なる經營を繼續し、以て今日に至るものである。

支店を馬山、晋州、統營、蔚山に置き、陣容擴大に力

めてゐる、時代は無盡萬能化を表現し、無盡のもつ貯蓄と公債消化との二面公課遂行は、契約の飛躍的増勢の源泉となることはむろんのこと、當社の如き多年の歴史を有するものには、さらに一段の發展譜を期待するものがあらう。その上にも經營重役は釜山財界に於ける知名徳望の七を以て網羅しをるなど、人的信用を中樞とする視野より見て益々發展的弾力を附與するものといへやう、現重役陣は社長坪井和一、専務取締役崎榮太郎、取締役山内善造、同衛藤竹彦、同加藤一、同河原錫、同監査役坪井佐太郎、同西田木惣市、同兒玉鹿一の諸氏が就任してゐる。

前年六月の成績を發表して見ると――

〔資産負債〕	
株主資本	七六二
外部資本	三、四八六
無盡勘定	二、七二四
借入金	—
使用總資本	四、二四八
固定資産	三〇〇
流動資産	三、九四九
現金預ヶ金	六九三
貸付金	二、七八一

〔收支計算〕

收 入	三八八
支 出	三一一
純 益 金	七七

を計上し、さらに利益を分算して見ると、利益率四％七四、配當率〇％八〇、保留率七％二五といふ好成绩を示し資産内容の堅實をつぶさに反映せしめてゐる。

特殊の金融の地位を進め得られる無盡金融機關の前途は時局性にタイ・アップする性格性をますく濃厚化する一方にあり、釜山唯一の獨占を誇る當社の今後にはさらにめざましい躍進を期待されるものがあらう。

平南無盡株式會社

當社は平壤府旭町に本社を設置し、平壤府街を營業の中心とし、無限に外廓性を擴大強化せしめてゐる。

昭和十四年といふ新進の會社であり、半島無盡界の花形企業である。金融の發展性は創立の歴史年代よりも、經營の技術使驅の巧拙にあるといへやう。その意味に於て古實必らずしも事實とは稱し難い。新進のもつ安打力には多分の考察性と必勝の蓋然性が潜在されてゐるもの知らねばなるまい。當社の推進はまことに無縫熒爽の感を慄ぶものがある。

公稱資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓を擁し、重役陣には社長伊藤佐七、専務異儀田景樹、常務橋本泰藏、取締役森田奈良治、同横田藤之助、同象山郁次郎、同泰恕夫、同孫壽郷、常任監査役佐藤長五郎、監査役吉村源治、同瀧本理、同魯起元の諸氏を有し、伊藤社長は共に資本重役を代表し、専務異儀田、常務橋本兩氏が經營の當面的指導に當つてゐるものである。

十五年六月の成績を指摘すると――

〔負債資産〕	
株主資本	五六二
外部資本	一、七八七
無盡勘定	一、五四二
借入金	一〇〇
使用資本	二、三四九
固定資産	八六
流動資産	二、二六三
無盡勘定	一〇四
現金預ヶ金	一五七
貸付金	二、〇〇一
〔收支計算〕	
收 入	二一四
支 出	一六九
純 益 金	四五

を記録し、利益率を分析して見ると、利益率一％八〇、配當率〇％八〇〇、保留率四、四四を示し新進會社として比類なきリード性を發揮してゐる。

當社はリード性の湧沸に全力を傾け、時局下庶民金融のために槓杆を發揚し、契約高の増大と、一面貯蓄の吸收到大重になつてゐる。半島無盡企業の發達は、内地の無盡業に比しスムースの發展力を有してゐるのは、官府巨大の側面的支援にあるのと、半島民の無盡の理解力の發達に寄與するものを擧げねばなるまい。各業者がそれぞれ地方特有のカラーに追隨し地域金融に先入觀を拂つてゐるものが浮彫的に看取されるものがある。

朝鮮中央無盡株式會社

當社は朝鮮無盡企業の王座を占めるのみならず、金融機關に於ける背推地位を獲得してゐる。中央集權制の經營はひとり當社に見るのみといへやう。

量に於て質に於て第一位を把握し、別言すれば最大權威を以て經營を進むるものである。當社とタイアップするものに朝鮮銀行、朝鮮信託、朝鮮殖産の三大金融機關があり、何れも當社の大株主として名をたらねてゐる。中央的色彩にぬりつぶされてゐるところに當社の金融的營業の特性が窺れてゐるが、亦無盡業の機構完備を聞

明する上にも當社の存立は樞軸を遂行せしめてゐるものである。

創立は浅いが以上の巨大金融機關の支援聯にあることは、當社の總量を百%に湧沸せしめる源泉ともなる。無盡金融の缺陷は資本性の脆弱にある。いひ換へれば經營資本が私的關係に置かれ、私的情縁が支配的に經營にうかび出されるところに信用評價に反省されるものがあるといへやう。

當社の資本構成と組織設立の史的が庶民公益中心に發足されたことは、他無盡企業の私企業的品格と雲泥の相違があるわけである。

本店を京城府永樂町二丁目設置し、支店を水原、仁川、開城外九ヶ所に設け、火災保險代理業をも兼營してゐる。公稱資本金六、四九九、五〇〇圓、拂込金二、八七四、五〇〇圓、現重役には、社長古庄逸夫、専務三木清一、取締役佐野彦藏、同林管吉、同日良忠多、同櫻谷與作、同間島梅吉、同古城龜之助、同中富計太、同方臺榮、同伊藤壽一、同朴鳳鎮、同久武常次、同富士平、同監査役河口彌七の諸氏を擁し、京城財界の一流メンバーが主力陣を承つてゐる。スタッフ強化の陣容に推進力が期待されるものがある。

十五年上期の決算成績を示すと――

〔負債資産〕	
株主資本	三、七四五
外部資本	一四、五四六
無盡勘定	六、八二九
借入金	六、九八五
使用總資本	一七、六三四
固定資産	六五七
流動資産	一四、一二九
現金預金	一、六七八
貸付金	一四、一二九
〔收支計算〕	
収入	一、六八四
支出	一、二八四
純益	四〇〇

といふ成績を記録してゐる。さらに利益率は三%四九、配當率は〇%八〇、保留率は七%二九といふ比率を記入してゐる。業績の豊かなること、弾力に富める資産内容を潜め、専ら發展力にそなへてゐる。銀行、信託、無盡は金融的にそれ異色分野を有してゐる。無盡は大衆國民の生活の第一線に觸手する金融機關にして資本的品格をもたず、個人的貯蓄性をもつてゐるところに時局的昂揚を發展せしむるものがある。當社の如き市民層に基礎を置くものは、無盡の題化を完遂する

最適應性をもつものといはねばなるまい。

東洋拓殖株式會社

朝鮮には、滿洲國ほど國策會社の數をもたないが、國策會社の設立が滿洲國に比して古い歴史を有してゐるので、その基礎的發展力にも積極性の比重を見せてゐる。その中でも東拓の現有地位は、國策命題の有機性を遺憾なく發揮してゐる。その上にも日支事變を契機とし全鮮産業の新興勃化には東拓の金融的及び拓殖ヘゲモニーは高く評量されてゐるものが知られやう。

當社は明治四十一年日韓合併の特殊會社として設立され、國策的にもつ使命遂行に對してはかなりの高價の犠牲を拂つてゐる。朝鮮の農業經營は全生産の核心を占めあまりに支配力を進めてゐるが、農業經營を近代化の水準に引上げしめたる東拓の寄與こそ實に全鮮農産經營の母胎の役割を演じたのである。

設立當時の一千萬圓の資本を三千萬圓に増額し、拂込金も全濟みとなつてゐる。昭和十三年の東拓法改正に因れば、拂込資本金の十五倍まで社債を發行することが出来、また社債の元利支拂については政府の保證がついてゐる。

いひ換へれば政府の保護政策を有し、資金調達の方法

に於ても全面的に遂行し得られるといふ推進力を賦與されてゐることは、東拓の經營に對する一大強味といはねばなるまい。

東拓の事業部門は、金融、拓殖、事業の三部門に分たれ、収入の最も多いものは貸付金収入である。而して當期の貸付残高は二億四千萬圓に及んでゐる。之れを國種別に分析すると朝鮮は一億五千六百餘圓、滿洲國は六千八百萬餘圓、支那は一千八百萬餘圓、南洋は五百六十二萬餘圓となつてゐる。

投資部門で六百十六萬餘圓、株券所有残高は一億八千二百六十三萬餘圓、債券所有高は九百三十六萬九千餘圓を記帳してゐる。その他特殊事業、農業、林業、鹽業、殖民方面の収益を擧げると、巨額の數字を發表し得られやう。

本社を東京市麹町區内幸町東拓ビルに置き、支社を京城府黃金町二丁目置いてゐる。

現重役陣には、總裁佐々木駒之助、副總裁池邊龍一、理事齋藤力、同上内彦策、同中澤正治、同江口順一、同古川清七、參與松本健次郎、同八代則彦、同明石照男、監事堀啓次郎、同李鐘段、同米澤喜久馬の諸氏が就任してゐる。

十五年六月の業績は――

〔資産負債〕

株主資本	五六、七五三
外部負債	四五〇、八一九
使用總資本	五〇七、五七二
固定資産	五三、六八二
投資勘定	一六二、四〇三
流動資産	二九二、四八七

〔収支計算〕

収入	一九、九三一
支出	一五、五三一
純益	四、三八〇
固定負債却	一、三一五
償却年率	四%八

を計上してゐる。さらに利益率は二%一二、配當率〇%七〇、保留率六%五〇を示し、逐期向上の業績を記入せしめてゐる。

東亞共榮團の確立が拓殖を中心とするのはいふまでもない。東拓の外延線は東亞共榮團の擴大線に沿ふて推進飛躍の指標を浮彫せしめるものがあらう。

朝鮮開拓株式會社

鮮拓は東拓と拓殖分野を異にし、當社のもつ經營機構には豊富なる含蓄味が盛られてゐる。事業目的とするも

〔資産負債〕

株主資本	四、一六九
外部負債	四、〇二六
使用總資本	八、一九三
固定資産	六、三二三
流動資産	一、八七二

のは、干潟地開墾及び農事經營、不動産の賣買、經營管理、林業經營及び林業物賣買等である。朝鮮の農事經營と干潟地開墾は大いに發展的分野を有し、この方面への企業進出は、鑛工業方面を壓倒するものがあり、實に朝鮮の産業は農業、林業によつて二分化されてゐるものから見ても之れを首肯することが出来るわけである。

當社がこれに着目して、企業創意を干潟開墾、農事經營に移植せしめたことは、まさに企業的前見の明といはねばなるまい。

大正九年二月設立の歴史を有し、京城府本町一丁目に本社を置き、資本金四、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込三、〇〇〇、〇〇〇圓を以て至極温健なる經營を行つてゐる。

重役陣の顔觸れは、社長三好豊太郎、専務平原保、取締役七田常市、同石塚峻、同豊田橋藏、監査役齋藤久太郎、同水間美繼、同加藤喜一の諸氏のメンバーである。今茲に十五年上半年の決算の一部を一瞥して見ると――

〔収支計算〕

収入	三、二七三
支出	二、六八四
利益	五八九

を計上してゐる。利益率二%三八、配當率特別〇%二、普〇%八、保留率五%五五、この種の會社としては極めて好望なる内容を擁してゐるといへやう。

國土計畫が産業立地、農業立地の上に縦貫され、食糧増産計畫はこの構圖に建設化されることになる。當社の事業スベースは國土計畫の前進、食糧計畫の充實達成に表裏して一段の進境を見るであらう。時の舞臺に登場性を有つことは、なんにしても當社の前途を明朗ならしめるシグナルであると同時に、その企業評價は比重を高めるであらう。

朝鮮興業株式會社

當社は明治三十七年九月の創立といふ最古の歴史を有し、大株主としては尾高合名、大橋本店、澁澤同族、第一生命、野村生命、大川合名といふ一流どころのメンバーが相集つてゐる。視角から見ても内容の一斑を直ちに首肯することが出来る。

事業の目的は、農業及び殖林、畜産、不動産の賣買等

〔資産負債〕

株主資本	六、九七四
外部負債	五七四
使用總資本	七、五四七
固定資産	五、七四九
流動資産	一、七九八

が重大な科目である。主として農業經營に力點が立てられてゐるもので、歴史的年月の經營に照しても、社内蓄積の好化を窺知し得られやう。

大橋新太郎氏が社長として腕を利かしてゐることは、彼れの性格の如き堅實そのものを表現してゐるものともいひ得る。いひ換れば配當中心主義の經營をとらず、事業中心に命題するところに當社の内容を珠玉化するものがあるといへやう。

資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込済の會社である。重役陣には社長大橋新太郎、常務島原鐵三、取締役謙田勝太郎、同尾高豊作、同迫間房太郎、監査役西村道彦、同織田雄次の諸氏が就任してゐる。毎期一割五分といふ配當を記録してゐることは、この種の會社には珍しい成績の向上を物語つてゐる。

昨年度上半期の業績を發表すると――

收入	三、五六二
支出	一、〇九一
利益	一、〇〇八

といふ好成绩を挙げ、利益率は三五・三、配当率は一・五〇、保留率は五三・二を記録し、まことに輝々たる利益率を上昇せしめてゐる。

本店を東京丸の内一丁目設置し、経営スタッフはこれの方にあつて事業経営を行つてゐる。當社の堅實無比の経営は、いかなる經理統制の嵐があるとも、微動だになく、順潮なる経営をすゝめ得られるところに、強大なる経営の推進力が潜在してゐる。

朝鮮鐵道株式會社

朝鮮に於ける私鐵ルートの擴張は、全鮮産業發展の樞軸的紐帶の役割をなしてゐるのは贅言するまでもない。物資生産の擴充が運輸交通の完備を俟つことによつて達成されるのもむろんである。

當社は朝鮮私鐵の白眉と稱せられるもの。本社を京城府古市町に置き、支店を東京市麹町區丸の内丸ビル内に設け、大正五年五月の創立にかはり、鐵道經營の外に倉庫業並に旅館、車輛の製造、修理に及ぶ一聯の經營を行ひ、多角經營の機構を以て發展してきたものである。

毎期八分の配當を行ひ、業績も至極良好を經過し、私鐵界に於ける花形會社として一面株價の地位も上昇に確保され、東條、野田兩常務の人格と指導とによつて清新明瞭なる經營が續行されてゐるわけである。

因に昨年八月決算成績を記上すれば――

〔資産負債〕

株主資本	二二、一七八
外部負債	三五、四二〇
使用總資本	五七、五三八
固定資産	二六、〇〇四
流動資産	一、六三九
投資勘定	二九、九五五

〔收支計算〕

收入	三、五五七
支出	二、四五四
利益	一、一〇三

を計上し、利益率一・二五、配當率〇・八〇、保留率三・一〇を示すといふ好狀の成績を發表してゐる。當社は投資會社としての北鮮拓殖鐵道を有し、投資的収益寄與のテンポが遂期増大されてゐる。

大株主として東拓、日本徴兵、朝鮮信託、三菱鑛業、朝鮮貯蓄、大川合名の巨大メンバーがあり、資金的にもなんらの支障を見ず、順潮に經營をすゝめられることは

なんといつても一大強味と稱してよからう。

現在の重役陣は社長長谷川太郎吉、専務東條正平、常務野田薫吉、取締役賀田直治、同大川義雄、芳賀文三の諸氏が就任されてゐる。

京春鐵道株式會社

當社は京城府黃金町に本社を設け、春川、原川、江陵外七ヶ所に出張所を置き、昭和十一年八月資本金一〇、〇〇〇、〇〇〇圓を以て設立されたものである。事業の目的は鐵道運輸、倉庫業、自動車、土地建物の經營其他開發に關する業務を行ひ、さらに木材、薪炭の販賣を行つてきたのである。沿線地方はとみに發達し、産業の殷盛は運輸交通を激増する結果となるので、當社の収益率は逐期上向發展のテンポを指標し、經營はまことに安泰裡に續行されつゝあるのである。

現重役陣には、社長林茂樹、専務鹽川濟吉、取締役菊地一徳、同金季洙、同村上九八郎、同富田直次、同伊藤莊、監査役迫間房太郎、江原基陽の諸氏が就任し、専務鹽川濟吉はこのみちの經營にかけては特殊の手腕と指導とを擁し、當社の内外を擧げて推進せしめてゐるものである。

昨年三月の業績を検討して見ると――

〔資産負債〕

株主資本	二、一六九
外部負債	二〇、三九八
使用總資本	二二、七六七
固定資産	一九、四一二
投資勘定	一、〇一三
流動資産	二、三四二

〔收支計算〕

收入	三、三一〇
支出	三、三七八
利益	一、三二

を記入し利益率一・二二、配當率〇・七〇、保留率三・七五の堅實なる業績を示してゐる。大株主として朝鮮殖産銀、朝鮮信託、朝鮮貯蓄、朝鮮米倉の法人があり、其他個人としては迫間、方義鍋氏等の一流の財界の士があり、運営の豊かなるものを誇りに餘りあるものがある。

金剛山電氣鐵道株式會社

電氣動力の鐵道運輸及び電力の供給、自動車運輸の事業を兼營する當社は、全鮮電氣鐵道の鼻祖にして、歴史的にも多彩の光輝を有し、その規模の宏觀に於て、完璧を誇るものである。

古川阪次郎氏はこの道のエキス・パートをもつて知られ、櫻井専務の企畫經營はこれ又高價を以て評量されてゐる。斯くして當社の現勢はますます盛行化を辿つてゐるものである。

本社を江原道鐵原郡鐵原邑外村里に置き、出張所を東京市丸の内三菱三號館に設けてゐる。公稱資本金一〇〇〇、〇〇〇圓、現經營スタッフには、社長古川阪次郎、専務櫻井小一、取締役倉知鐵吉、同木村唯次、同山崎勝治、同久米平八郎、同杉村貞雄、同鈴木靖、監査役千秋秀隆の諸氏が就任してゐる。

投資會社に朝鮮送電、漢江水力電氣を有してゐる。昨十五年三月の決算面を見ると――

〔資産負債〕	
株主資本	一四、六一一
外部負債	八、〇七五
使用總資本	二二、六八六
固定資産	一九、三八九
投資勘定	一、一七五
流動資産	二、一二三
〔收支計算〕	
収入	一、六七六
支出	八〇八

利益金	八六九
固定償却	一二三
償却年率	一%二五

である。さらに利益率は一%八五、配當率〇%九〇、保留率四%七五といふ飛躍的高率を記録してゐるのは業界の歴巻を評するに足るものがあらう。

當社は運輸報國の新使命に全能力を傾倒し、時局下の生産陣の寄與と運輸公課の達成に邁進してゐる。前途の成績は刮目に値すべき湧沸が期待されてゐる。

多獅島鐵道株式會社

鐵道事業は公益中心的の事業であるのと、利潤追求本位の企業でないところに、時局的新體制に即應性を持つてゐる。當社は鐵道新體制の高次の理念に則し、運輸公課遂行の使命に努力を傾倒してゐるものである。

本店を新義州府綠町三丁目設置し、昭和十年七月に創立せるもの、資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓、半額の拂込を了してゐる。新進の會社なることは、設備技術の近代化に表裏すべきものを展示してゐるばかりでなく、王子製紙、東拓、朝鮮銀行、殖産銀行等の巨大人が株主として偉容に布石し、専ら楨杆にそなへてゐるのは、今後の進出發展を百%に培養するものがあらう。

現軍役陣には會長高島菊次郎、社長生田清三郎、常務菅野精三、取締役足立正、同森雄次、同横井半三郎、同加藤鏡治郎、同池田信、同牟田口吉之助、監査役松本弘造、同吉家敬造、同吉田雅一、同李潤迪、同白川肇一の諸氏が就任し、王子一色でぬりつぶされてゐる。

王子の傍系會社としての一翼に立つて經營を行ふことは資本的にも、金融的にも安泰であるばかりでなく、技術使驅にも自由の領域をもつてゐる。

十四年九月の業績の一斑を指摘すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	一、五一六
外部負債	六、五四九
使用總資本	八、〇六五
固定資産	七、二〇二
投資勘定	—
流動資産	八六三
〔收支計算〕	
収入	七二
支出	五六
利益金	一六
固定償却	一六
償却年率	〇%五

而して利益率に於て〇%二二、配當率〇%五〇、保留

西鮮中央鐵道株式會社

當社は三井、三菱の財閥を出資中心として創立されしものである。昭和十三年の設立にあり、新進中の新進の花形會社である。兩財閥が大株主となり鐵道企業に乗出したことは特異の分野を展望せしめる基標を示したものともしへやう。

生産擴充と産業發展の寄與の核心を構成するものが、鐵道運輸にあることはあまりに公知の事實であり、常識に供せられてゐるが、利益率の鐵道の經營は、利益を超越してある年月をそれによつて甘受する資格者でなければ理想は完成されないものである。

この觀點から兩財閥の鐵道經營の乗出し、巨大出資はこれをスムーズに回答し得られる絶好の對象であらう。當社は本社を平壤府濱町に設け、昭和十三年一月、資

本五一五、〇〇〇、〇〇〇圓を以て設立され、大株主として、三菱鑛業、三井物産、朝鮮信託、三菱商事、安宅商店を擁し、半島財界に君臨する人見次郎氏を社長として新經營に發展するものである。現重役には、社長人見次郎、常務今泉茂松、同石崎頼久、取締役加藤五十造、同田川常治郎、同山中三郎、同山中清三郎、同山下甚之助、監査役稻葉善之助、同金季洙、同鈴木智一郎、同鈴木春之助の諸氏が就任してゐる。

何れも財界の巨星であり、實務者を以てスタッフ陣を占めてゐるのは異彩を放つてゐると同時に、社内の堅強に資するものがあらう。

昨年三月の營業決算を披瀝して見ると――

〔資産負債〕

株主資本	六、二一一
外部負債	二、七一五
使用總資本	八、九二六
固定資産	八、二七四
流動資産	六五二
〔收支計算〕	
収入	四三四
支出	二四四
利益	一九〇

を計上してゐる。利益率〇%六四、配當率〇%六〇、保留率〇%二六の好成績を示してゐる。

未だ創立日尚ほ淺く、運轉設備資金を要し、いはゞ建設時代期にあり、これを一巡すればさらに業態を飛躍發展化せしめられることは明である。當社の株價はこうしたイクス・バズションにも一段の興味があらうと思ふ。

朝鮮汽船株式會社

當社は海陸運送業、貯業、倉庫業、保險業務代理業、運送業に關聯するその他の業務並に投資を行ふことを營業の科目としてゐる。本店を釜山府大橋通りに置き、資本金一、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込を了し、現重役に社長高井春五郎、常務武富謙吾、取締役廣瀬博、同福島彌市郎、監査役兒玉鹿一、同今井金之助の諸氏が就任してゐる。

大株主には朝鮮郵船が支配的の投資力を示し、朝鮮米倉が次位を占めてゐる。朝鮮郵船と有機的に表裏の關係にあることは、さらに當社の推進力を發揮するに一大楨杆であり、同時に經營の萬全を確保するの指標ともなるであらう。

今こゝろみに當社十五年五月の營業成績を記載して見れば――

〔資産負債〕

株主資本	一、四一四
外部負債	七〇七
使用總資本	二、一一一
固定資産	一、五九五
投資勘定	二四
流動資産	五〇二
〔收支計算〕	
収入	九八一
支出	八〇八
利益	一七三
船價償却	五七
償却年率	八%五

さらに利益方面を見ると利益率三%四六、配當率〇%七〇、保留率七%四三を記録してゐる。

海運界は船腹の不足時代に立たせられ、益々繁忙の状況にあり、フルの稼働を行つても運輸遂行は不可能なる状態にある。近海航業を主とするものは、遠洋航業を主とするものに比して、航業不安がないといふことは、安泰裡に營業を進捗することが出来るわけである。

朝鮮郵船株式會社

當社は朝鮮に於ける海運界の王座に位し、その脊柱を

全面に發展せしめてゐる。當社の資産内容を再検討するのは無用である。その理由は、あまりにも光輝の歴史を有し、且つ堅牢の資産に富んでゐるからである。完璧そのまゝの偉容を進め、時局下海運報國に萬丈の氣を吐いてゐる。

本社を京城府南大門に置き、支店出張所を大阪、東京外五ヶ所に設けてゐる。公稱資本金一〇、〇〇〇、〇〇〇圓、明治四十五年三月の設立、日本郵船、大阪商船、朝鮮殖銀の資本投下に立ち、日本郵船、大阪商船と有機的にタイアップしてゐる。

現在の重役陣には社長樫木幹造、専務廣瀬博、取締役林友作、同食堂貫一、同寺井久信、同富永文一、同田島正雄、監査役菊地一徳、同神田外茂夫、松崎嘉茂等の諸氏が就任してゐる。

當社十五年三月の營業決算を披瀝すれば――

〔資産負債〕

株主資本	一四、二八七
外部負債	一、六九六
使用總資本	一五、九八三
固定資産	一〇、五一〇
投資勘定	一、九九七
流動資産	三、四七六

〔收支計算〕

收入	七、〇四七
支出	四、八五二
利益	二、一九五
船賃	三三三
船賃償却	一〇%六

さらに視野を轉じて利益方面を一瞥すると、利益率に六%七五、配當率に〇%八〇、保留率に八%五六の高率を示してゐるのは、なんといつても王者の堂々たる貫録を持してゐるといへやう。

大陸と内地との物質交流の調整の役目を完遂するはもとより、當社の外延勢は事變を楔機として飛躍化され、海運輸送報國の命題に全力を動員してゐる。

高度國防の建設が交通運輸にあり、殊に海運の地位は核心を占めてゐる。この觀點からも當社の如き白眉を進めるものは、偉效を記録する多大なるものがあらう。

朝鮮米穀倉庫株式會社

戰時食糧統制の計畫の前進は、食糧業務に關する諸方面に對し、計畫性を強化せずにはをかぬであらう。米穀倉庫は、食糧政策の一翼として重要視され、この機構の完備發達に米穀の配給は衡化され、跛行は是正されるの

である。生産、配給、消費の三部門の整調を決定する米穀倉庫の機能の發揚こそ、實に食糧計畫の根幹を果すものといつてもよい。

當社は本店を京城府南大門通二丁目に置き、資本金五、〇〇〇、〇〇〇圓を以て昭和五年十一月設立され、既に三百萬圓の拂込を了してゐる。

朝鮮米移出の調節を爲す當社經營の倉庫機關の存することは、時局下にいかばかり貢獻を齎してゐることか、實にその業的寄與の高價なるものを認められてゐる。

鮮銀、殖銀、東拓、加藤精米所、朝鮮貯蓄か出資に集中されてゐる。いひ換へれば公益優先を標榜とする營業方針の經營に出發するとこれを設立の目的とし意圖としてゐるところに、當社の内容を検討する必要がある。

現重役には社長石塚峻、専務立川六郎、取締役横網守雄、同倉原新、同山口重政、同加藤平太郎、監査役荒井初太郎、同上内彦策の諸氏が就任してゐる。

試みに當社十五年九月の營業内容を列記すれば――

〔資産負債〕

株主資本	五、七四二
外部負債	四、〇四五
使用總資本	九、七八七
固定資産	七、八三〇

〔收支計算〕

投資勘定	六二四
流動資産	一、三三三
収入	三、五三五
支出	二、九九六
利益	五三九
固定償却	一八九
償却年率	二%四

を計上し、利益率は二%一三、配當率は〇%八〇、保留率は六%八二といふ好成绩を示し、資産安泰に業績の前途を買ひすめられてゐる。

當社の經營は公的命題に支配され、一個の營利會社の域に視野するは當らない。移出米の當面緊要問題を整調するだけでも客観性は重大なるものを窺はせしめてゐる。

南鮮合同電氣株式會社

當社は南鮮に於ける唯一の電力會社であり、電力、電燈の供給を以て營業の主要科目としてゐる。電力化時代の生産擴充は戰時下産業界を風靡し、電力不足が生産力を畏怖せしめる源泉に指標されてゐることが、いかに電力重要時代が時局面にクロスアップされてきたるを窺ふものがあらう。

南鮮産業に電力を供給し、同地方の生産を育成發達せしめてゐる當社は、本店を京城府黃金町に設置し、支店を釜山、大邱、木浦外三ヶ所に設け、大正五年八月を以て設立し、現在資本金二千六百八十八萬三千圓を擁し、全額の拂込済の巨大電力會社メンバーのひとつである。

投資會社として朝鮮電力、東亞水力、北支開發、中支振興、漢江水電、華中水電が擧げられてゐる。この方の會社も逐期成績向上してゐるので、収益に寄與するものがとみに期待されるに至つたのである。

現重役には、社長小倉武之助、會長香推源太郎、副社長長井邑次郎、同古谷脩一、常務飯倉文輔、同佐久間權次郎、同増田定吉、同有柳八百造、同小瀬守次郎、取締役内田六郎、同梅崎延太郎、同張稷相、同迫間房太郎、同石津龍輔、同菊谷茂吉、監査役裏松友光、同高草美代藏、同村上直助、同竹内清次郎、同森春藏の諸氏が就任してゐる。

以上のスタッフ堅陣の布石に經營する推進力の強大はいはずもがな、業態は每期飛躍向上を辿り、每期一割の配當を悠々として行つてゐる。

今茲に十五年三月の成績を示すと――

〔資産負債〕

株主資本	二七、四一三
------	--------

外部負債	二二、三七一
使用總資本	四九、七八四
固定資産	三一、〇五五
投資勸定	一一、四九一
流動資産	七、二三八
〔收支計算〕	
收入	七、〇九八
支出	五、二八三
利益	一、八一五
固定負債	五二〇
償却年率	三%三

を計上し、利益率は一%六七、配當率は一%〇〇、保留率は三%四七を擧げてゐる。かゝる好轉せる運用資産に置かれてゐる。従つて株價の地位も安泰裡にあることはむろんである。

西鮮合同電氣株式會社

當社は本店を平壤府船橋里に設け支店を西鮮の主要地に置き、公稱金一七七五、〇〇〇圓、大正八年五月に設立され、電力、電燈、瓦斯の供給、電氣事業に對する投資、電車、乗合自動車の事業を經營するものである。主として西鮮の産業及び生擴事業に事業の核心を傾け

電力過多の供給を行ひ、戰時下産業界に甚大の寄與を齎してゐるものである。

資本系統は東拓、日本電興、平壤府尹といふ特異のメンバーが支配的地位を示してゐる。平壤府尹といふ一大株主を擁することは、官廳的にも密接の關係を指視せしめ、且つ企業育成が専らこの方向に基臺されてゐる一面を推知しられるものがあらう。

當社は斯くして順調なる経過の歴史經營を辿り、合同性格の圓滑なる運営をすゝめ來つたのである。西鮮方面の産業開發、新企業の擡頭發展は刮目に値するものがあり、電力フル化時代の出現を遂に現實化せしめてきたのである。さらに當社の傍系的事業も逐日進展し、この方の寄與的收入も資産内容をうるほしてゐる。

現に經營に直面するメンバーを指摘して見ると、會長香椎源太郎、社長今井頼次郎、常務永木茂一、同岡谷修二、同難波彌一、同金正浩、同神保信吉、同龜山猛治、取締役倉知鐵吉、同松井邑次郎、同鈴木種一、同崔増漢、同加藤鏡治郎、同田村忠一、同上内彦策、監査役樋口虎三、同横田虎之助、同稻葉善之助の諸氏である。いづれも全鮮實業界の錚々たる知名の士を以て網羅されてゐる。

そこで、當社十五年六月の營業決算を見ると――

〔資産負債〕	
株主資本	二三、〇一六
外部負債	一六、三四四
使用總資本	三九、三六〇
固定資産	二一、〇六九
投資勸定	三、六三四
流動資産	一四、六五七
〔收支計算〕	
收入	七、二七二
支出	五、三七八
利益	一、八九四
固定負債	四二九
償却年率	四%一

を計上してゐる、視角を利益の方面に轉じて見ると、利益率二%一二、配當率八%〇、保留率五%八六を記録してゐる。堅實なる經營振りといふべきであらう。このイキズ・パチジョンの狙ひも一段の興味を示唆するひとつでもある。

北鮮合同電氣株式會社

北鮮方面の産業開發テンポのスピード、新興企業の擴充横益はものくしい浮彫を示現し、これらの起動力の

モメントを把握する電力企業は百%に稼働を要請されてゐる。

當社は北鮮電力界の耆宿にあり、明治四十五年六月といふ傳統の歴史に發展してきたものである。

現在資本一〇、九〇〇、〇〇〇圓、拂込六、九五〇、〇〇〇圓を擁し、本店を咸興府知樂町に置き、電力供給に専心の經營をつゞけ來つたものである。

多年の經營歴史を有するだけに、資産的にも完璧し、自己資本の蓄積も豊富であることは經營をさらに安泰ならしめる一指標といつてよからう。

大株主として光るものは日本窒素、大光興業、日本海上、右近商事の法人、個人としては村上茂登、菊谷茂吉の兩氏があり、日窒系のメンバーの色彩を潜め、駿足を自由に使驅するコンディションをもつてゐる。

現重役は社長小倉武之助、常務尾崎逸平、同時久龍太郎、同木下與九郎、同小林儀三郎、同大沼正一郎、同中井清三郎、取締役堀川淳一郎、同八十島五郎右衛門、同菊谷茂吉、同平澤喜介、同藤田聯藏、同清水榮次郎、同松井邑次郎、同方義錫、同川畑清藏、同林良作、同梅崎延太郎、同青柳八百造、監査役松崎充義、同大島英吉、同岩村隆、同葭濱信夫、同小倉安之の諸氏等が就任してゐる。

而して當社の十五年四月決算營業成績を一瞥すると、

〔資産負債〕	
株主資本	八、九二二
外部負債	七、三五四
使用總資本	一六、二七六
固定資産	一二、二八四
投資勘定	八〇七
流動資産	三、一八五
〔收支計算〕	
收入	三、七三三
支出	三、〇〇九
利益	七二四
固定負債却	二二〇
償却年率	三%五

さらに利益方面を視てみると、利益率二%〇八、配當率一%〇〇、保留率四%五七を示し、座標に光る成績面を發展せしめてゐる。生擴の波浪は高度國防の建設に表裏して進展を一刻の停頓すらもゆるさない。北鮮開發は國策の命題完遂の巨大性を昂揚してゐる。當社の將來觀は殷盛多端といふ文字にぬりぶされてゐる。

朝鮮電力株式會社

當社は朝鮮に於ける一般電力の經營にあたるもの、本

店を京城府大平町通に設置し、昭和十年七月の設立、現有資本三〇、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込済の一大電力會社である。

出資關係の方面に視角を轉移して見ると、南鮮合同、南鮮水力、東洋拓殖、山一證券、東電證券等の一流業界のメンバーが参加してゐるのは異彩を放つてゐる。

而して事業の經營も敍上の會社と有機的關聯を進め得られる好上の條件にあり、技術、設備の方面にも共通表裏に立つことは、自社の企業効率に内面的寄與を望み得られやう。

現重役陣は、社長小倉武之助、専務井上清、同市吉崇治、取締役香椎源太郎、同古谷脩一、同石津龍輔、同松井邑次郎、同上内彦策、監査役裏松友光、同樋口虎三、同青柳八百造、同澤田豐文の諸氏が就任してゐる。

以上の顔觸れは何れも電力企業界のビツク・メンバーであり、小倉武之助氏は南鮮電力の社長として専ら經營にあたり、當社の代表を兼ねてゐるのは注目し値すると同時に、兩者の紐帶強化を具現するものと見てよい。小倉氏は業界に於ける白眉として指導原理の方向に巨像を華昇する人物である。

今こゝに當社の十五年八月の營業成績の面貌を検討するに――

六、〇〇〇、〇〇〇圓の業界隨一の新進花形の登場、さうらに火力發電の開祖として史的發足の闡明を記録せしめてゐるものである。

火力發電に依存する企業の特種性は、水力發電の備賦を完補する關係からもその性能を益々高價に評量されてきた。

火主水從主義が生擴フルの基本的理論をもつてきたことに鑑みても、朝鮮に火力發電が創立され、その實現を見たことは欣ぶべきことである。

火力發電の鼻祖の緒をきつて立ち上つたる當社が、電力界の時の舞臺に華々しい登場を開展せしめたことは、近頃業界に放つ異彩といつてもよい。

當社の巨大出資は殖銀、日本高周波、京春鐵道、朝鮮貯蓄、朝鮮信託、金剛山電氣、三菱同濟會、西鮮合同を挙げねばならない。

創立早々であることは、業績の全貌に及んで検討する技術分野をもつてをらない。與ふる時日を借し、借すに巨大の物的、人的資本を以てしなければならぬ。火力發電の開祖であるといふばかりでなく、當社の電力視野の客觀的意義は國策會社と表裏し、この相似性に企業を昂揚せしむる必要があらう。火力發電がいよゝ萌芽し開花される時代が來れば、全鮮企業の生擴はさらに飛躍

〔資産負債〕	
株主資本	三〇、九九〇
外部負債	二六、四二八
使用總資本	五七、四一八
固定資産	四〇、三三三
投資勘定	一四、三三五
流動資産	二、七五〇
〔收支計算〕	
收入	二、二七八
支出	一、五九九
利益	六八〇

まだ創業日尚ほ淺きに拘らず右の成績を擧ぐることを得たるは、經營の指導對策の良好に原因されるものといはねばならぬ。利益率は〇%四五、配當率は〇%四〇、保留率は一%一八を示し、新進會社の新銳力を反映せしめてゐる。

斯くして當社は向後の推進氣勢を昂騰し、拍車にかけ發展記録を見せるであらう。

漢江水力電氣株式會社

當社は京城府黃金町一丁目本社を有し、昭和十四年二月の設立、公稱資本金二五、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込

化され、水力発電の不足量は之れによつて、スムーズにカバーされて、文字通りの電力フル化は達成されるであらう。

当社に就任したる重役陣は、社長有賀光豊、専務林茂樹、常務本間孝義、同金谷要作、取締役牛島省三、同山口重政、同高橋省三、同櫻井小一、同金漢奎、監査役小林采男、同金季洙、同田川常治郎氏の諸氏である。さらに、當社の十五年六月の決算成績を指摘して見ると――

〔資産負債〕	
株主資本	六、二五〇
外部負債	一六、三三五
使用總資本	二二、五八五
固定資産	一七、一一八
流動資産	五、四六七
〔収支計算〕	
収入	
支出	
利益	

を計上し、配當率は五分を記入し、利益率、保留率の採算技術は設立日尙ほ浅いたため後日の機會に譲ることにした。

京城電氣株式會社

當社は本社を京城府大門通りに置き、明治四十一年九月の設立、電燈、電氣鐵道及び自動車、瓦斯及び副産物の製造販賣を營業とし、現有資本金二三、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込一七、〇〇〇、〇〇〇圓の會社である。

業界の鼻祖とも謳はれる史的発展の業績を有し、經營に萬遺憾なき擴充を行ひ、時局下の生産戦に電力を供給してゐることは特筆すべきものがある。大株主として第一生命、大橋本店、朝鮮信託、朝鮮商銀、朝鮮貯蓄が挙げられてゐる。

資本構成に背後的支配桎梏の紐帯をもたないことは、經營當局者の自由使驅を専らにし、業績のスムーズなる發展はこれに基臺するものを見逃してはなるまい。

現重役は社長大橋新太郎専務武者鍊三、常務見目徳太、取締役澁澤敬三、同石坂泰三、同吉谷専吉、同福島行信、監査役関大植、同大本倉二、同平井秀雄、同中村孝吉の諸氏が就任してゐる。

毎期一割といふ好配を續行し、利益率二%四七を擧げてゐるのを見ても、内容の優越性を窺ふに足るに餘りあらう。

さらに十五年六月の營業成績を觀測して見ると――

〔資産負債〕	
株主資本	二六、〇九三
外部負債	一一、二二九
使用總資本	三七、三二二
固定資産	三一、四七五
流動資産	五、八四七
〔収支計算〕	
収入	九、二九八
支出	七、一九五
利益	二、一〇三
固定費却	七〇〇
價却年率	四%四

を計上してゐる。株價は舊九五、〇圓、新四四、五圓を維持してゐる。内容の充實性は現階段の電力供給及び附帯事業の収益寄與によつて拍車をかけてゐる。

電力企業は基礎生産の核心性を強化せしめ、高度の生産性確保によつて、一切の戦時經濟の計畫の根幹が解決されるのである。朝鮮時局下の基地的使命遂行に表裏する當社のもつ責務は利潤を超越して公課に邁進化せしめられるものが多い。

朝鮮無煙炭株式會社

石炭は高度國防建設に對する生擴のキイ原料として、

このひとつの生産増減によつて現階段の生産運命は左右されるのである。朝鮮も石炭の國、良質炭がこの土地に無盡に埋藏され、長期の睡眠をつゞけてゐることによつて、東亞共榮圈の確立は望まれるのである。

當社の無煙の石炭は重點主義生擴の面に脊柱的地位を進めてゐる。

本店を京城府本町一丁目に置き、昭和二年二月の設立にて、現有資本金二〇、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込は半額を了し、八十五圓の値頃の株價を維持し、業績の安泰なることに折紙をつけられてゐる。

重役には會長人見次郎、常務加藤五十造、取締役大橋新太郎、同濱岡清次、同三谷一二、同田淵勳、同安宅彌吉、同鈴木四郎、同鈴木智一郎、同山本定治、同松本幹一郎、同齋藤力、監査役諸戸清六、同須藤素、同上内彦策、同山中清三郎の諸氏が就任してゐる。

大株主として三菱礦業、東拓、明治礦業、三井物産、鮮託、京城電氣の偉容なる面が輝いてゐる。

石炭増産の基底理論には低物價政策との反律命題を伴ひ、この矛盾面を克復せんとする増産計畫にはかなりの困難なるものがあつた。遂に政府の價格助成制度の實施によつて炭價の採算悪化は一應修正されたので、當社もこの恩恵によつて採算を有利の指標へと轉移せしめたの

である。故に十五年度の利益率に於ても十四年の一%二七八に對し、一%二八の比率の上昇を示してゐるのを見ても採算の向上化は知られるであらう。

今こゝに十五年三月の營業成績の一斑を指摘して見る

〔資産負債〕

株主資本	一七、〇五一
外部負債	一七、〇一八
支拂手形	一五、一〇〇
使用總資本	三四、〇六九
固定資産	二二、六一五
繰區勘定	四、六七八
流動資産	一一、四五四
有價証券	三、二七六

〔收支計算〕

收入	七八九
支出	三〇九
利益	四八〇

以上の成績を計上し利益一%二八、配當率〇%九〇、保留率二%五〇といふ優秀なる成果を擧げてゐる。

朝鮮無煙炭礦株式會社

本店は大阪市東區今橋帝國ビル内に置き、支店を平南

江西部東津面龍井里に設けてゐる。現有資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込済、大正六年三月の設立、鮮内炭礦界に於ける屈指の有望なる炭層及び鑛層を有し、出炭のテンポ率の増進を誇るものである。

毎期一割の配當を維持し、不況時代も一割を續行したのは、自己資金の蓄積化を如實に反映視せしむる指標といはねばなるまい。

比較的容易に資材の供給に達し、勞務設備もスムーズに通されたのは、生産額を恒常的に發展せしめたる原因といつてよからう。

現重役は社長濱岡清次、取締役奥村安太郎、同土居剛吉郎、同井上利助、同金澤信一、同平井仁兵衛、監査役中川太一郎、同稻垣庄三郎、同丸鬼紋七、同津田三郎の諸氏である。

社長濱岡氏は大株主として資本を代表し、經營と一元化してゐることは、經營の計畫合理化を達成するに樞軸を遂行せしめ、事業の進捗も之れに基底され起動されて拍車をかけてゐることを見逃してはなるまい。

無煙炭の一塊は叫ぶ。當社の良質炭は一流生産企業に狙はれて、このところには採算優位を獲得してゐる。こゝに十五年五月の營業成績の概況を記入して見るれば――

〔資産負債〕

株主資本	四、一七六
外部負債	一、三〇〇
使用總資本	五、四七六
固定資産	二、四一五
投資勘定	一、二九七
流動資産	一、七六四

〔收支計算〕

收入	一、三五八
支出	一、〇四四
利益	三一四
固定負債	三五
償却年率	二%九

右の成績をあげてゐる外に利益率二%三六、配當率〇%〇九、保留率二%五〇を記録してゐる。株價も六十餘圓を上廻り、安泰に維持されて慕はれてゐるのも業績の堅實と炭層鑛層の有望を將來せしめてゐる結果である。

時代の生産龍兒と謳はれてゐる石炭事業の將來は、實際の客觀情勢に照し合せても推進力を顯現せしめ、企業評價はさらに湧沸されるであらう。

小林鑛業株式會社

社長小林采男氏は多年官場生活を馳騁した閱歷を有し

謙謹高邁の人格を昂揚する實業家である。當社は氏の人格を中心として經營され、いひ換へれば當社の企業性格の嚴肅化は社長小林采男氏の有徳に基臺されてゐる。理論のシステムの設定の視角から見ても朝鮮事業界に氏の存在を得たることを欣ぶものである。

本店を京城府明治町一丁目に置き、出張所を東京、大阪に設け、昭和九年の設立、現有資本二五、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込を了してゐる。

小林氏の人的物的の二つに基底を支配されてゐるが、鐘紡、野村の資本関が株主として居並び、小林中心の經營にタイアップしてゐる。

外部配當主義をさけ、専ら自己資本の蓄積に傾倒してゐるため、配當も八分程度に止めて、内面寄與に重點してゐるところを高く評價されてゐる。小林本社を合併して、當社に一元的經營を傾けてゐることは、事業推進にあづかつて力あるものを物語つてゐる。

試みに前十五年八月の當社營業成績の外貌を記載すれば――

〔資産負債〕

株主資本	二九、八〇一
外部負債	六、〇八二
使用總資本	三五、八八三

固定資産	二五、三五七
投資勘定	一、六八八
流動資産	八、八三八
〔収支計算〕	
収入	九、八七八
支出	六、九四九
利益	二、九二九
固定償却	七〇〇
償却年率	四%九

を計上し、まことに悠々と豊かなる決算振りを發揚してゐる。利益方面では利益率の1%八五、配當率の0%八〇、保留率の5%四六のテンポを擧げてゐる。これによつても資金探算の充實化の片鱗を銘記せしむるものがあると思ふ。

中川鑛業株式會社

半島鑛業時代はまさに湧沸の最盛を示現し、全鮮の地域鑛業化はいよゝゝ現實化されるに至つた。當社は鑛物試掘探掘、精鍊加工並に賣買、鑛産物を原料とする製造工業及びその生産品の販賣を營業科目に記入してゐる。大規模の會社にあらず、中型會社としての身輕さは、騏足を拘束される機會より解放されて、自由奔馳の稼働

を試みられるといふところと、常に内容充實に力め來つて、いかなる最悪の場合にも、飛躍を可視し得ることの出来る對策の餘剰を有してゐることは當社の一大強味である。

本社を京城府南大門通に設置し、昭和十二年三月の設立、資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓を擁し、全額の拂込を済してゐる。

出資關係は法人色をさけて、個人色をとり、中川湊氏の三〇、九二〇株が座標に光を放つてゐる。會長に中川湊氏を推擧してゐるところ、彼の經營中心の特殊性を外部的にも表現してゐる。

中川氏の人格卓越は既に知られ、企業的手腕は高く買はれてゐる。氏の一業一人主義は經營の全環に張溢されて、社業の推進性もこの一面をつぶさに物語つてゐる。

現重役を記して見ると會長中川湊、社長矢鍋永三郎、常務中川太郎、取締役増永元也、同松田正之、監査役平原保、同坂田文吾の諸氏が就任してゐる。

そこで、十四年十一月の營業成績を一瞥すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	二、四八二
外部負債	一、九〇九
使用總資本	四、三九一

〇〇、〇〇〇圓、全額を既に拂込み、今後の擴張資金は増資と借入の二途を持つてゐる。むろんこの種の企業は巨額の投資力を期待され、設備の擴充の進行の線からも増資の實現は必至を見込まれてゐる。

現重役には、社長美津流石、理事佐藤實、同島村新兵衛、同鈴木敏、同三鬼隆、同小林千太郎、同津田長平、同堀川愛藏、同小笠二郎、同津守豊治、同坂本修作、監事金時櫻、同池尾與一の諸氏があげられてゐる。

國策會社のメンバーとして脊推の地位を進める觀點からも經營スタッフに課せられてゐる役割は重大を切感されるものがある。未だ早期にある企業内容を理論化することはさげなければならぬが、當社の前途は高度國防生産の面の課題からも奮進力のとみに横溢化さるべきものを窺ふものがあらう。

今試みに昨十五年三月の營業成績の一部を指摘して見れば――

〔資産負債〕	
株主資本	七、五〇〇
外部負債	六
使用總資本	七、五〇六
固定資産	六、二一〇
流動資産	一、二九六

固定資産	三、四三九
流動資産	九五二
〔収支計算〕	
収入	一、六一九
支出	一、二九三
利益	三二六
固定償却	一六三
償却年率	九%九

以上の内容を示し、夙に社内蓄積に餘裕を振り向け、外部配當主義を自ら排除してゐる。更に利益方面では利益率3%二六、配當率0%八〇、保留率7%一二といふ高率を確保してゐるところにも經營の着實が窺れやう。

朝鮮マグネサイト株式會社

マグネサイトの鑛業及び販賣を營業の主體とする當社は昭和十四年六月の設立、文字通りの新進會社である。企業に近代性を深め、生産品の需要は、時局に脚光を浴びて華々しい登場性を全面化するものである。いまだ創業時代にあるを以て、企業の完成を語る時期に達しないが、發程の闡明にして前途の有望を記録せしめてゐるあたり、當社の現實性は清新潑瀾に躍るものがあらう。本店を京城府黄金町二丁目設置し、資本金現有一、八

〔収支計算〕

収入	11111
支出	11111
利益	11111
固定償却	11111
償却年率	11111

以上の数字の如く創業時代に企業の真姿顯揚は向後に問題化されてゐる。本府總督、東拓が二大出資者として當社の經營に發言權を把握してゐることは槓杆振發に値するものがあらう。切に洋々たる前途を祝福して成果を期待するものである。

朝鮮製鍊株式會社

本社を京城府大平通一丁目に置き、昭和十年十月の設立、公稱金一千萬圓、全額の拂込を済ましてゐる。朝鮮財界の巨頭有賀光豊氏を社長に推薦して、經營を代表してゐる一事を見ても、當社の企業性格の純正を立證し得られやう。

朝鮮殖銀、朝鮮信託、漢城銀行、有賀光豊、裴應龍、中富計太の顔觸れを大株主に列せしめてゐる。

工場を長項製鍊場外十ヶ所に有し、夙に稼働に就き、設備を動員して採業化せしめてゐる。

現重役には、會長有賀光豊、社長菊地一造、事務戶澤學、常務三津正美、取締役小杉謹八、同金井允照、監査役木村雄次、同迫間房太郎、同金季洙、同中富計太の諸氏が就任してゐる。

當社十五年六月の營業成績によれば――

〔資産負債〕

株主資本	八、四四六
外部負債	二五、三二七
使用總資本	三三、七七三
固定資産	一五、四八七
投資勘定	四、八三八
流動資産	一三、四四八

〔収支計算〕

収入	一一、〇八一
支出	一一、四八〇
利益	六〇一
固定償却	二二〇
償却年率	二%八

を計上し、さらに利益のテンポは利益率一%六〇、配當率〇%八〇、保留率四%八四といふ、自己資本蓄積の増大に集中してゐる内容を見られてゐる。

この種の事業は時代の寵兒にあり、重點主義統制の面からも高度に生産性を期待されてゐる。

故に、時潮に反馳する惧れのないことは、事業行路の安泰のシグナルといつてもよからうと思ふ。

日本高周波重工業株式會社

高周波の企業は神祕の殿堂より出で天衣無縫に價值命題を決定されるに至つた。「鐵」に叫ぶ日本の生産擴充はこれによつて救はれ、鐵鑛アウタルキーはこれによつて輪廓面が浮彫された。

科學の深奥が生産化された欣喜、ひとり當社の獨占のみ歸せしむるものでない。躍進日本はこの欣喜によつて高度國防の建設化が完成されるのだ。

當社は高周波の企業完成を凱歌とし、このイキス・パチションを機會に飛躍的の増資は移行され、これによつて得たる資金を高周波の設備に動員化したのである。

本店を京城府黃金町に設け、支社を東京市麴區内幸町東拓ビル内に置いてゐる。

昭和十一年一月の設立、現有資本五〇、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込一二、〇〇〇、〇〇〇圓の資本膨脹は當社の生産機構の飛躍擴充の同義語といへやう。

現重役陣に社長有賀光豊、専務高橋省三、常務木村和夫、同安井清、同土橋國利、取締役野中増一、同有賀光則、同小林秀雄、常務監査役立川平、監査役松宮清、同

菊地一徳、顧問大久保亘、同青山彦九郎氏等のメンバーを擁し、陣容の豪華を示してゐる。

工場を城津、北品川、富山に有してゐる。投資會社として東京自動車工業、國産自動車、漢江水力電氣、朝鮮鑛業、日本マクネ・サイド化學、南陽鑛業、日本炭素工業、日本鐵鋼の諸會社があり、逐期この方面より向上せる収益が内面寄與となつて資産をうるほしてゐる。

こゝろみに十五年五月の當社決算報告を検討して見る――

〔資産負債〕

株主資本	三〇、三〇四
外部負債	一〇九、五八九
使用總資本	一三九、八九三
固定資産	六二、〇四二
投資勘定	一八、七一六
流動資産	五九、一三五

〔収支計算〕

収入	二七、二〇四
支出	二二、六二一
利益	四、五八三
固定償却	一、六六七
償却年率	一四%七

を計上し、業績利益方面では利益率六%五五、配當率〇

%九〇、保留率八%五〇の優秀なる成績をあげてゐる。
 當社の企業のコアは高次に發展し、堅價は向後の歴史
 段階を待つて高昂すべきものと信ずるものである。

朝鮮理研金屬株式會社

當社は理研産業團の一翼、外地進出の第一線に立つて
 ゐる。理研主義の理論は後廻しにして、當社は理研コン
 ツェルンの中に於て特殊性をすゝめ居るものにして、業
 績もまことに安泰裡に推進してゐる。

本社を平壤府に設置し、支社を東京市京橋區銀座大都
 ビルに設け、昭和十三年九月の設立、現有資本一五、〇
 〇〇、〇〇〇圓、拂込五、〇〇〇、〇〇〇圓、鐵鋼、ア
 ルミニウム、マグネシウム其他各種金屬の製造販賣、各
 種化學工業品の販賣を營業科目に記入してゐる。

理研特色の化學工業主義を技術水準に抽送してゐると
 ころは、當社自體の誇りを完璧視せしむるに足るもので
 あらう。

現役員には、會長大河内正敏、常務島村敬三、同田中
 寛、取締役今富祥一郎、同大塚萬丈、同加藤平太郎、同
 島田乙駒、常務監査役明石徳一郎、同河村達藏、顧問三
 木善太郎、同鎌和田良平の諸氏である。
 工場事業地は鎮南浦府山里三北川尻、仁川府松岬町、

大田府榮町をトして設置されてゐる。

投資會社の主なるものと見らるるものに、朝鮮製鋼所、
 東洋製鋼所、朝鮮理研ゴム工業、浪速機械京城製作所が
 ある。

因に昨十五年六月の成績を示すと――

〔資産負債〕	
株主資本	七、七五三
外部負債	七、九二二
使用總資本	一五、六七五
固定資産	一一、九一七
投資勘定	三七三
流動資産	三、三八五
〔收支計算〕	
収入	二五七
支出	四
利益金	二五三
固定負債却	一〇
償却年率	〇%四

を計上し、利益率は〇%六七配當率〇%五〇、保留率二
 %一六を擧げてゐる。

事業も逐次完成化に進まれ、投資會社の利益も漸次増
 大化される傾向にあれば、業績は愈々向上化に推進され

るのはむろんである。理研獨得のもつ企業技術の蓋然性
 は當社の機構發展によつて、さらに強められて行くであ
 らう。

株式 朝鮮製鋼所

當社は本社を仁川府萬石町に設置し、昭和十二年六月
 の設立、事業の目的とするものは、普通製鋼、特殊鋼、
 高級鑄物、鑛山、土木セメント及び化學用その他の一般
 機械の製造販賣を行ふことになつてゐる。

資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込金八七三、〇〇〇
 圓、大株主には富國工業、理研金屬、平野稔彦、理化學
 研究が歴倒的に株式を擁してゐる。技術及び設備も理研
 と一聯の關係に立つを以つて精度性がこの邊にも窺はれ
 てゐる。

現重役には、社長西川光次、専務平野稔彦、取締役林
 邊賢一郎、同加藤平太郎、同田中寛、同伊藤孝、同鈴木
 隆助、同岡田庸一、同新垣武久、監査役柳原龜一、同大
 崎源治郎、同福島武の諸氏が就任してゐる。

専務取締役平野稔彦氏は資本と經營とを代表し、一元
 的地位を占め、指導の推進力を驅馳する最大公約數のバ
 ランスを確保してゐる。これによつて、經營は活潑化さ
 れ業績内容の好化の樞軸となつてゐる。

この種の事業は時局の花形に核心せられて、普通鋼、
 特殊鋼の製作には技術的使驅を要請される最度水準を
 有してゐる。當社はこの方面にも偉容の地位を齎らして
 ゐる。

因に十五年五月の營業成績を指摘するなれば――

〔資産負債〕	
株主資本	九七三
外部負債	一、一一七
使用總資本	二、〇九〇
固定資産	九一〇
流動資産	一、一八〇
〔收支計算〕	
収入	三〇七
支出	二五三
利益金	五四
固定負債却	一〇
償却年率	二%八

以上の數字を計上し安泰なる營業狀態を以て一貫して
 ゐる。

さらに利益分野を展望すれば、利益率一%八〇、配當
 率〇%八〇、保留率五%一八といふ優秀なる成績を記入
 せしめてゐる。

弘中商工株式會社

當社は本社を京城府漢江通り二に置き、昭和五年十月の設立、資本金六、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込金四、〇〇〇、〇〇〇圓、鑛山、土木、電氣、工業、水利、其他一般の機械の製造販賣を營業の主要科目となしてゐる。

社長弘中良一氏の人格、努力の結晶體の史的過程を有し、弘中氏の職能的經營は業界方面にはかなりの高價を以て評量されてゐる。同氏の個人組織を樞軸として今日の大會社に發展したるものにして、法人として有機組織に邁進してゐるも、同氏の内面に流動する高次の企業精神、燃ゆる意思にルツボされるところに當社の巨大槓杆を齎らす推進力は醸成されてゐる。

同社の重役陣を擧げて見ると、社長弘中良一、専務天方好平、常務江塚惣平、取締役岩本一義、同池邊竹治、同福島又二、同宮内丈三郎、同佐藤英夫、同竹内市藏、同西橋外男、同内海仁助、常任監査役猪野清、同常房有次郎の諸氏である。

當社の製作するメーカは技術水準に卓越し、業界に好評を博し、鑛山、電氣、水利の異常の發展は製品の増大を起動化せしめてゐる。
試みに十五年五月の營業成績を検討すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	四、一四三
外部負債	八、八六六
使用總資本	一三、〇〇九
固定資産	三、六五一
流動資産	九、三五八
〔收支計算〕	
收入	八、九六六
支出	八、二四二
利益	七二四
固定費	一五〇
償却率	八%二
計上し、利益率四%九七、配當率一%〇〇、保留率八%九五といふ極めて優秀なる内容を發表して、業界に君臨を示現してゐる。	

株式會社 朝鮮機械製作所

機械メーカは量的に發展し、別言すれば質的の發展が量的に同列しなかつたことである。機械水準が重點主義の生産性に即應する質的の後退にわが生産面の脆弱なる露出を認めない。當社は鑛山、土木、製糖、セメントの機械、鑿岩機、製鋼、製鐵並に鐵槽〇〇品の製造販賣を業務としてゐる。

本店を京城府長谷川町に設置し、營業所を東京市麹町區内幸町二ノ八に設けてゐる。公稱資本金六、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込三、七五〇、〇〇〇圓、昭和十二年六月の設立會社である。
製作機械の種類が時局必需の方面に集中してゐるのは、量的にも質的にも擴充ルートを積極化せしめる指標といへやう。

現役員として、會長森輝、社長横山公雄、常務廣島敏行、取締役福島茂富、同佐竹次郎、同小林中、同佐藤政次郎、同吉田秀次郎、同小野庸二、同秋岡辰治、監査役須田政道、同大童治和の諸氏が就任してゐる。

横山公雄氏の經營的天才はいはずもがな、之れに代行する廣島氏の明腕は自他共にゆるすに十二分なるものがあり、之れに高度の技術水準をとり入れて製作する製品は各方面に至實的に尊重され需要は氾濫の状態にある。工場地は仁川にあり、時局工業に殊遇的地位にすゝめられてゐるので、資材の入手難から開放されてゐる。而して當社の十五年六月の營業成績を一覽すると――

〔資産負債〕	
株主資本	四、一八五
外部負債	五、七一一
使用總資本	九、八九九

固定資産		流動資産	
四、三三二		五、五六七	
〔收支計算〕		〔收支計算〕	
收入	二、〇五七	支出	一、七〇七
利益	三五〇	固定費	一五〇
償却率	六%九		

以上の業績を計上し、利益方面では利益率二%〇八、配當率〇%九〇、保留率五%四〇を記録し、十四年十二月の決算に比較すれば一分の増配を行つてゐる。

朝鮮重工業株式會社

當社は本社を釜山府漣仙町に置き、昭和十二年七月の設立、現有資本三、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込をすましてゐる。社名の如く重工業方面の製作事業を經營し、時局的に逞しい登場性を發揚してゐる。

事業の主なる種目は、船舶、艦艇の建造及び修理、機械、汽罐其他一般機械の製造並に修理、鑄鋼、鐵工品の製作、ダイヤル機關の製造並に修理、鐵橋、鐵塔、鐵骨一般鐵構品の製作、修理に及んでゐる。
この種の事業は、重點主義統制の上からも高次の必需

品に位してゐるのであるから、資材の供給方面にもゆとりがあり、繁忙なる業態を依然として持續してゐる。

現重役には、社長阿部脩一、取締役佐方次郎、同迫間一男、同廣島省三、同樺木幹雄、同立石良雄、同廣瀬博、同安永傳七の諸氏が就任してゐる。

大株主に東拓、三菱重工業、朝鮮殖銀、朝鮮郵船等の何れも一流のメンバーを擁してゐることは、なんといつても經營の根幹を培養するものがあらう。

技術及び資材の方面に於ても相通の關聯を有してゐるのは、經營の強味を誇る一面でもある。

試みに富社の十五年上期の成績を解剖すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	三、一三九
外部負債	二、四三九
使用總資本	五、五七八
固定資産	二、〇八六
投資勘定	三七
流動資産	二、四五四
〔收支計算〕	
収入	一、四四四
支出	一、三四九
利益	九七

を計上してゐる。創業日尚ほ浅いのと設備擴充に資金を要請してゐることは、業績収益を壓縮してゐるものといへやうが、それにしても上期に於て利益率〇%六五、配當率〇%五〇、保留率一%四七を擧げ、まことに堅實優秀の成績を示してゐる。

受託は應じきれぬ有様であり、フルの運轉を行つても及びもつかぬのは向後の事業収益率を飛躍化せしむる指標として光明の期待をもたれるものといへやう。

國產自動車株式會社

自動車事業は高度國防建設の角度から見ても、積極的發展性を有し、全鮮同業界の最高峰に位する富社の隆昌はまことに刮目に値するものがある。

本社を京城府黃金町に置き、出張所を平壤府、光州府天津に置き、自動車の部分品、附屬品の製造販賣、自動車の保管及び賣買修理並にボディ製作、株式の引受及び有價證券の取得等を營業科目とし、全鮮を股にかけて盛行なる製作と販賣に従事してゐる。

公稱資本二、五〇〇、〇〇〇圓、拂込一、二〇〇、〇〇〇圓を擁し、昭和十四年六月の設立である。

現重役陣には社長高橋省三、専務山下條太郎、常務今村藤吉、取締役中島省三、同荒井初太郎、同伊藤壽一、

同中川米明、監査役菊地一徳、同小杉謹八、同金季洙の諸氏を網羅してゐる。

創立の浅い、營業の短期なることは業績の全面に亘る検討をさげねばなるまい。

因に富社十五年四月の成績の一面を發表すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	一、四〇〇
外部負債	五、六八九
使用總資本	七、〇八九
固定資産	八四九
投資勘定	二、六二七
流動資産	三、六一三
〔收支計算〕	
収入	七一五
支出	五六五
利益	一四〇
固定償却	四八

を計上し、利益率二%四〇、配當率〇%六〇、保留率五%三三を擧げ、初期の配當としては無比の優秀堅實を記録してゐる。

富社投資の座標に鮮く唯一なるものは朝鮮殖産銀行の八、〇〇〇株が判然目立つてゐる。富社の發言權は富社

の發展性に表裏するものであることはむろんのこと、高橋省三氏の人格を中心とし、山下、今村兩氏のスタッフがブレインの樞軸として兩翼してゐることは、經營の大槓杆を支柱するものといはねばなるまい。

自動車事業は時局下の寵兒産業のメンバーである關係からも向後の推移には多大の希望と期待とをかけ、同時に収益の増大に興味をつないで差支へないものと思ふ。

龍山工作株式會社

富社は本社を京城府永登浦町に有し、大正九年八月の設立、公稱資本一〇、〇〇〇、〇〇〇圓を擁し、機關車、客車、貨車、鐵橋桁、其他の鐵道用器一切、其他鑛業、船舶の建造、産業用の機械器具の製作、修理等を行ふのである。

鐵道、船舶の機械製作に專業することは、なんといつても事業的の一大強味であり、平和産業の機械工作に見るが如き、原料資材の供給に固渇を訴える惧れは絶對にならぬ。依然として盛行なる作業を續行し得られる優越性を確保してゐる。

現重役には、社長田川常治郎、常務鈴木忠之丞、同甲斐久三郎、常務大和田望雅、取締役陣内茂吉、同石原磯四郎、同荒井初太郎、同吉田秀次郎、監査役田中三郎、

同北田常雄の諸氏が就任してゐる。

而して十五年五月の營業成績を検討してみると――

〔資産負債〕

株主資本	三、九〇〇
外部負債	五、七九八
使用總資本	九、七〇六
固定資産	三、三六五
投資勘定	二、五六六
流動資産	三、七七五

〔收支計算〕

収入	四、一一二
支出	三、五二二
利益	六〇〇
固定負債却	二〇〇
償却年率	一%一九

の良好な成績を發表してゐる。さらに利益方面を分析して見ると、利益率四%三四、配當率一%〇〇〇、保留率七%三七といふ極めて飛躍的の數字を誇つてゐるのは業界の雄とする名實を兩任化してゐる。

京南鐵道の投資が目立ち、田川常治郎氏の支配的持株は斷然と輝いてゐるのみならず、同氏が社長として名實共に經營に君臨することは、作業向上の根幹を構築する道標ともいへやう。

榮太郎、同古川貢の諸氏が就任してゐる。

當社の業績は改めて紹介するのも屋上屋を築く愚舉でもある。故にこゝではその片鱗を指摘して置くことにしよう。

今、十五年四月の營業發表決算を見れば――

〔資産負債〕

株主資本	一一二、六四六
外部負債	七〇、六五五
使用總資本	一九三、三〇一
固定資産	九九、八二七
投資勘定	四七、四四三
流動資産	四六、〇三一

〔收支計算〕

収入	五〇、三九八
支出	三九、五八〇
利益	一〇、八一八
固定負債却	五、五〇〇
償却年率	一%一〇

を計上し、各個の採算面に綽々の餘裕を示し、王者の貫位を持してゐる。さらに収益に視角を轉じてみると、利益率三%二一、保留率九%九〇といふ異常なる記録を擧げてゐる。

日傘傘下の巨大メンバーとして存在する當社は、さら

業績まことに優秀、誇りを完璧して邁進する當社の前途は多幸多福に發展されるものである。

朝鮮窒素肥料株式會社

當社は本社を威南州郡與南邑湖南里に、事務所を京城府黃金町一丁目に設け、昭和二年五月の設立、現有資本七〇、〇〇〇、〇〇〇、圓拂込六二、〇〇〇、〇〇〇圓を了し野口コンツェルンの脊柱的地位を顯揚してゐる。野口コンツェルンの足跡は全鮮及び新興産業分野を獨占し、肥料生産の比重は業界の六割を占めてゐるといふ物凄さ。戰時食糧計畫の基本的役割を握り、同コンツェルンの一翳一笑によつて肥料の生産命題は左右されてゐる現狀である。

窒素肥料、アンモニヤ、硫酸、硬化油、其他化學製品の製造販賣、石炭、明礬の採掘販賣、其他鑛業、電力の供給を行つてゐる。

事業部門が多遍に及んでゐると共に、當社の歴卷性は朝鮮の農業の運命鍵輪を把握してゐる。

現重役は社長野口遵、専務白石宗城、常務大石武夫、取締役市川誠次、同榎並直三郎、同大島英吉、同永里高雄、同古山治太郎、同田代三郎、同瀬尾大八、同原田晋磨、同坂口徳藏、同大島常喜、監査役堀啓次郎、同金田

に窒素肥料販賣會社と共に、鮮内産業界の金字塔に輝いてゐる。

窒素肥料販賣株式會社

當社は本社を大阪市北區宗是町に、支店を京城府黃金町一丁目に設置し、大正十五年十月の設立、資本金一、〇〇〇、〇〇〇圓を擁し、全額を既に拂込んでゐる。

事業の目的は日本窒素肥料會社、朝鮮窒素肥料會社及び傍系會社の各種製品の販賣を主要とするものである。むろん、日窒、鮮窒の主體に従屬化する販賣機構をすゝむるものである。

投資會社として日鮮商會社を有し、現重役には、社長榎並直三郎、専務岡崎康一、同古川貢、取締役矢鉾一男、監査役大島英吉、同時安一郎、同古山治太郎の諸氏が就任してゐる。

大株主には日本窒素、朝鮮窒素の兩社が二大主流を劃し、社長榎並氏が凡てを代表して經營に當つてゐるものである。もとより野口コンツェルンの一翼によつて販賣機構を行ふ獨立會社であるため、商事機構も單一性に富んでゐる。

肥料の價格は法文化され、この命題に立たせられて販賣操作に従事するのは、一面ハンディキャップに立たせ

られる指標をもつてゐるわけである。
 むろん販賣の収益を企業の最上目的とするものであるが、配給の公的至上命令はとりも直さず配給公課の負擔ともいへやう。

當社の商事行爲は私的利潤を脱落して公的公課に多分の推進を發展せしめてゐるのも、時局下に立つこの種事業の宿命性といはねばなるまい。
 而して當社十四年九月の營業成績を窺へば――

〔資産負債〕

株主資本	一、三六一
外部負債	三、八〇一
使用總資本	五、一六二
固定資産	二三
流動資産	五、一三九
〔收支計算〕	
收入	五九〇
支出	三八九
利益	二〇〇

を計上し、さらに利益率に三〇・二、配當率〇・八〇、保留率五三・〇を示し、非常の好成績を發表してゐる。
 日本の肥料生産、農業政策の達成推進の基盤は野口コンツェルンの存立によつて確保されてゐやう。これは高

度國防の建設と、東亞共榮圈に置き換ふ比重に値してゐる新概念をもつてゐる。

アサヒゴム株式會社

當社は本社を釜山府佐川町六〇に置き、昭和十四年九月の設立、現有資本一、〇〇〇、〇〇〇圓、全額の拂込濟。地下足袋、布靴、その他のゴム製品の販賣を營業としてゐる。

地下足袋、布靴の供給は需要に應じかね、地下足袋の製作は準〇〇製作所のメンバーとして一翼に光るものである。日本の勞働生産の高低を決定する基本生産がこの地下足袋の量に大小にあることは今更歎々する必要もないことである。當社の營業は準〇〇品の地歩にあり、時局下に華々しい脚光を放つた業態でもある。

現重役陣には社長石橋進一、常務小松壽太郎、取締役石橋徳次郎、同石橋正二郎、同朝倉宇八、同宮川三郎、監査役宮原研一、同平川芳夫の諸氏が就任してゐる。石橋同族の出資集中化にぬりつぶされてゐるところに企業性格の片鱗を示してゐる。

第一工場を釜山府佐川町に、第二工場を同府富田里に設置してゐる。原料は時局生産品の種目である關係上配給はスムーズされてゐるので、二工場共にフルの運轉を

行つてゐる。

當社近年の營業成績は、まだ創業浅いために批判すべき個別の數字をもつてをらず、次期の決算成績の飛躍を目標にして全努力を拂つてゐる。従つて茲では利益率テンポの記録をもオミットしてをくことにしよう。

何にしても、この種の事業は發展に限界をもたぬ、無限的なること、石橋同族の純化せる經營とは向後を期待する標題ともならう。尙ほ當社は時局生産の使命達成に上下を擧げ、技術、勞務を動員し、販賣商事に拍車をかけて只管成績の向上に邁進してゐるものである。

朝鮮皮革株式會社

當社は本社を京城府永登浦に、支店を大阪市浪速區榮町一丁目と奉天市大和區千代田通五九に設置して、さらに出張所を東京市神田區神保町三ノ八、京城府南大門通日華ビルに有してゐる。

明治四十四年の創立、公稱資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込金一、五〇〇、〇〇〇圓。皮革及び副産物の製造販賣、皮革原料並に皮革品の販賣、其他官廳方面の需要、外に山林經營などを事業としてゐるものである。古い歴史の傳統を有し、多彩に富める發展の資産内容を持つてゐることは當社のみの誇りであるばかりでなく

わが皮革業界の發展記録でもある。朝鮮唯一の皮革會社として時局下生産陣に雄偉を示してゐる。

現重役には、社長賀田直治、専務中川以良、同渡邊鴻一、同波多野岩次郎、同今西覺郎、取締役山下堅、同渡邊善三郎、同松本松藏、監査役賀田以武、同小林采男氏等が就任してゐる。

投資會社に朝鮮タンニン工業、再生工業を有し、大株主は主として個人色彩に蔽はれてゐる。

事業地を京城府永登浦に卜し、夙に獨歩の地位を占め當社の稼働は無比精巧を誇り、今次事變に際しては特に時局生産に繁忙されてゐる。

皮革は國策化し、物資統制に主題する計畫性を前進せしめてゐる。原料の自由主義確保を許容せず、國家命題の領域に生産性を規正されることは、收益自由主義の抑制ともならうが、當社の如き巨大資本と高度の設備を擁するものは、重點主義の強化に幸ひされる逆作用が見られ、集中的の繁忙を呈してゐる。

試みに當社十五年三月の決算成績を見ると――

〔資産負債〕

株主資本	三、三一〇
外部負債	五、五六〇
使用總資本	八、八七〇

固定資産	一、六一五
流動資産	七、二五五
〔收支計算〕	
収入	一、六四五
支出	一、二七八
利益	三六七

を計上し、固定銷却率の増大、自己資本の蓄積豊富は特に注目し値するものがある。利益率五%九六、配当率は〇%八〇、保留率は八%〇三の飛躍數字を示してゐる。従つて株價の地位も堅固に維持され、投資方面にも興味を發展せしめてゐる。

朝鮮石油株式會社

當社は本社を京城府黄金町に置き、石油其の他礦物の採掘、精製を事業の主要目的となしてゐる。

昭和十年六月の設立、公稱資本金二〇、〇〇〇、〇〇〇圓、一七、〇〇〇、〇〇〇圓を拂込み、日窒、日石の資本投下が斷然と目立つてゐる。兩社の資本投下は兩社に表裏するものであり、最高位の技術と設備を共通共存するの關聯を有することは、なんといつても事業の強大的推進力であるといはねばなるまい。石油事業の絶對性は今更説明する必要もない。利潤を超越して高度國防の

建設の第一線に使驅すべき命題下に立つてゐる。現重役は、社長橋本圭三郎、常務木村義雄、同大坪太計雄、取締役野口遼、同小倉武之助、同金季洙、同朴興植、同上内彦策、同山中清三郎、同中山彌一郎、監査役賀田直治、同山口誠太郎、同大島英吉の諸氏が就任してゐる。

投資會社として日本鑛業汽船、東亞燃料、太平洋石炭を有し、この方面からの収益寄與も見逃すべからざる評價を齎してゐる。而して當社十五年四月の營業決算を一瞥すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	二二、〇〇三
外部負債	一三、九二八
使用總資本	三五、九三一
固定資産	九、八二九
流動資産	二六、一〇二
〔收支計算〕	
収入	二〇、三八七
支出	一七、四〇〇
利益	二、九八八
固定負債却	五〇〇
償却年率	一〇%一

まことに優越安泰なる數字を記録し、内容の堅壁を發

揮してゐる。利益方向では利益率三%九八、配当率〇%九〇、保留率一九%〇五といふテンポを示してゐることも異彩に値するものがあらう。

當社の現階段はかくして國家至上命令の緊迫化に陣容を馳驅してゐる。

株式立石商店

當社は本店を釜山府本町一丁目有し、明治四十四年九月の創立、資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込二、二五〇、〇〇〇圓、釜山府に收島製油工場、製蠟工場を設立し、投資會社に京城トヨタ自動車販賣、立石汽船、朝鮮製油、太平洋石油、統營石油、其他を擁してゐる。油類一切の輸移入並に製造加工販賣、カーバイト、蠟燭、製綿、タイヤ其他の輸移入及び販賣、自動車に關する一切品の移輸入、石油の精製、水の製造に多角の經營を行ひ、株式會社といふもの、立石一族の資本構成によつて發展してきたものである。

之れに君臨する立石良雄氏は自ら社長の陣頭に立つて經營を行ひ、業績逐期向上し、毎期一割の配當を續行してきたことは、内容の好轉化を示す好個の指題といはねばなるまい。

現重役には、社長立石良雄、事務立石善雄、常務立石

信吉、取締役小川清、同林榮治、監査役原口佐平、同田中福一の諸氏が専ら就任してゐる。

同社十五年五月の營業成績を見れば――

〔資産負債〕	
株主資本	三、八九四
外部負債	一、三九三
使用總資本	五、二八七
固定資産	一、三一五
投資勘定	一、五二八
流動資産	二、四四四
〔收支計算〕	
収入	――
支出	――
利益	三四八

利益方面では利益率三%一九、配当率一%〇〇、保留率六%六七を示して、まことに無比の堅實なるバランスシートを作つてゐる。

それに投資會社の方面の収益寄與があるであらうから外涉的にも營業の進歩向上は期待されるものがあらう。

北鮮製紙化學工業株式會社

當社は本社を咸北吉州郡吉州邑管基洞に、出張所を京

城府南大門通り千代田ビル内に置き、昭和十年四月の設立、公稱資本金二〇、〇〇〇、〇〇〇圓、半額の拂込を了し、各種パルプ及び紙類の製造販賣、附帯事業として化學工業、鑛業、木材賣買、運輸業を営んでゐる。

資本構成は王子系の主流が浮彫的に展示され、經營スタツフ陣も同系統を以て殆んど一色されてゐる。製紙トラストの王子製紙の傘下に立つて斯業の經營を行ふことの有利と共通的有機の關係とは、當社の業績寄與の槓杆を齎すものといつてよからう。

現重役を擧げて見ると、社長高島菊次郎、副社長足立正、専務藤原喜藏、同横井半三郎、取締役大橋新太郎、同川中治朗、同井上憲一、同朴興植、同鈴木平藏、監査役韓相龍、同田邊武次、同下津謙藏、同金原邦光の諸氏が就任してゐる。

配當は毎期一割を維持し、今茲に十四年九月のバランス・シートを指摘すれば――

〔資産負債〕

株主資本	一三、二四一
外部負債	九六〇
使用總資本	一四、二〇二
固定資産	七、三六五
流動資産	六、八二五

そればかりでなく、現地調辨を完遂し得られる地域の利と、生産自然の條件の好勢を擁してゐることは、業績寄與に役立つ起動力といはねばなるまい。

〔資産負債〕

株主資本	一七、一五二
外部負債	五、四二一
使用總資本	二二、五七三
固定資産	四、二七〇
投資勘定	七、四六四
流動資産	一〇、八三九

〔収支計算〕

収入	二、九五二
支出	一、〇一〇
利益	一、九四一
固定償却	二〇〇
償却率	九%四

以上の數字を發表し、さらに利益率五%一八、配當率一%二〇、保留率七%二二といふ卓越なる成績を有し、社内蓄積テンポの逐期増大を誇つてゐる。

釜山府凡一町外十三工場を有し、投資會社として營口紡績がある。

〔収支計算〕

収入	五、七二五
支出	五、〇二二
利益	七〇三

を計上してゐる。利益分析を見ると、利益率一%四一、配當率一%〇〇、保留率二%七三を發表してゐる。

内容の華昂は株價にも反映し、當社の株價は恒常的に安泰化し六十圓臺を上廻つてゐる。

パルプ及び紙業は需要の過剰に拍車をかけ、フルの生産をしても間に合ない有様である。斯る現狀勢にある當社の収益發展はとみに活潑化されやう。

朝鮮紡績株式會社

當社は本社を釜山府凡一町に、出張所を東京市麹町區丸の内海上ビル及び大阪に置いてゐる。

大正六年一月の設立、公稱資本金一〇、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込七、五〇〇、〇〇〇圓である。

棉花の栽培、綿絲布の紡織と加工、人造纖維の製造及び加工を營むものである。

平和産業といふもの、産業地位は重要性を加し、特殊に當社の棉花栽培と纖維の技術水準は高價に評量され、優秀なる製品と加工とは噴々たる名譽を博してゐる。

この種企業は一般に國外の政治經濟の客觀狀勢に支配され、一面國內經濟の核心に計畫されるので、統制的にも法文的にもかなりの公課を負担されてゐる。

要は技術水準によつて合理經營を行ひ、原料の多産化に命題を打たれてゐる。當社の如き優秀位の企業はこの視角からも前衛に立つ對象に飛躍されるものであらう。

朝鮮淺野セメント株式會社

當社は京城府古市町に本社を有し、昭和十一年四月の創立、資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓、全額を既に拂込んでゐる。

淺野セメントの資本投下によつて組織され、同社の仔會社としてセメントの製造販賣其他セメントに附帯する事業を經營するものである。

セメントは操短に宿命されて、轉た秋風の落葉場裡にさらされ、これに苦吟をつゞけられ、その上アウト・サイドの對立によつて生産、販賣共に苦しめつゞけられ、セメントの需要は高度生産擴充を達するに基礎的資材たる一環に進められ、宿命的操短から開放されて全設備を生産に振り向けられるに至つたことは、同春の陽光の招來にも比喩すべきものがあらう。

當社は地域的にも一層の好條件に立たせられ、且つ幾

多の惠澤を包攝し、好狀の營業成績を續行してゐることは欣びとすべきものといへやう。

因に十四年度上期の收支計算を検討して見ると――

收入	二、〇六九
支出	一、六五二
利益	四一七
固定償却	二五〇
償却年率	一二・二

を計上し、さらに利益率二%七八、配當率〇%八〇、保留率六%八一といふ屈強なるバランス・シートを獲得してゐる。

當社重役陣は何れも淺野系一門の濟々を以て網羅されてゐる。

大陸の前進基地としてのセメント工業の比重は、まさに壓巻の觀を放つてゐる。當社の地域的存在は、半島産業の基礎的寄與の役目を果すばかりでなく、滿洲大陸の接産生産に多大の貢獻を發展せしめてゐることを知らねばならないのである。

京城紡績株式會社

當社は本社を京城府南大門通りに設置し、大正八年十月の設立、公稱資本金五、〇〇〇、〇〇〇圓、二、八〇〇、〇〇〇圓を拂込み各種の綿及び織物の製造加工、その他有價證券の取得、投資にまで及んでゐる。

當社の異色構成は、資本陣が何れも韓人によつて一色されてゐることである。社長金季洙氏は半島財界に君臨し、彼の事業勢力と財資の投下は全鮮産業陣に及んでゐる。さらに、同氏の社長として當社に主力を傾倒することは、一段の客觀的意義と興味とを示唆するものといへやう。

現重役には、社長金季洙、取締役崔斗善、同金在洙、同朴興植、同玄俊鎬、同崔昌學、同李康賢、同高光駿、監査役中富計太の諸氏が就任されてゐる。

茲に十五年五月の營業決算を指摘すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	五、一八六
外部負債	四、二四三
使用總資本	九、四二九
固定資産	二、五五六
投資勘定	二、六六三
流動資産	四、二一〇
〔收支計算〕	
收入	二、〇六五
支出	一、三五二

利益	七一三
固定償却	七六
償却年率	六%一

となつてゐる。さらに利益率に於ては五%〇九、配當率一%〇〇、保留率七%九五の好成绩を記録し、悠々たる安泰ぶりを示してゐる。

これを直線に反映する株價は、七八圓より八〇圓の高値を維持してゐる。

社内蓄積の集化がとみに活潑となり、企業技術の改善飛躍が生産を効率化せしめてゐるから、次期決算はさらに一段の成果が期待されるものと思ふ。

南北棉業株式會社

當社は本社を京城府明治町に有し、大正八年三月の設立、公稱資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込済、棉花の栽培、賣買及び問屋業、火災海上保険の代理業、倉庫業、製油といふ多角經營にまで觸手をのばしてゐる。

東洋棉花が壓倒的に資本構成に立ち現はれ、同社の企業特長を直寫する經營に當社の性格を窺ふ指標がもたれやう。

現經營スタッフには社長權野健三、常務北村英吉、取締役日下部輝太、同塚田公太、同淺山伊三郎、同小越知

朝、同大和田嬌、監査役齋藤六郎、同田淵武、同渡邊政雄の諸氏等が就任してゐる。

棉花栽培の事業に獨特の企業技術を有してゐる當社はこの方面にもかなりの収益率をあげ、他の多角的經營にも收入の寄與が増大されてゐる。

茲では、十五年五月の營業成績の一部だけを公開して置きたい。

〔資産負債〕	
株主資本	二、七一六
外部負債	五、六八
使用總資本	三、二八四
固定資産	七二五
投資勘定	七四五
流動資産	一、八一四
〔收支計算〕	
收入	一、三一三
支出	九四四
利益	三七一
固定償却	六三
償却年率	八%八

更に利益率に於て一%七六、配當率に於て一%二〇、保留率に於て三%五三といふ優秀ぶりを示めてゐる。

工場を全南道木浦府外八ヶ所に置き、投資會社に新光織物がある。

大株主には、東洋棉花の獨裁性が閃いてゐる。別言すれば三井財閥の資本によつて賄はれるといふことは、特異の進境分野を展望せしめてゐるといへやう。

十四年五月の一割に對し、十五年同期は二分増の一割二分の配當を行ひ、益々業績躍進の商狀を指摘せしむるのほ、經營スタッフの指導力の推進の賜といはねばなるまいと思ふ。

當社の將來觀は、この邊にも萬幅の興味が示現されてゐる。

東亞蠶絲株式會社

當社は本社を京城府漢江通に置き、大正七年の設立、資本金一、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込二五〇、〇〇〇圓。

桑田蠶種、繭及び生絲の生産販賣、其他の委託、蠶絲業に關する一般機械器具の製作販賣を營むんでゐる。

外貨獲得の役割に時の光をあびて登場したる蠶業増産計畫も、國內食糧増産計畫とは相剋の命運にあり、蠶業統制の一面には幾多の矛盾の過程を描き出してゐる。

朝鮮と内地とは地域的に同軌に論議を許さないであらうが、輸出を優先する戰時經濟の至上命令下に立つ蠶絲

業は、經營を歪曲化される惧れは絶對にあるまい。

當社は、京城、密陽、春川、安逸、順川、博川等に蠶種製造所を、西平壤に製絲場を、京畿道松坡道に桑苗園を有し、この外に投資會社として朝鮮玉繭工業がある。

重役陣には、社長小賀野清藏、取締役坂口二郎、同平野吉左衛門、同遠藤順治、常任監査役富田徹三、監査役磯部隆治等の諸氏がある。

今茲に十四年十二月の資産負債と收支計算を指摘すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	二八三
外部負債	一二三
借入金	八三
使用總資本	四〇六
固定資産	二二七
流動資産	一七九
預金現金	二五
〔收支計算〕	
収入	三五一
支出	三三四
利益	一七
固定負債却	
償却年率	

を計上し、利益率〇%六八、配當率〇%五〇、保留率一%一八を發表してゐる。遂期前進的収益をあげ、業狀の向上改善化は注目に値するものがある。

全鮮蠶業界の母胎の役割をなしてゐる當社の事業發展こそ、實に半島農産のバランスを決定せしめる樞軸指標といふべきである。

日本穀産工業株式會社

當社は本店を平壤府船橋里に置き、昭和五年四月の設立、資本金七、六〇〇、〇〇〇圓、拂込は全額を終了してゐる。元日本コーンプロダツ株式會社を昭和八年一月資本金一千萬圓に減資し、日本穀産工業と改稱し、三菱系統の經營に移されたものである。

事業目的は、澱粉、葡萄糖、穀糖、飼糧油、其他穀類、又は野菜を原料とする産物の製造並に販賣、附帶物品の賣買及び取引、原料製品の保管と運搬、輸移出入等である。

現時下の食糧問題、糧穀統制計畫の須上に立たせられる事業昂揚性を多彩に發展せしめ、而して戰時國民經濟に多大の寄與を齎し、當社の貢獻的評價は高く認識されてゐる。

現重役及び株主の關係は後日に廻し、當社の製品種別

を舉げて見ると、コーンスターチ、コーシユカー、鉛、ソラオイル、葡萄糖、グルーテン、フェールドが舉げられてゐる。

營業内容についての検討は別として、當社の現狀勢は重要な地位にあり、穀産工業によつて糧食計畫の基本對策のプランが立つわけである。

この觀點からも當社の工業的價値は獨り自社の収益のみに委ねるをゆるさず、食糧の計畫前進の上からも極めて認識を深化すべきものである。

當社はこの使命を達成すべく犠牲を拂つて穀産工業化に物的、人的の總力を傾けてゐる。後日の機會に資産内容と經營スタッフの系統を紹介することを茲に約束して擱筆することにする。

朝鮮製粉株式會社

當社は本店を京城府長谷川町に置き、昭和十一年七月の設立、資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓、一、五〇〇、〇〇〇圓の拂込を了してゐる。

工場を京城府永登浦、鎮南浦府港町、海州府清風町に建設し、稼行に全力を傾けてゐる。

日清製粉の傍系會社であり、投資構成も同社によつて獨占されてゐるといつてもよい。従つて技術と設備とは

最優位を誇るものにして、製粉技術の深奥をこれに傾倒してゐることは業績増大に一大寄與を現現してゐる。

現重役には取締役恩賀太一郎、同正田貞一郎、同森田一郎、同正田英一郎、同標智吉、同岩本徳太郎、監査役星野唯三、同加藤徳雄の諸氏が就任してゐる。

以上の如く経営メンバーも純日清製粉の一角につぶされ、他に異分子を交錯してをらないところに、企業純化の發展性が確保されてゐる。

糧穀統制は、この種の企業をかなりに桎梏せしめてゐるといふものゝ、製粉の増産達成は原料數量をスムーズに供給せしめる源泉ともなり、地域的にも當社はこれに惠澤されてゐるものが窺はれてゐる。

製粉の増産は、東亞共榮團の確立に密接不可分性を有し、製粉業狀の擴大化はまさに國策化されてゐる現狀にある。

外地進出の第一線に立つ當社の前進性はこのところには光芒を放ち、業績はこれが直射を受けて躍進のテンポを上昇してゐる。

朝鮮麥酒株式會社

當社は本社を京城府永登浦に、出張所を東京市京橋區に設け、昭和八年八月の設立、資本金六、〇〇〇、〇〇〇

〇圓、半額の拂込を済ましてゐる。

大日本麥酒の資本陣營によつて組織され、同陣營に依存する強化性によつて企業を高次にすゝめてゐる。麥酒其他清涼飲料水醸造販賣、食糧品、化學品、藥品、賣藥部外品製造販賣を事業主目に列記せしめてゐる。

現重役には、會長大橋新太郎、社長高橋龍太郎、取締役関大楨、同渡邊得男、同山本爲三郎、同田中忠治、監査役韓相龍、同笠原十司、同酒澤吉司の諸氏が就任してゐる。

今試みに十五年五月の資産内容を披瀝すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	三、六〇六
外部負債	一、二二七
使用總資本	四、八三三
固定資産	一、八六一
流動資産	二、九七二
〔收支計算〕	
収入	二、七〇九
支出	二、四八三
利益	二二六
固定償却	八六
償却年率	九%二
を計上し、利益率一%七四、配當率〇%八〇、保留率四	

%九一を指摘せしめてゐる。

時局下の斯業は販賣及び配給の方面にも相應の拘束をうけ、生産費の昂騰と價格の公定化の相剋關係は容易に克復排除しがたいものがあるが、一面副次的の――副業的利益の寄與の湧沸は相剋關係の不利をカバーするに足るものがある。

當社は朝鮮に於ける隨一の麥酒企業として自他共に權威を示し、殆んど獨占的地位を縱横に使驅することは、業績發展を培ふ核子である。

同社に双翼するものに、昭和麒麟麥酒があるが、競争團を互に超越して、同業の和平發展に經營をすゝむるにあたり、こゝにも時局産業色はくつきりと描き出されてゐる。

昭和麒麟麥酒株式會社

當社は本店を京城府永登浦に設け、支店を東京市京橋區二明治屋ビルに構へ、昭和八年の設立、資本金三、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込一、二〇〇、〇〇〇圓、キリンビールの傍系會社である。

朝鮮麥酒と相對し、二大麥酒會社として營業するものであり、兩者とも麥酒界に權威あるもので、共に最新性の技術と經營とをとり入れて高度の發展に資してゐるも

のである。

總株の大半数は殆んどキリンビールで專有し、同社と表裏一體の關係にあり、いはゞ出店にひとしい觀を放つてゐる。

現重役としては、社長伊丹二郎、専務磯野長藏、取締役金季洙、同平沼亮三、同淺野敏雄、同大河原太郎、同八坂卯三郎、同坂口重治、監査役山岸慶之助、同諏訪藤之助の諸氏である。

而して當社十四年度九月の營業の外貌を一瞥して見る

〔資産負債〕	
株主資本	一、九三二
外部負債	一、五〇九
使用總資本	三、四四一
固定資産	二、〇七四
流動資産	一、三六七
〔收支計算〕	
収入	三、八二六
支出	三、四五七
利益	三六九
固定償却	一〇〇
償却年率	四%八
を記入してゐる。さらに利益を検討すれば利益率三%〇	

八、配當率〇%八〇、保留率六八六の好成績を示し、異常の業状を以て發展してゐる。

ビールは地域的の生産性格を有し、それ〴〵地域的的特殊事情によつて生産が確保されてゐる。朝鮮ビール界は内地と異なる地域的好條件を把握してゐることなどは、一面業績飛躍の奇與を視野せしめてゐるものといはねばなるまい。

釜山水産株式會社

當社は本店を釜山大橋通りに設け、明治四十年四月の設立、資本金二、〇〇〇、〇〇〇圓、一、〇〇〇、〇〇〇圓の半額を拂込み、魚市場、鰻、鮪製造販賣、製氷及び販賣、冷凍及び冷蔵の事業を經營するものである。

この種の事業は平和産業なれど、國民生活に必需關係にある爲め、各方面からその存在性は重要を以て殊遇され、水産市場機關として役割を高展せしめてゐるものである。

魚市場機構改革の是非はしばらく措くとして、當社經營の魚市場機能の全面發展化は、當地方民衆の生活に寄與するものが多大である。

現重役には、社長香椎源太郎、常務税田谷五郎、取締役迫間房太郎、同坂田文吉、同山本利吉、監査役井谷儀

三郎、同白石源三郎の諸氏である。

而して當社の十五年上期の營業成績を見るに――

〔資産負債〕

株主資本	一、八一四
外部負債	四八六
使用總資本	二、三〇〇
固定資産	八四九
流動資産	一、四五一

〔收支計算〕

收 入	六五七
支 出	四六六
利 益	一九一
固定償却	五五
償却年率	一二%九

を示し、利益率三%七八、配當率一%〇〇、保留率六%八六といふ飛躍的の業績を記録してゐる。市場機關としてのいかに推進的機能を發揮してゐるが、聊か片鱗を窺ふに足りるであらう。

魚市場機關の機構前進は、食糧問題計畫化と不離不即の關係にあり、前者の紐帯を強化するのは、後者の發展性に表裏するものである。社長に香椎源太郎氏を頂き、これを補佐する常務税田氏の人格と手腕とは、機能推化の樞軸をなすに足るものがある。今後の活躍は、食糧の

高推に伴つて拍車をかけられるのは無論である。

朝鮮油脂株式會社

當社は本社を京城府長谷川町に、出張所を東京市麹町區丸の内二ノ一二に置き、昭和八年十月の設立、現有資本一、〇〇〇、〇〇〇圓、内八、四六〇、〇〇〇圓を拂込んでゐる。

油脂、脂肪酸、石鹼、グリセリン及び蠟燭製造並に加工、魚脂及び魚粉の加工業を事業としてゐる。

油脂事業の多邊的經營なることは既に世人に了解されてゐる。當社は日本油脂の自立つた出資によつて構成され、同社の一傘下メンバーとして存在するものである。

日本油脂の機構を直譯化してゐるのは尙んといつても經營の強味であるばかりでなく、短日月にして異常の成績を擧げ得たのも之れに原因を深化されてゐるものと見られやう。

現重役として社長に松本伊藏、取締役馬上福壽、同安久津住右衛門、同巢籠種一、同二神駿吉、同杉山威士、同久保田四郎、同飯山大平、監査役長崎茂、同中谷繁三の諸氏が就任してゐる。

こゝろみに當社の十五年五月の營業報告を再録して見れば――

〔資産負債〕

株主資本	九、五七八
外部負債	一四、三四三
使用總資本	二三、九二一
固定資産	一一、六〇一
流動資産	一二、三二〇

〔收支計算〕

收 入	一三、〇四二
支 出	一二、三四七
利 益	六九五
固定償却	二九〇
償却年率	六%一

以上の成績を計上し、利益率に一%六四、配當率に〇%六〇、保留率に六%一六を示してゐる。自己資本の内積の積極化に傾倒してゐる視角はこれによつて立證されてゐる。

油脂事業は平和産業の一翼といふものゝ、用途の方面は、時局に多彩の浮彫を露呈してゐる。従つて、事業も推進的、建設的に發展し、逐期内容を好轉化せしめてゐる。

さらに、楨杆の役割を與へる日本油脂との一體化的の經營は、完補相關を發展せしめ、一面經營の合理化計畫化に寄與するものがあらう。

協同油脂株式會社

當社は本店を京城府瑞麟町一丁目、出張所を東京市京橋區銀座西六ノ三に設置してゐる。昭和十二年三月の設立、資本金五、〇〇〇、〇〇〇圓、既に全額拂込を了してゐる。

朝鮮油脂と同種の事業を經營し、出資メンバーとして朝鮮錫油聯合會をはじめ三井物産、成北錫油肥料、二神駿吉、成南錫油、江原錫油、慶南漁業等が光つてゐる。清津、三陟に工場を有し、社名の如く協同組織を代表する油脂事業である。

以上の如き株主の構成メンバーは相互に自社の體験と長所を挿入し、これを珠玉として經營にあたるものである。當社が新進會社であるのにも拘、リード的發展を示したのも、これらに起動されてゐるものを見逃されぬ。

現重役には、社長大島良士、常務三雲次郎、同平山季明、同三好孝、取締役川本彰一、同飯澤清、同辛良樹、同宮本照雄、同西原弘、同鹿環薫、同本田米市、同天野郡治、同三好佐太郎、同池淵祥次郎、同上山正樹、監査役木村寛藏、同黄本雲天、同加藤淺五郎、同西正治、同三木源吾、同山中清三郎の諸氏が就任してゐる。

さらに當社十五年三月の成績を検討して見れば――

〔資産負債〕

株主資本	五、六七六
外部負債	一〇、七五九
使用總資本	一六、四三五
固定資産	七、五六二
流動資産	八、八七三

〔收支計算〕

収入	五、六六五
支出	五、〇六九
利益	五九六
固定償却	三〇〇
流動償却	八〇〇

以上の如き堅實なる成績を計上してゐる。利益方面を指摘すれば、利益率三〇・八、配當率〇・八〇、保留率六〇・八六といふ比率を發表してゐる。

當社の油脂事業は斯かる有望なる業績裡に安泰なる發展を續行しつつある。

朝鮮林業開發株式會社

當社は本店を京城府南大門一丁目に設置し、昭和十二年九月の創立、公稱金二〇、〇〇〇、〇〇〇圓、拂込金四、〇〇〇、〇〇〇圓をなし、造林事業、製材事業、林

産物の販賣、委託に依る林野の經營、その他の林業の開發のために必要なる事業を行ふことを營業科目に記入されてゐる。

林業開發がいかに刻下の緊急問題であり、之れに期待する全鮮産業の推進的評價に於ても、當社の事業はその必要と發展性とを要望される時局的指標といはねばなるまい。

東拓、王子製紙、三菱社、三井合名、住友本社、第一生命の出資構成に輝いてゐるのを見ても、企業性格の一面を窺知するを得らるべく、さらに資産内容の堅實を保證し得られやう。

國策會社の一翼として林業開發の命題に經營を推進せしめる當社は工場地を慶尙北道榮州面、江原道春川邑、咸鏡南道咸興府、元山府に建設してゐる。

現重役に列するものは社長渡邊豐日子、理事伊藤重次郎、同足立利夫、同小林準一郎、監査役韓相龍、同賀田直治の諸氏である。

當社十五年二月の營業成績の一斑を披瀝すれば――

〔資産負債〕

株主資本	四、一七五
外部負債	七一〇
使用總資本	四、八八五

・固定資産

流動資産	二、三二七
	二、五六八

〔收支計算〕

収入	二一〇
支出	四三
利益	一六七
固定償却	一四
流動償却	〇・六

を計上してゐる。さらに利益テンポを記録すれば、利益率〇・五六、配當率〇・五〇、保留率一〇・二といふ國策的の堅實な採算を行ひ、事業集中本位に積極的經營に努力してゐる。

農業生産の核心性を有する林業開發は、朝鮮經濟の積極的の槓桿を振發すべきものである。國策會社がこの視野に登場したことは、向後の開發に甚大なるものを期して俟つものが多い。

親和木材株式會社

當社は本店を京城府竹添町二丁目設置し、昭和九年十二月の設立、公稱資本六、〇〇〇、〇〇〇圓、内三、二五〇、〇〇〇圓を既に拂込んでゐる。

森林伐採業、木材擔保金融業、木材賣買の仲介業を營

業の主要科目となしてゐる。

東満洲産業、親和企業の大株主を有し、中村直三郎氏が一切の經營を代表してゐる。東満洲の社長を兼ね、朝鮮、満洲に企業駿足を馳せ、人氣に登場する氏が社長として經營に樞軸することは、これ以上の安泰なる指標はあるまい。

現重役には會長松下榮、社長中村直三郎、専務石原新造、常務前田節三、取締役中村五郎、同平澤喜介、同崎谷重吉、同齋藤久太郎、同衛藤秀吉、同古城憲治、常任監査役堀清之、監査役山本高次、同榊原明の諸氏が就任してゐる。

因に當社十五年五月の決算報告を解剖すれば――

〔資産負債〕	
株主資本	三、九六〇
外部負債	一、五三一
使用總資本	五、四九一
固定資産	四九七
投資勘定	二、四六九
流動資産	二、五二五
〔收支計算〕	
収入	一、七一〇
支出	一、三四三

利益金	三六七
固定償却	一三
償却年率	五%三

の數字を發表してゐる。さらに利益率に二%二六、配當率に一%五〇、保留率に二%八九をあげ、一割五分の配當を行つてゐるところは業界の異彩異景に値するものがある。

木材事業經營の會社は數社があり、いづれも企業分野に特殊性を賦與されてゐるが、當社の如き合理的、建設的經營に幸ひせられてゐるものはすくない。中村社長の事業手腕はこの邊にも百%に光輝を投げてゐる。

新義州製材株式會社

當社は本社を新義州府鴨川町に設置し、昭和十三年三月の設立、資本金一、五〇〇、〇〇〇圓、全額拂込済、木材の賣買並に委託賣買、製材製函及び枕木、山林伐採を事業とするものである。

新義州、平壤、平北に工場を設け、積極的に事業を遂行し、國策的命題に點據し、利潤を超越して専ら經營に従事してゐる。

現重役陣には、社長柴田祐光、専務長澤照男、同横江知通、常務石崎操、同田中清、同竹内治一郎、取締役田

中喜一、同丸田信太郎、同車文國、同村上弘一、同宋寛哲、同高木延藏、同中村得一、同生越伊助、監査役和田賢太郎、同金亨洙の諸氏である。

試みに當社十五年三月の成績を再録して見れば――

〔資産負債〕	
株主資本	二、三一八
外部負債	五、三六六
使用總資本	七、六八四
固定資産	二、〇八七
流動資産	五、五九七
〔收支計算〕	
収入	六、三七七
支出	五、八六二
利益金	五一一
固定償却	一六三
償却年率	七%〇

を計上し、利益方面を分析すれば利益率三%四三、配當率〇%八〇、保留率六%九八の優秀堅實なる利益を獲得してゐる。

社長柴田祐光氏は當社の大株主として資本を代表し、資本と經營を兼ねて社長の地位につきたることは、點睛に値する責任ポイントといつてよからう。同氏を樞軸とする事業の經營は昂揚湧沸に指標し、創立日淺いが異常

の成績を獲得してゐるのもこれに大半原因されてゐるといつてもよからう。

日本硬質陶器株式會社

當社は本社を釜山府瀟仙町に置き、大正九年六月の創立、資本金三、七五〇、〇〇〇圓、九三七、五〇〇圓を拂込んでゐる。

事業の目的は、西洋食器一般、日本食器、朝鮮食器、満洲食器、タイル一般、特種雜品の製造販賣及び輸出である。

用途の廣汎なる事業であり、生活必需品の器具の製造販賣であることは、營業を全面的に積極化せしめ、収益力を擧げる源泉ともなつてゐる。

名は平和産業であるが、別に資材原料の統制規正を蒙らず、ために平穩なる状態に營業を續行し、安泰なる成績をあげてゐる。

現重役には、社長香椎源太郎、副社長香椎宗太郎、常務上山節、取締役倉知鐵吉、同福島源太郎、同横井伊佐美、監査役井谷儀三郎、同大島居信光の諸氏である。

香椎一族が重役の樞軸をなし、専ら經營に全身を傾倒してゐるのは、當社の比重性を昂揚せしめてゐる。

十五年七月の營業成績を検討すれば――

〔資産負債〕

株主資本	一、一九二
外部負債	六三〇
使用總資本	一、八二七
固定資産	一、二〇二
流動資産	六二〇

〔收支計算〕

收入	一、〇四二
支出	一、〇一九
利益	五四
固定償却	—
償却年率	—

を計上し、利益率は一九、配当率〇%六〇、保留率一%七六の好成绩をあげてゐる。工場は釜山、金澤市に建設してゐる。

特殊の会社であるだけに、競争対象のないことは、なんといつても、経営の強味である。創立も古い歴史を有し、技術水準も傳統に輝くものを誇つてゐることは、製品の優秀市價昂揚を發展せしめてゐる。

親和貿易株式會社

當社は本社を朝鮮京城府に有し、昭和八年六月の設立にて、資本金一、〇〇〇、〇〇〇圓、全額拂込済の會社

〔資産負債〕

株主資本	一、一六一
外部負債	二、〇三五
使用總資本	三、一九六
固定資産	一、一〇〇
投資勘定	九〇八

である。事業地を羅津、圖們、敦北、蛟河、琿春、牡丹江、佳木斯、勃利、密山、清津等に有し、建築材料、穀類、肥料、油類、和洋酒、雜貨類、機械類、飼料の賣買、鐵工業、諸代理業、海陸運輸業に及んで營業を行つてゐる。貿易による國境及び大陸の發展は、いはゞ開發のルートともいふべきもの、物資交易の量によつて經濟のテンポは決定されるのである。當社の役割はこの方面に多彩の評價を維持發展せしめてゐるといへやう。

現重役には社長中村直三郎、副社長中村五郎、専務山本高次、常務高木矩一、取締役石原新造、同古城憲治、同吉田敬直、同高良弼、監査役前田節三、同山田茂太、同片野文治の諸氏である。即ち中村東滿系によつて資本構成と人物構成を見ることは、さなきだに事業推進の強靱を窺はしむるに足るものがある。

而して當社十五年五月の營業成績を見るなれば——

流動資産

一、一七八

〔收支計算〕

收入	四、四八九
支出	四、四一五
利益	七四

さらに利益方面では利益率一%一五、配当率〇%六〇八、保留率一%七六を記録してゐる。優秀なる内容面は之れによつて立證することが出来る。

朝鮮都市經營株式會社

當社は本店を京城府黃金町に有し、資本金五〇〇、〇〇〇圓、半額の拂込を了してゐる。都市に於ける土地建物の建設賣買、貸借、管理、處分、其他の經營に關する一切の行爲、委託に依る前記の事項の代理店業務を行ふを營業の主要科目としてゐる。

都市經營の事業は極めて公益計畫施設に富むものにして、營利を超越して利用厚生に寄與するものが多い。當社經營の特色はこの邊に浮きぼり出されてゐることが窺ひ知られる。

東拓の出資獨裁ともいふべき株主構成を有してゐるところにも、とみに公益性格の發揚色が顯示されてゐる。毎期一割の配當をつとけてゐるところからも、資産内容

〔資産負債〕

株主資本	四四二
外部負債	七、一〇四
使用總資本	七、五四六
固定資産	五、五二六
流動資産	二、〇二〇

〔收支計算〕

收入	二七八
支出	二四四
利益	三四
固定償却	二
償却年率	〇%一

の内容を計上し、利益率二%七三、配当率一%〇〇、保留率六%一七といふ蓄積の好化を採算してゐる。

當社の向後は都市分野の發展テンポと近代色との昂揚に一段の推進力が展示されるものと思ふ。

の堅實なるものが確保されてゐる。

現重役陣には専務青木大三郎、取締役正木範二、同岸本義廣、同蘆高泰三、同豊島重剛、同和泉泰、監査役小田武夫、同韓相龍の諸氏等が就任してゐる。

事業地を鮮内各都市に設け、近代都市機構の擴充線を専ら伸展せしめてゐる。

因に當社十五年四月の決算報告をあげて見れば——

躍進東亞經濟

大阪商船株式會社	東亞海運株式會社	日本郵船株式會社	日本海汽船株式會社	不二越鋼材工業株式會社
日本石油株式會社	日本製鐵株式會社	山一證券株式會社	野村證券株式會社	石原產業海運株式會社

躍進東亞經濟

鐘淵紡績株式會社	東洋紡績株式會社	東亞金屬工業株式會社	兵庫縣石油販賣株式會社	株式會社 岩井商店
----------	----------	------------	-------------	-----------

ビールで
体位向上

エビスビール

には麥芽糖・蛋白質
アミノ酸・磷酸鹽等
人體に必要な成分が
ごく吸収され易い
かたちで含まれて
をります





子供保険の最高峰
 加入者 百五十餘萬人
 契約高 拾參億圓突破
 護れ子寶・興亞の力!!

險保世出・險保兵徵

富國徵兵

總義田吉長社 谷比日・京東社本

政 經 篇

東亞共榮圈の意義と滿洲國

なにもかも、大東亞共榮圈の建設的靑寫眞の中に史的命題を發展せしめねばならないのは日本の現階段である。別言すれば、これを構圖化するために、政治部門にも、經濟部門にも、文化部門にも、新體制が要請されるのである。新體制はもはや、觀念的試験管より脱出されて現實化に移行されたのである。綜合計畫の統制經濟の現階段は、新體制を以て——否この登場によつて舞臺面をきり替へねばならなくなつたのだ。

これは別に壯大的新構想にもあらず、思潮的表現でもない。斯くすることによつて、わが高度國防建設は構圖構造の基臺が設定されることにならう。

これを全面的に遂行し、遂行の適性を得ると否とによつて東亞共榮圈は完全體ともなり、畸形體ともなるべき骸子の命題を潜在せしめてゐる。この意味に於て、東亞共榮圈はあくまでも遂行的現實的の歴史的實踐性のウェールに閃揚する有機的所産でなければならない。

ところが、東亞共榮圈の構圖の實踐性、いひ換へれば、靑寫眞は現在のところ、客觀的分野の構圖がちゃんと規正されてゐない。 縱貫的にも、横斷的にも、どこまで延びてゆくことがその限界に無限大線を有してゐることである。自

然的にも、地理的にも、経済的にも、文化的にも、統一性のメンバーがはつきりされてゐない。

これをはつきりと確認せしめ、呼稱せしめることによつて、東亞共榮圏ははじめ現實性に移されることになるわけであるが、東亞共榮圏の建設の歴史的発展性は、歐洲新秩序建設の命題に宿命的の表裏性を有し、前者の建設のテンポが後者の建設のテンポとなる機構的表現をもつてゐる。そこに建設的批判を伴ふ東亞共榮圏の確立なるものは一面世界的歴史觀をもち、大廣域經濟の新性格者としての合然性をすゝめてゐるものといへやう。

共榮圏はたゞ廣さと、量とのカラー昂揚のみ専念してはならない。廣域經濟はみだりに地域的版圖を擴大し、成員國家を集中するのみが目的ではない。實にその脊柱的理論をもつものは自給自足圏の公約にあらねばならない。別言すれば自給自足のバランスに確立することによつて、東亞共榮圏の完全性は外涉的にも内涉的にも決定されるのである。自給自足は單一的量と廣さとの問題によつて規正されやうはずはない。構成メンバーのもつ原料的生産比の如何にあらう。

地域的に見劣りはしてゐやうとも、原料生産に高度の自給力をもつものであれば、構成メンバーの最適格者の資格所持を獲得されるわけである。

この視角からも、東亞共榮圏は量より質の進化選擇の指標に支配されやう。この合然的目的を達するには、所謂自給自足の擴充意圖の遂行に對しては、緯度線などの差別はどうでもよい。たとへ國際的相剋がこの前面に立ち現はれても、これを敢然と排撃するの覺悟をもたねばならない。その客觀意義の觀點からも、高度國防建設と生産力擴充は一段の換骨胎體の新體制化が要請される所以である。

生産力擴充の緊迫要請が東亞共榮圏確立の呼稱に中樞して遂行性をいやが上にも顯揚せしめてきたことは、現階段

下に立つ民族に史的運命を擔はしめたるものといへやう。これの史的運命の負擔の分析は、史的運命を決する行動の實踐性に課題されるのである。行動力の實踐を表現するにも史的民族の運命を踏さねばならない。この一面の前進的理論をもつ東亞共榮圏はあくまで生産性と國際的背刺のヴェールに進めねばならない。

戰國的生産の完遂が東亞共榮圏に表裏的の命題をもつてゐる——これを思潮的に表現すれば、全體主義的生産の完遂にあらう。さらに之れを具體的に表現すれば、自由主義的、個別的、獨善的の領域では、もはや、現階段の戰國的生産は遂行不可能なのである。綜合計畫經濟も、物動計畫も、既成の概念と舊型そのまゝの専念にとらへられては戰國生産の遂行は中斷されて終ふのである。

換言すれば、既存の綜合計畫經濟を新體制によつて再編せざれば、高度國防の生産力擴充の新展は絶望視される機會にさらされねばならないのである。これは思想の新舊、概念の表現を超越すべきあまりにも高次の史的運命の課題でもあるといひ得る。

ところが、かゝる戰時國家の切實なる要請がともすれば政策の表情によつてスリかへられんとすることである。利潤の測定による生産は絶對に揚棄せねばならない。生産の増大を利潤の測定によつて決定せんとするところに國家の要請と現在のわが産業との間に大なる構渠が設けられる因子が播かれてゐる。

増産と物價の因果關係を説くことは茲ではやめておこう。この二面相剋は宿命的二面軌道の並列に最後する宿命的理論をもつてゐる。だが、わが現時の生産力擴充は兩者の因果關係を利潤の測定から割り切るといふことを絶對に許容しない。いひ換へれば、自由主義的利潤單一の採算基地に構造される生産、配給の手段こそ、國家切實の請要に反馳する——高度國防の建設を阻止するシクナルともいへやう。

東亞共榮圈の確立は新舊思想の表現から生誕されるやうな安價なるものではない。史的命題のルールははやくも設定されてゐる。經濟新體制が東亞共榮圈と合然性を遊離することをゆるさないのも、所謂經濟の革新構想の實現を以てせざれば、この國際危機を克復することが出来ないからである。既存的——自由主義的の批政を根本的に是正し、漂白化せねば、國際危機の浮彫はますます擴大深刻を露呈するのである。

太平洋波高し。さらに長嘯紫瀾にそなへるためにも既存の統制計畫經濟と物動計畫態様を新體制に再編せしめねばなるまい。高度の生産擴充の前進飛躍を措いて之れに代るべき國際危機克復の對策がない。國家資本の擡頭、國家信用の膨脹の蓋然性を強める豫算も、所詮は生産力擴充の革新的再編成にあらう。

いかにして鐵をより多く、いかにして石炭をより多く、いかにして電力をより多く、いかにして食糧をより多く生産せしむる重要資源の増産計畫の源泉課題にも經濟新體制の登場評價は、もはや絶對標を示唆してゐる。日本の商品市價の劣勢、矮小化——これに一聯の有機存在を維持する中小商工業の轉換面にも新體制は巨大の寄與を齎す對象となつてゐる。

重點主義の強化、量より質への單一生産擴充の樞軸遂行にも經濟新體制の創意を昂揚に探求せねばならぬ。勞働の完全雇傭、設備の完全就業が中間勢力擡頭の企業指導家によつて伸展を足踏されてゐる方向にも新體制の槓杆は巨大的役割を與へるものといへやう。

日本の生産性は一部利潤企業測定論者のいふやうに生硬化されてをらない。亦、彼等の公言するやうに再生縮少に宿命づけられてゐるものでもない。生硬化され、再生縮少化されてゐる主流を奔馳せしむるものは彼等の自由主義、個人主義のわがまゝなる利潤觀測にあらう。別言すれば私企業的に支配されたる營利本位によつて、戰時經濟の計畫

性を割りきらうとするところにある。これが因となり果となり、つひには、國家經濟認識となる脊椎を見失ふことなる。この秋にあたつて、豊田大將の商工大臣の登場、鈴木中將の企畫院總裁の就任は、視野の晦澁と昏迷を拂拭解消せしめたといへやう。現役將官が商工大臣となり、企畫院總裁となつたことは、政治の單一的強化前進の指標でもある。政治に隸屬化すべきはずの經濟が恣意に獨立化されて、政治に追隨されなかつた側面にも經濟の矛盾危機は造出されつゝあつたのだ。

經濟計畫の前進性の足踏は、一部經濟官僚指導家の机上プランの失敗のみを追求するものがある。それもはなはだしい視野の狭さを物語つてゐる。經濟官僚指導家が準獨立的人格を以て統制經濟を行ふことは、いづれの國家統制經濟に於ても共通してゐる現象である。それよりも官僚統制のヴェールに身を隠して暗躍する利潤追求の一群の存在を默視するに堪へないものがある。

さればといつて我々は徒に小市民層的のラディカルの革新觀念論を振り廻すものでもない。所詮は革新するものも、革新されるのも愛國至情に燃ゆる意欲を高度國防の建設の金線に合一集中せしめてゐることを、經濟新體制は革新せんがための革新でなくして實にこの金線の中に金筋を入れ、この堅索によつて當面の請要する生産擴充を最高限度に引上げ、機重化せしむることにある。

東亞共榮圈と世界新秩序との建設が、生産力の擴充によつて左右され、構造的性格がこれによつて明確に描き出されることの裏返しは、どこに最進推の生産基地を設定すべきかといふ義語の表現をすゝめるものといへやう。さらに之れを具體化するなれば、東亞共榮圈の生産擴張のテーマをどこに指標すべきか——指導的生産の綱權を握る成員國家が誰に呼稱されてゐるか——この視角に天衣無縫に颯爽として登場するものに大陸經濟があり、その核心基地に擬

せられてゐるものにわが満洲國の唯一的存在を擧げねばなるまい。

滿洲國は産業立地の見地からいつても、東亞の地域的指導地位を占むるものである。さらに接壤國防國家の完璧化は現地的にも工業樞軸基地の指標を高邁せしめねばならない。滿産の國防的、産業的の比重が東亞共榮圈の構成確立の上に脊椎と骨格を表現し、この生産資源の基地をもつことによつて、日本の自給自足は現實に巨歩を踏み出されるのである。インドの棉花と鐵、オーストラリアの羊毛と小麦、蘭印の石油とゴムも、むろん自給自足には不可缺の物資であるが、滿洲の鑛工業の資源はさらに東亞共榮圈の建設の間に一大クロス・アップされるものといへやう。

滿洲國の建國以前の歴史記録はこゝでは割愛していただきたい。建國以前の封建的、殖民的性格觀を記することそれ自體、今日の興隆滿洲國に對する一大冒瀆である。歴史は客觀の現實に有機的關聯を要請する強大の面をもつてゐる。その上にも興隆また興隆、興隆のテンポ上昇に拍車されてゐる滿洲國の現實發展の視野には、歴史の創造はそれからそれへと刻みつけられてゐる。

この歴史の必然性から生誕されたものは滿洲國の逞しい政治と、經濟との前進性である。後進性の資本主義特徴性を排除して、高度生産の綜合計畫によつて企業運營を行ふ積極的の面の表現——これこそ滿洲國の全體主義經濟の生産行動といふべき外観性を展示せしめてゐる。

前進資本時代に設立されたる國策的事業觀を拂拭し、現實の高度國防の最要請によつて生誕されたる生産資本には毅然たる國家企業の性格を露出してゐることだ。内地の如き理念的企業相剋はこゝでは全く姿へ解消されてゐる。國防國策に一色され、その純正の環境の中に企業採算が營まれつゝあることは純正企業の眞姿顯揚ともいへやう。

純正なる企業は、自由主義利潤の拒否に置き替へられる同義語である。滿洲企業の總合性が、この企業純正の合目

性に集中コントロール化されて、脱逸の一景すら見せてゐないことは、滿洲國政治の、高度性の結集の反映ともいひ得る。政治と經濟とが一元化され、同行通路に規正されてゐることは、官民一體化の樞軸遂行を如實に完遂せしむ最動因を成立せしめてゐる。

さらに、滿洲國の企業性格の昂揚を誇るものには、前資本主義に行れたる巨大官府の育成發達主義を努めて揚棄してゐることである。國策及び準國策企業といへども、企業に独自の發展創意をばらまいてゐることである。資本構成には官府的の性格をもつてつても、生産運營に對しては夙に自主性を積極化し、この賦與の濃化によつて責任的經營を押し進められてゐることである。

滿洲國の國策會社、準國策會社といふものに自治色彩の稀薄なるは、一面育成主義後退ともいへやう。國策會社、準國策會社が育成主義に全艦をぬりつぶされてゐることは、官業の劃一的企業の萎縮化にも比喩するものがあり、地域的、業種的の國策會社の特有普遍性をはやくも脱落して、生産自主の運營に専心してゐるあたり、まことに謙謹なる發展的性格をたゞへるものがある。

滿洲全企業が私的營利觀をすて、企業公益に優先し、別言すれば良心的、國家道德的の見地に立つて會社經營を行つてゐることは、企業の現實性がいかに國家の切實なる要請であるかを確認してゐることを説明するものである。前資本主義時代に生誕したる官業及び準官業は何れも育成他動主義によつて經營が行れてゐたのである。

國家の要請する限界線を超越して官業獨善的の企業經營を行つてきたことが、發展を遲鈍せしめたる一大原因といつてもよい。滿洲國企業の總體的の歴史的發展の主流を描いてゐる國家切實の要請といふ奔流の急流の前には理念的相剋批判の客觀的角度すら與へられない。